

レストパル

I型 床排水

手洗器あり／収納タイプ(UWB3A)

手洗器あり／スリム収納タイプ(UWB3B)

手洗器なし／まるごと収納タイプ(UWB4A)

手洗器なし／スリム収納タイプ(UWB4B)

◆“ウォシュレット”はTOTOの登録商標です。

製品の機能が十分発揮できるように、この施工説明書の内容にそって正しく取り付けてください。

本書は手洗器が左勝手を基準に説明しております。

下記商品の取り付けは、各商品に同梱の施工説明書を参照してください。

〈ウォシュレット・タオル掛け(壁付タイプ)・手すり・紙巻器〉

重要なお知らせ〔工事店様へ〕

試運転を必ず実施してください。

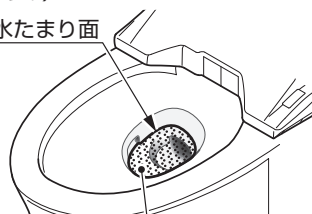
大洗浄をしたあと、水たまり面の状態を確認してください。

正常な状態

設定変更は不要です。

(設定を行うと、洗浄不良になる場合があります。)

正常な水たまり面



この面まで水がたまっている

水たまり面が低い状態

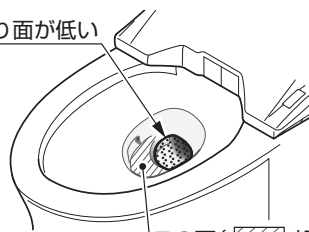
設定変更を行ってください。

(洗浄水量を変えずに水たまり面を正常な状態にすることができます。)

水たまり面が低い

水たまり面が低い
場合の対応方法

参照 P.49を参照してください。

この面(斜線部分)まで
水がたまっていない

〈水たまり面の判断に迷ったときは…〉

ペットボトルやバケツなどで徐々に水をたし、水たまり面が上昇しない場合は正常です。

※水たまり面が低いと汚物付着の原因になります。

排水管に曲がりが多かったり、通気が不十分だったりすると、水たまり面が低下する場合があります。

自治体によって洗浄水量の規制がある場合

大洗浄4.8L、小洗浄3.6L、eco小洗浄3.4L仕様を下記水量に変更することができます。

大洗浄6L、小洗浄4.8L、eco小洗浄4.6L仕様への切替方法

参照 P.50を参照してください。

大洗浄8L、小洗浄6L、eco小洗浄5.5L仕様への切替方法

参照 P.51を参照してください。

工事店様へ

■取扱説明書の最終ページの保証書に、必要事項を記入のうえ、必ずお客様にお渡ししてください。

お渡しできない場合は、目立つ場所に置いてください。

■取り付け後、ウォシュレットの機能、使いかたなどについてお客様にご説明をお願いいたします。

■新築などでお客様に引き渡すまでに時間があるときは、電源プラグを抜いておいてください。

設置するタイプにより施工手順が異なります

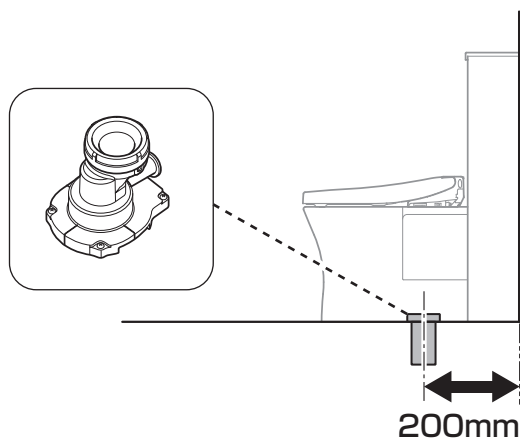
お施主様のお宅は、どのタイプですか？

給排水

排水心200mm

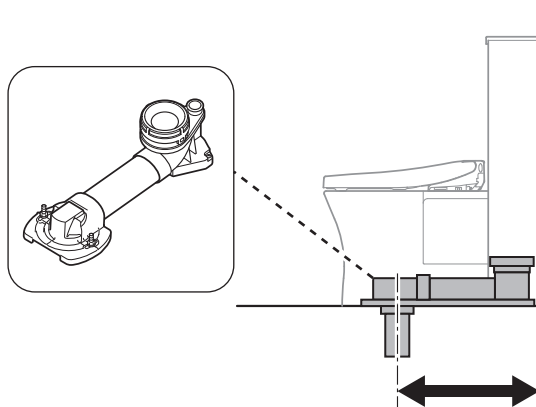
給水新設

既存給水流用
(リモデル用)



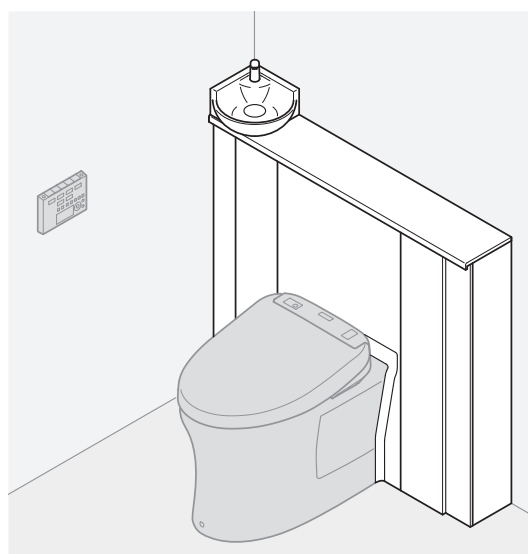
排水心可変

既存給水流用(リモデル用)



手洗器

あり



なし



もくじ

安全上のご注意

▶ 4

1 取り付け前のご注意

▶ 6

1	設置寸法について	6
2	キャビネットの可動範囲について	7
3	給排水位置について	7
4	補強材について	10
5	電気配線について	15
6	幅木について	16
7	窓枠などについて	16
8	必要工具	16
9	壁裏補強材なしの場合のオプション品	16

2 部品の確認

▶ 17

3 部材の取り付け①

▶ 23

0	エンドパネル(オプション品)・サイドキャビネット	23
1	後横桟・壁側板	25
2	止水栓(給水新設の場合／既存給水流用の場合)	27
3	排水部材(排水心200mmの場合／排水心可変の場合)	30
4	大便器	34
5	セットタンク	36
6	コアキャビネット	38
7	ウォシュレット	41
8	棚板・扉	46
9	大便器の作動確認	48
10	流動レバー	54

手洗器ありの場合

55

11-手洗器あり 天板

手洗器なしの場合

60

11-手洗器なし 天板

4 器具類の取り付け

▶ 63

1	リモコン	63
---	------	----

5 部材の取り付け②

▶ 63

1 取り付け前のご注意

2 部品の確認

3 部材の取り付け①

手洗あり

手洗なし

4 器具類の取り付け

5 部材の取り付け②

安全上のご注意

安全のために必ずお守りください。

お取り付け前にこの「安全上のご注意」をよくお読みの上、正しく取り付けてください。
ここに示した注意事項は、安全に関する重要な内容となりますので、必ずお守りください。

●表示と意味はつぎのようになっています。

●お守りいただく内容を絵表示で区分し、説明しています。

 警告	誤った取り扱いをすると、「死亡又は重傷を負う可能性が想定される」内容です。		してはいけない「禁止」の内容です。
 注意	誤った取り扱いをすると、「人が傷害を負う可能性および物的損害※の発生が想定される」内容です。		必ず実行していただく「強制」の内容です。

※ 物的損害とは、家屋・家財および家畜・ペットにかかわる拡大損害を示します。

 警告	 分解禁止	修理技術者以外の人は絶対に分解したり、修理・改造は行わない 火災や感電の原因となります。	 ぬれ手禁止	ぬれた手で、電源プラグを抜き差ししない 感電の原因となります。
	 アース接地	アース(D種接地)工事がされていることを確認する アース工事がされていないと故障や漏電のとき、感電する原因となります。 アース工事は、お近くの工事店に依頼してください。	 水場使用禁止	浴室など水がかかったり湿気の多い場所には設置しない 火災や感電の原因となります。 商品本体・ねじ類の腐食により、落下してけがやときに死亡の原因となります。
	 禁止	水道水および飲用可能な井戸水・地下水以外 は使用しない 皮膚の炎症などを起こす原因となります。	電源プラグやコードが傷んだりコンセントの差し込みがゆるいままで使用しない 火災や感電の原因となります。	
		指定する電源(交流100V)以外では使用しない 火災の原因となります。	ガタついているコンセントは使わない 火災や感電の原因となります。	
		ウォシュレットの給水ホースをコンセントに接触させない 結露水などにより、コンセントに水がかかり、火災や感電の原因となります。	給水および排水管の真下部にコンセントを設置しない 結露水などにより、コンセントに水がかかり、火災や感電の原因となります。	
		電源コード・電源プラグが破損するようなことをしない 傷つけたり、加工したり、無理に曲げたり、ねじったり、引っ張ったり、重いものを載せたり、束ねたり、挟み込んだり、加熱したりしない 傷んだまま使用すると、感電・ショート・火災の原因になります。	器具取付用のねじ固定部の壁裏には、配管・配線を通さない 火災や感電の原因となります。 水漏れして家財などをぬらす財産損害発生の原因となります。	
		屋外および傾斜のあるような壁面、振動の激しい場所に取り付けない 取り付けが不安定になり、倒れたり落下してけがやときに死亡の原因となります。	コンセントや配線器具の定格を超える使いかたをしない たこ足配線などで定格を超えると、発熱による火災の原因となります。	
		雷が発生しているときは、電源プラグに触れない 感電の原因となります。		
	 必ず守る	電源プラグは根元まで確実に差し込む 火災や感電の原因となります。	壁固定ねじ取付位置には、必ず壁裏を補強する 商品の転倒、落下によりけがやときに死亡の原因となります。	
		コンセント位置・電源コードの取り回しは、本説明書に記載された位置・方法・注意事項を厳守する 結露水などにより、コンセントに水がかかり、火災や感電の原因となります。	電源プラグを抜くときは、必ずプラグ本体を持って引き抜く コードを引っ張るとプラグやコードが傷んで、火災や感電の原因となります。	
		取り付け面がタイル・コンクリート壁の場合は、コンクリート用プラグ(現場手配)を使用する 取り付けが不安定になり、落下によりけがやときに死亡の原因となります。	石こうボードの場合は指定のボードアンカーを使用する 取り付けが不安定になり、落下によりけがやときに死亡の原因となります。	
		商品を取り付ける柱・間柱は、腐食などで強度不足でないことを確認する 取付物の転倒・落下によりけがやときに死亡の原因となります。	工事完了後、商品の傾きやがたつきがないか確認する 商品が落下したり、外れたりしてけがやときに死亡の原因となります。	

 警告	 必ず守る 機器の設置は専門業者が行う また、電気工事は関連する法令・法規に従って有資格者（電気工事士）が行う 火災や感電の原因となります。水漏れして、家財などをぬらす財産損害発生の原因となります。 商品の破損や落下によりけがをするおそれがあります。	コンセントは水や小水がかからない位置に設置する コンセントに水がかかり、感電・発火の原因となります。
--	---	--

 注意  必ず守る	 禁止 止水栓を開けたままで給水フィルターをはずさない 水が噴き出し、家財などをぬらす財産損害発生の原因となります。	給水ホースが破損するようなことをしない 傷つけたり、加工したり、無理に曲げたり、ねじったり、引っ張ったり、重いものを載せたり、束ねたり、挟み込んだり加熱したりしない 給水ホースが破損し、水漏れして家財などを濡らす財産損害発生の原因となります。
	商品に強い力や衝撃を与えない 商品の破損や落下によりけがをするおそれがあります。水漏れして、家財などをぬらす財産損害発生の原因となります。	カウンターの上に乗って作業しない カウンターが破損したり落下したりして、けがの原因となります。
	給水フィルター・給水フィルター付水抜栓を取り付けるときは接続部やフィルターふたを確実に締める 水漏れして家財などをぬらす財産損害発生の原因となります。	設置工事に使用する部材は必ず付属部品および指定部品を使用する 取り付けが不安定になり、使用中に落下してけがの原因となります。水漏れして家財などをぬらす財産損害発生の原因となります。
	工事完了後、給排水管から水漏れがないか確認する 水漏れして家財などをぬらす財産損害発生の原因となります。	給水・排水接続は、本説明書に記載された方法・注意事項を遵守する 水漏れして家財などをぬらす財産損害発生の原因となります。
	カットした面は滑らかに仕上げる 滑らかに仕上げないとお客様の手が触れ、けがをする原因となります。	給水ホースと分岐金具を正しく接続する 水漏れして家財などをぬらす財産損害発生の原因となります。
	商品の取り付け・加工は、本説明書に記載された方法・注意事項を厳守する 商品が破損・落下し、けがのおそれがあります。	ねじ部の固定については、本説明書に記載された方法・注意事項を遵守する 商品が破損し、けがをする原因となります。
	商品の壁への固定が完了するまで、もたれたりものを載せたりしないよう十分注意する 商品が倒れたり落下してけがの原因となります。	水準器を用いて水平に設置する 収納物が落下してけがの原因となります。
	推奨位置以外に設置する場合は、安全性を十分に確認する 取り付けが不安定になり、使用中に落下してけがの原因となります。	手洗器等、器具周囲のすきま処理は、本説明書に記載された方法・注意事項を厳守する 水が浸入し、家財などをぬらす財産損害発生の原因となります。
	凍結のおそれがある地域では、凍結防止工事を行う 凍結すると器具の一部が破損し、水漏れして家財などをぬらす財産損害発生の原因となります。	便器の水たまり部を見て、封水が切れていないことを確認する 封水が切れている場合に下水ガスや塩素ガス、硫化水素などによって設備・機器が腐食し、物的損害・傷害の生じるおそれがあります。

施工説明書中のマーク表示について



寒冷地仕様の場合を示します。

1 取り付け前のご注意

1. 取り付けに必要なトイレスペースを確保するとともに、手洗器キャビネットを設置する際は、ドア枠などの干渉により扉が開かなくなる場合がありますので、「設置寸法について」を参考に設置してください。
2. ウォシュレット用電源コードの長さは約1mです。コンセントはこの長さに適した所定の位置に設置しているか確認してください。
3. 給水圧力は、最低必要水圧：0.05MPa(流動時) 最高水圧：0.75MPa(静止時)です。この圧力範囲で使用してください。
4. 施工前に給水取出位置・排水管位置およびコンセント位置が所定の位置であることを確認してください。
5. 手洗器の給水金具の取り付けに際しては、専用工具(TZ15LまたはTZY15N)が必要となります。
6. キャビネットの表面に指定のクッション材・ラベル以外は貼らないでください。
7. ひろびろ間口タイプ(961~1370mm)は手洗器なしスリム収納タイプのみに対応となります。
8. ボードアンカーは、引抜強度200N以上のものを使用してください。



「水漏れ確認」は、本説明書を参照してください。

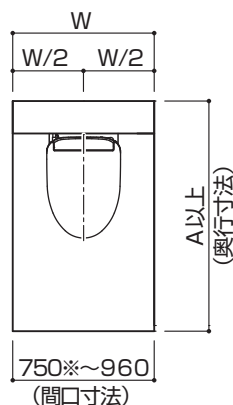
「ウォシュレットへの通電」はウォシュレット施工説明書を参照してください。

1 設置寸法について

トイレの広さは以下の寸法を確保してください。間口750mm未満には対応できません。

間口750~960mm

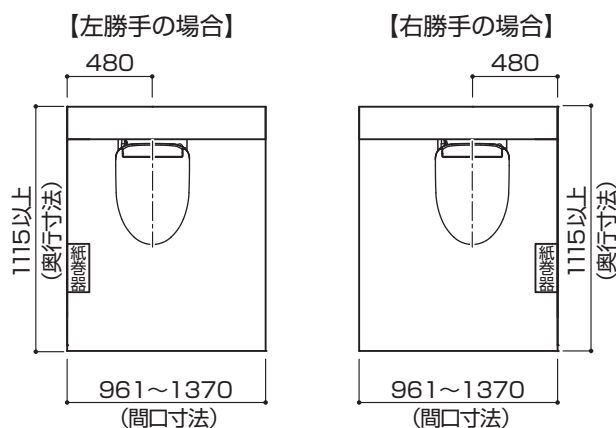
※ まるごと収納タイプおよび収納タイプとスリム収納タイプでは、便器前出寸法が異なるため、設置できるトイレの寸法が異なります。



タイプ	A
まるごと収納タイプ/収納タイプ	1200
スリム収納タイプ	1115

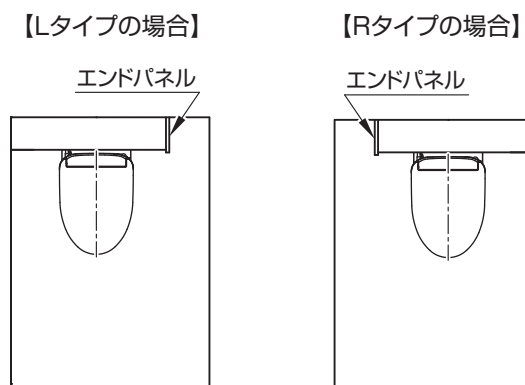
ひろびろ間口タイプ(間口961~1370mm)

- ・スリム収納タイプのみに対応します。



エンドパネルを使用する場合

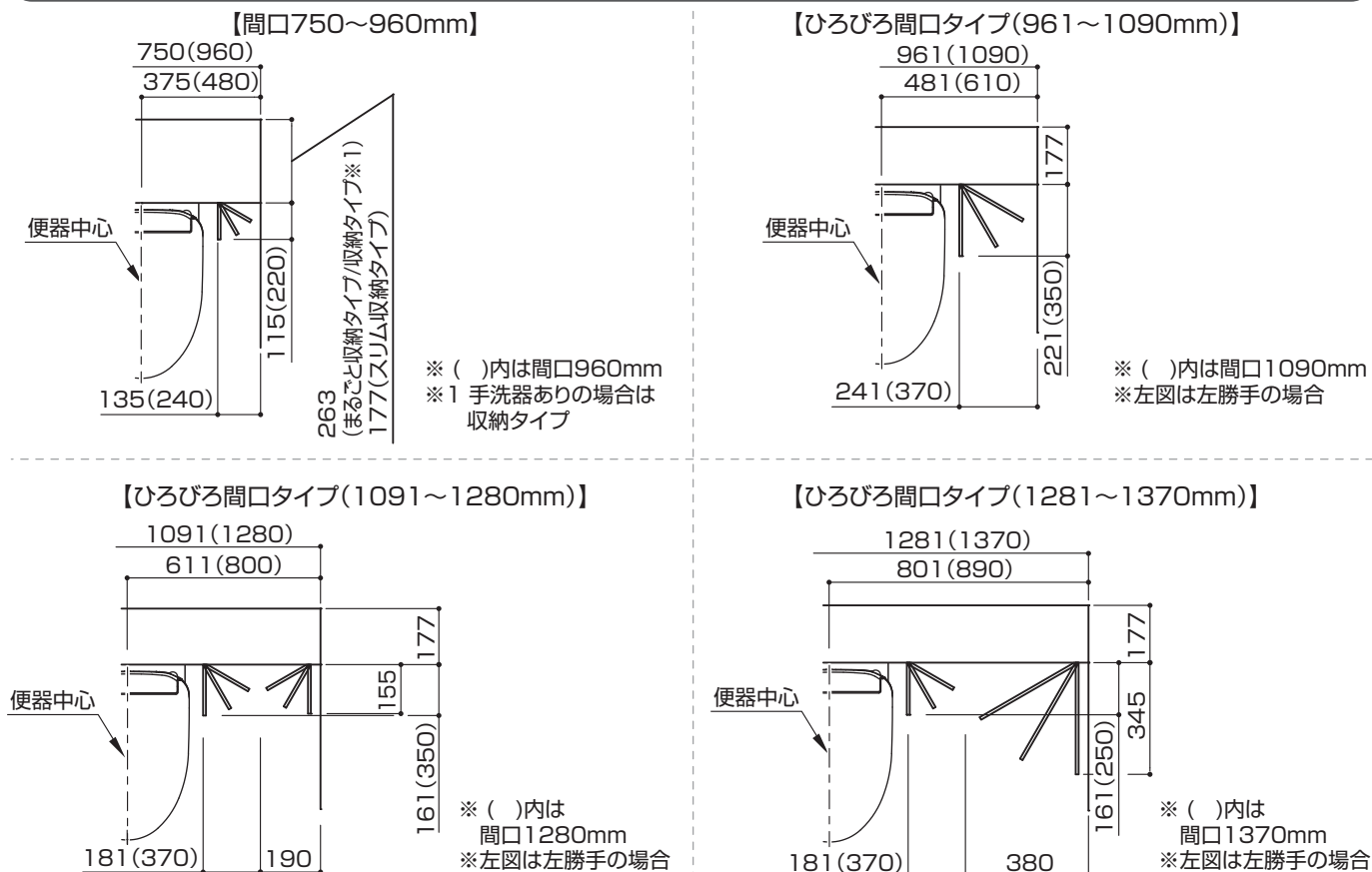
- ・エンドパネルを利用して、壁とすき間をあけて設置することもできます。



2 キャビネットの可動範囲について

- ・大便器キャビネットは下図の範囲で可動します。
- ・可動範囲内に障がい物がないことを確認してください。

大便器キャビネット



3 給排水位置について

■排水位置

- ・下図の位置に便器の排水心があることを確認してください。

排水心200タイプ

- ・排水管(VP・VU75またはVP・VU100)は床から 60 ± 5 mmで立ち上げてください。
 - ・排水管の材質および高さが下図と異なる場合、下記の必要部材を別途手配してください。
- また、フランジを利用する場合も必要に応じて下記部材を別途手配してください。

<必要部材>

●排水心 200mm

		排水管高さ	
		0～55mm未満	55mm以上
排水 管	VP・VU 75/100	60mm立ち上げアダプター (HH01001R)	—
	鉛管 φ75/100	排水ソケット (T90SW75/100) にて 立ち上げ直しが必要	

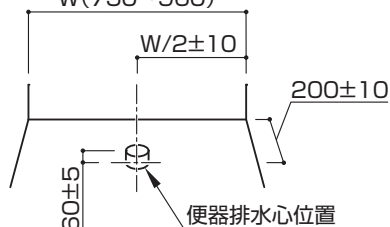
●排水心 200mm(フランジ利用)

排水 管	VP・VU 75/100	取り替えアダプター(HH01003) フランジ(HP430-7/HP430-1)※
	鉛管 φ75/100	取り替えアダプター(HH01003) フランジ(T53WR75/T53WR100)※

※ 既設フランジが使用できない場合

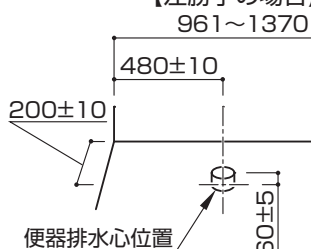
間口750～960mm

【手洗器が左右勝手とも排水位置は共通】
W(750～960)

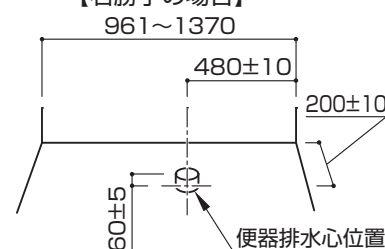


ひろびろ間口タイプ(間口961～1370mm)

【左勝手の場合】



【右勝手の場合】



3 給排水位置について (つづき)

排水心可変タイプ

- ・ 既設フランジを利用します。
- ・ 既設フランジが使用できない場合は、下記必要部材を別途手配してください。

<必要部材>

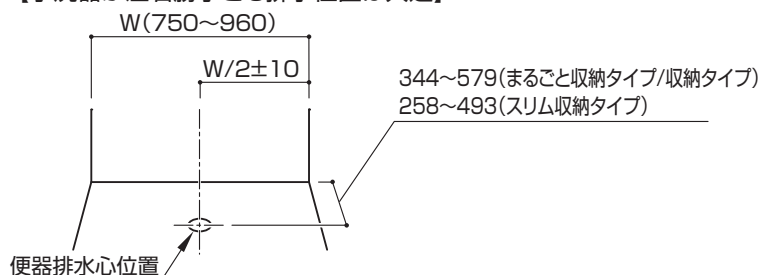
●排水心 258 ～ 579mm リモデル

排水 管	VP・VU 75/100	フランジ(HP430-7/HP430-1)※
	鉛管 φ75/100	フランジ(T53WR75/T53WR100)※

※ 既設フランジが使用できない場合

間口750～960mm

【手洗器が左右勝手とも排水位置は共通】

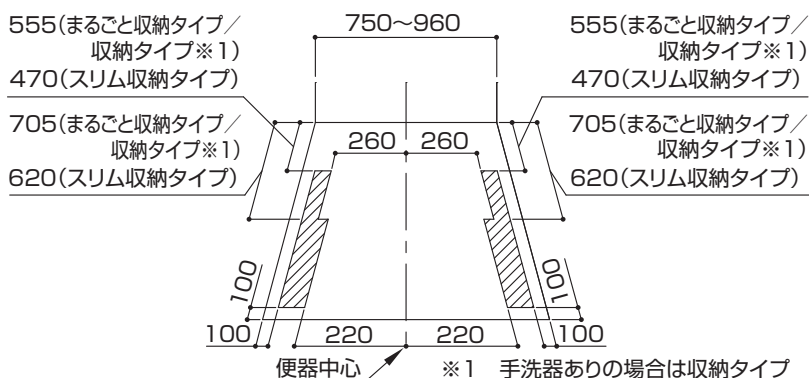


■寒冷地・水抜方式の場合の水抜栓立ち上げ位置

- ・ 水抜栓立ち上げ可能な範囲は右図のとおりです。
- ・ 水抜栓高さが、450mmを超える場合は、紙巻器に干渉するおそれがありますので、事前に紙巻器の設置位置を確認してください。
- ・ 棚付二連紙巻器を設置する場合は、棚板や扉などと干渉しないよう事前に確認してください。

※ 図はまるごと収納タイプの場合です。

ひろびろ間口タイプの場合は、便器心から横壁までの距離が小さい方の片側の床面が水抜栓立ち上げ可能な範囲となります。



※ 1 手洗器ありの場合は収納タイプ

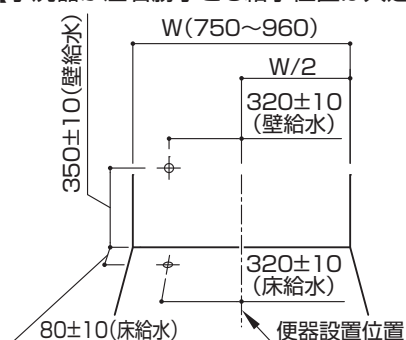
■給水位置

給排水まるごと工事タイプ

- ・ 下図の位置に仕上面と同一面に給水管(Rc 1/2)を取り出してください。
- ・ 寒冷地(水抜方式)の場合は、床給水のみとなります。

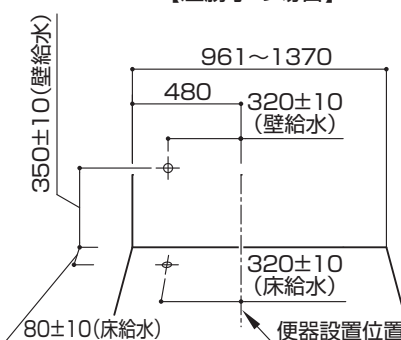
間口750～960mm

【手洗器が左右勝手とも給水位置は共通】

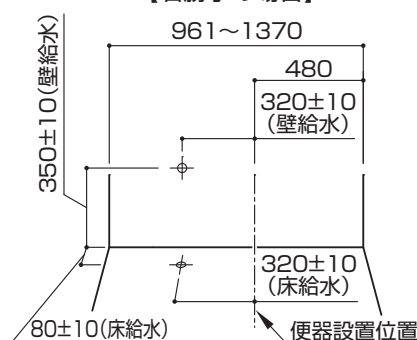


ひろびろ間口タイプ(間口961～1370mm)

【左勝手の場合】



【右勝手の場合】



3 給排水位置について (つづき)

給排水そのまま利用タイプ

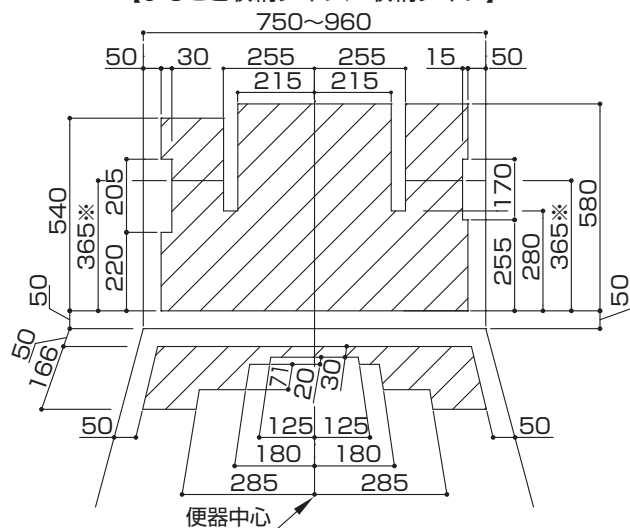
- ・下図の領域内が対応範囲となります。対応範囲内に給水管（Rc1/2）の中心があることを確認してください。仕上げ面と同一面に給水管を取り出してください。
- ・手洗器が左右勝手とも対応範囲は共通です。

間口750~960mm

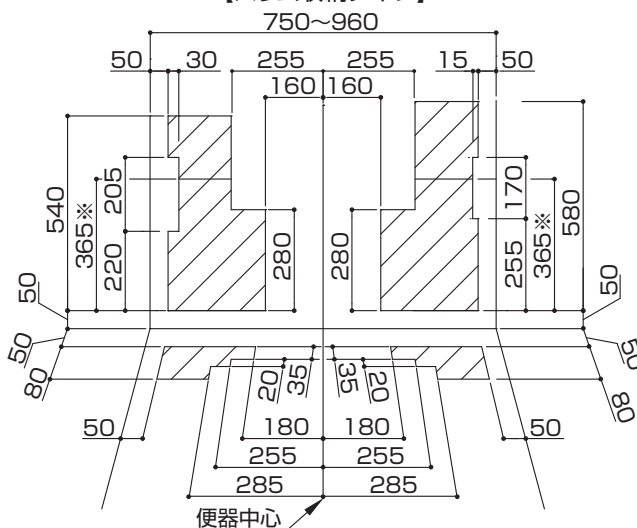
[一般地・流動方式の場合]

- ・ 給水位置が便器中心より右側の場合は、延長ホース(UGTN98L2X50R)を別途手配してください。
※印より上に給水位置がある場合は、柵板が取り付けられません。

【まるごと収納タイプ／収納タイプ】



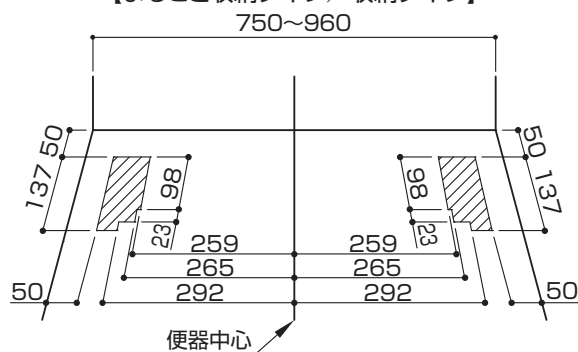
【スリム収納タイプ】



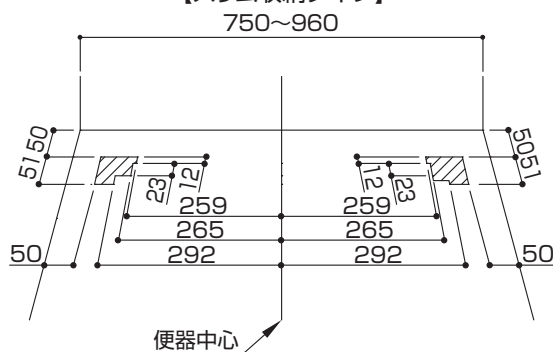
[水抜方式の場合]

- ・給水位置が便器中心より右側の場合は、延長ホース(TN98L2X30)および給水アダプタ(D13084W)を別途手配してください。

【まるごと収納タイプ／収納タイプ】



【スリム収納タイプ】



4 補強材について

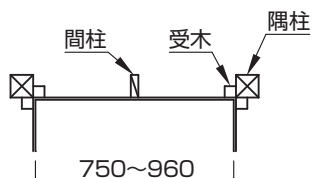
■補強材位置

大便器キャビネット部

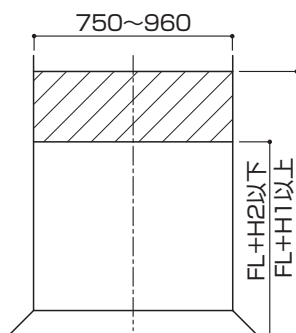
間口750～960mm

【後壁について】

- 大便器キャビネットを間柱、受木に固定します。部屋に間柱および受木が所定の位置にあることを確認してください。

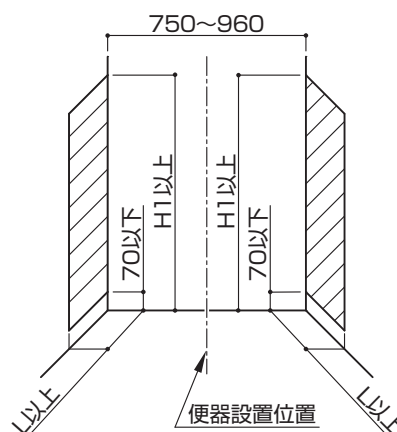


間柱および受木がない場合は、下図の斜線範囲(壁裏)にt12以上の合板(JAS規格相当品)を入れてください。



【横壁について】

- 下図の斜線範囲(壁裏)にt12以上の合板(JAS規格相当品)を入れてください。
- 壁裏補強なしで施工をする場合は、ボードアンカー(オプション: UGA490B)を使用してください。
- 紙巻器などを設置する場合は、横壁に別途補強が必要になります。

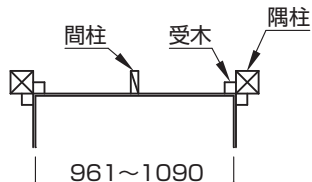


タイプ	まるごと収納タイプ			収納タイプ			スリム収納タイプ		
	H1	H2	L	H1	H2	L	H1	H2	L
手洗器あり	—	—	—	900	790	225	900	790	140
手洗器なし	1050	685	225	—	—	—	900	790	140

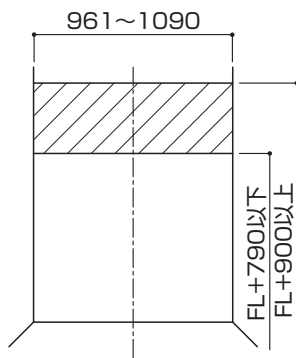
ひろびろ間口タイプ(間口961～1090mm)

【後壁について】

- 大便器キャビネットを間柱、受木に固定します。部屋に間柱および受木が所定の位置にあることを確認してください。

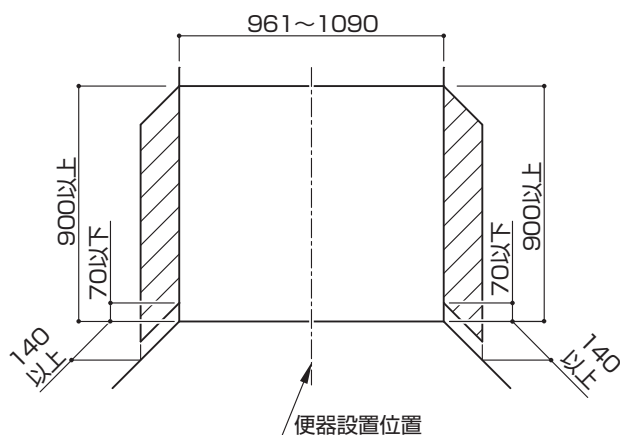


間柱および受木がない場合は、下図の斜線範囲(壁裏)にt12以上の合板(JAS規格相当品)を入れてください。



【横壁について】

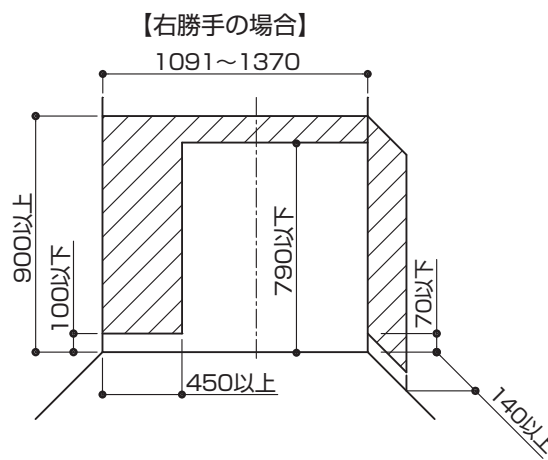
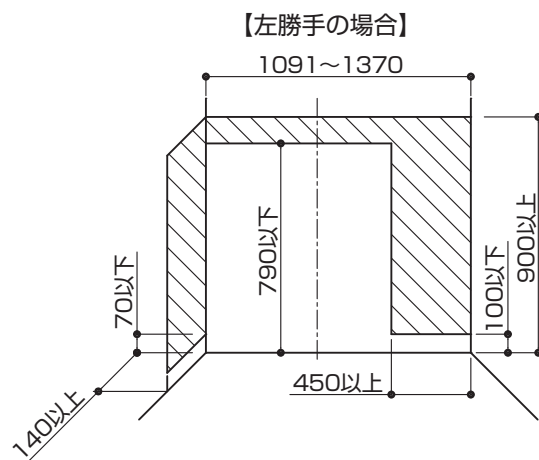
- 下図の斜線範囲(壁裏)にt12以上の合板(JAS規格相当品)を入れてください。
- 壁裏補強なしで施工をする場合は、ボードアンカー(オプション: UGA490B)を使用してください。
- 紙巻器などを設置する場合は、横壁に別途補強が必要になります。



4 補強材について (つづき)

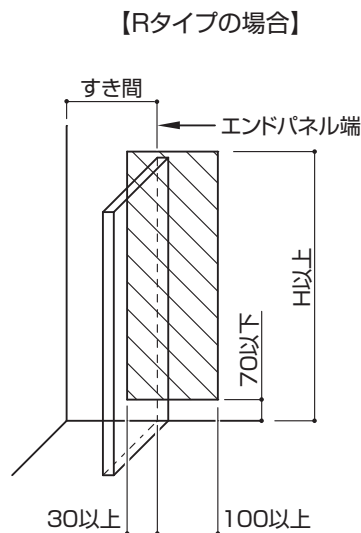
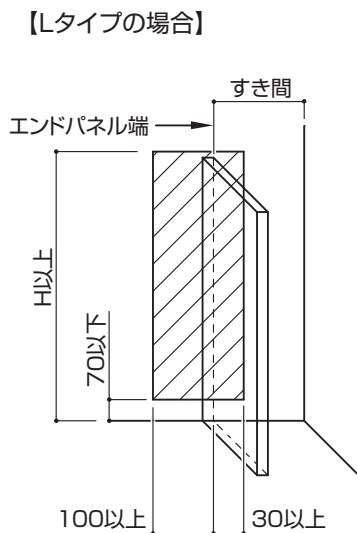
ひろびろ間口タイプ(間口1091~1370mm)

- ・下図の斜線範囲(壁裏)に補強材としてt12以上の合板(JAS規格相当品)を入れておいてください。
- ・紙巻器などを設置する場合は、別途補強材が必要となります。



エンドパネル部

- ・取付位置に、あらかじめ下図に示す補強が必要です。斜線範囲(壁裏)にt12以上の合板(JAS規格相当品)を入れてください。
- ・手洗器ありの場合、エンドパネルは手洗器側には取り付けできません。



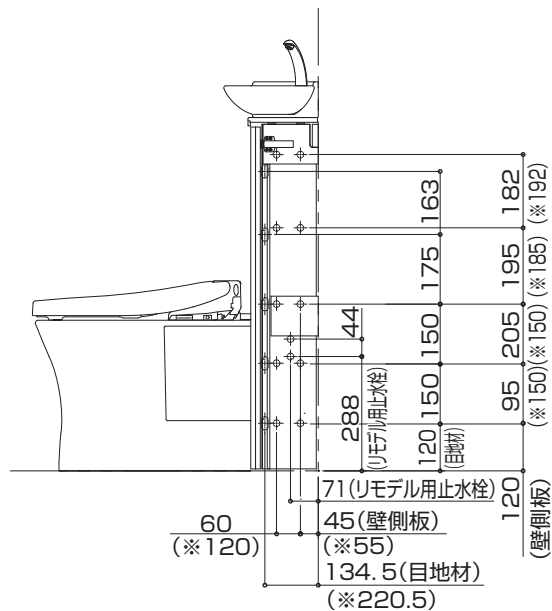
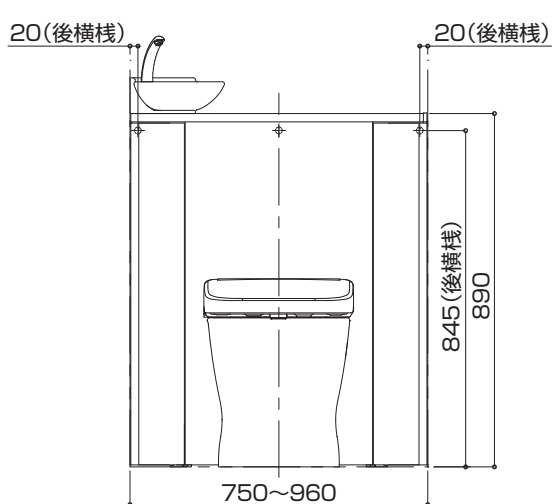
タイプ	H		
	まるごと収納タイプ	収納タイプ	スリム収納タイプ
手洗器あり	—	900	900
手洗器なし	1050	—	900

4 補強材について (つづき)

■固定ねじ位置

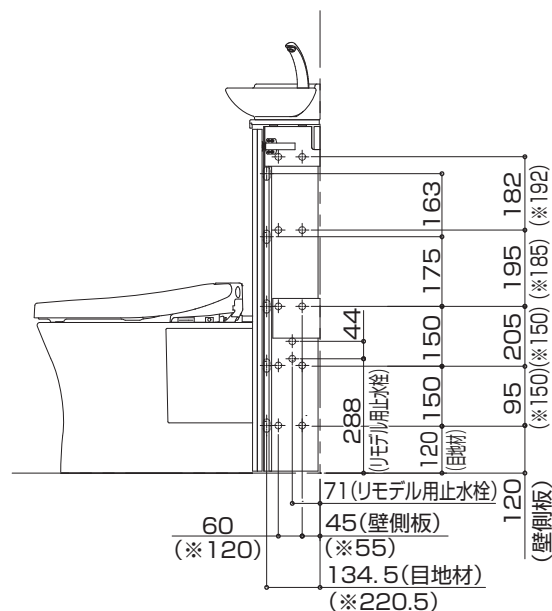
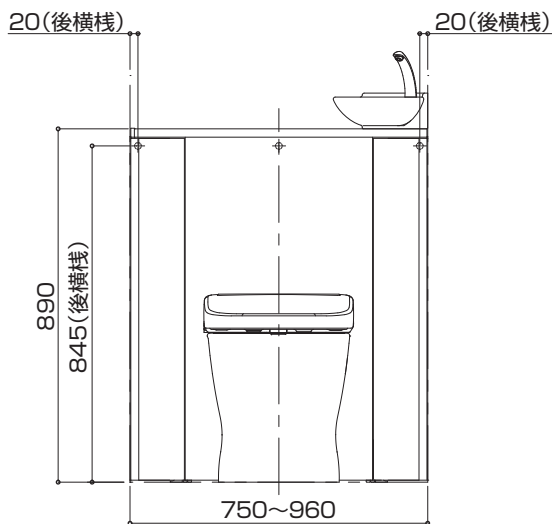
手洗器あり／収納タイプ・スリム収納タイプ

【手洗器が左勝手の場合】



※は収納タイプの場合

【手洗器が右勝手の場合】

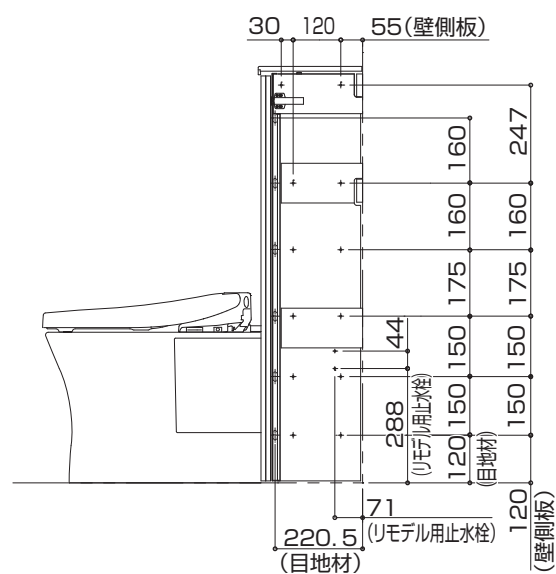
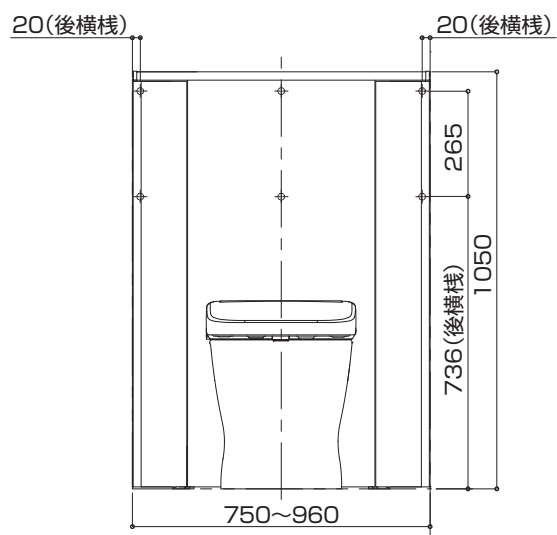


※は収納タイプの場合

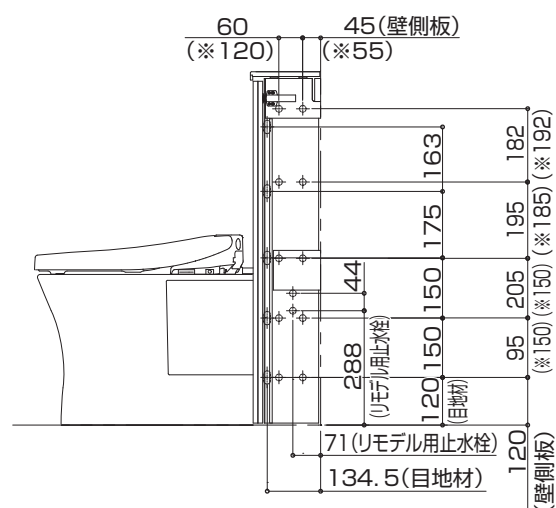
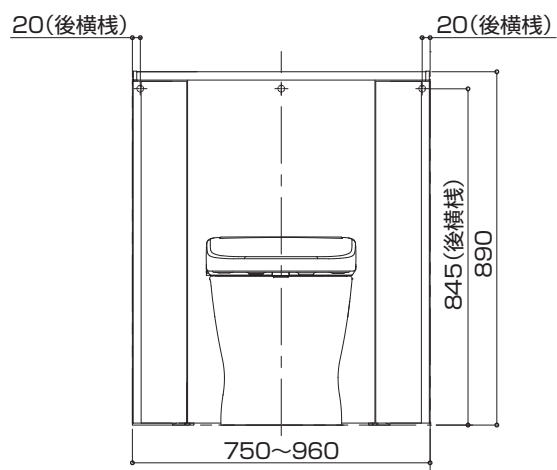
4 補強材について (つづき)

■固定ねじ位置

手洗器なし／まるごと収納タイプ



手洗器なし／スリム収納タイプ



※は収納タイプの場合

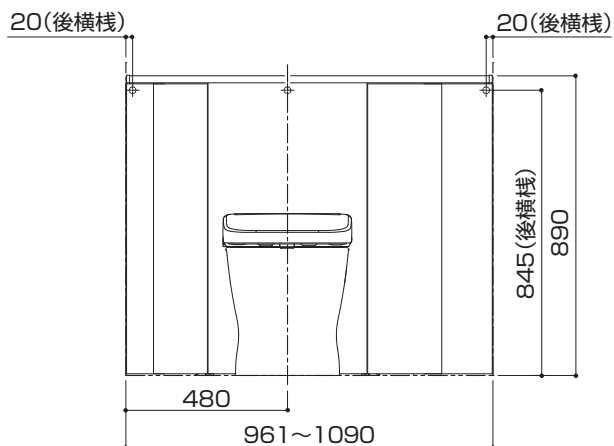
4 補強材について (つづき)

■固定ねじ位置

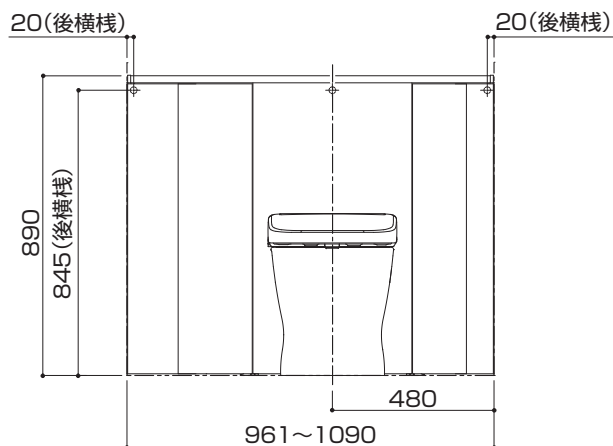
・ねじ位置は手洗器あり・なし共通です。

ひろびろ間口タイプ(間口961～1090mm)

【左勝手の場合】

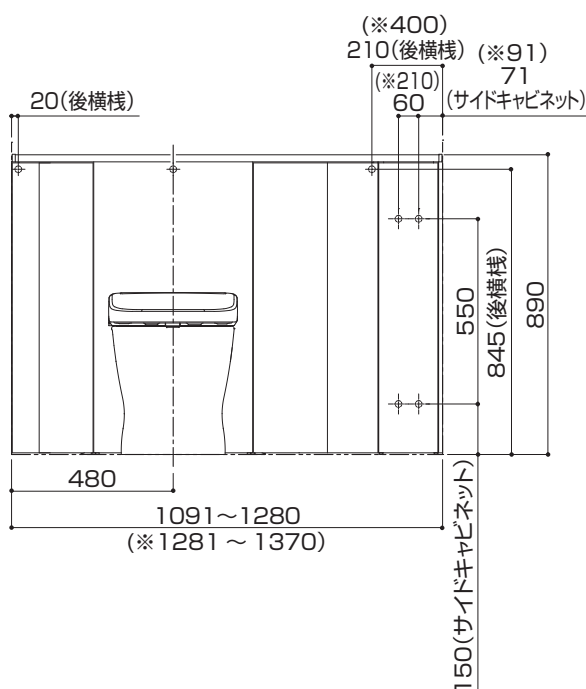


【右勝手の場合】



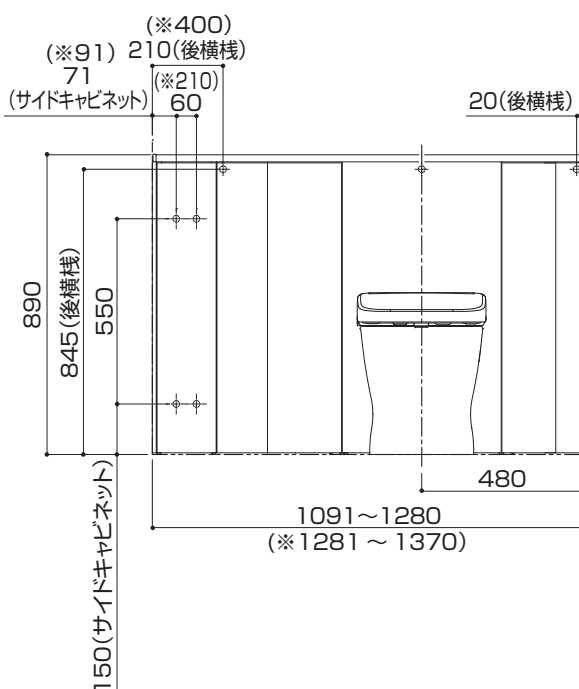
ひろびろ間口タイプ(間口1091～1370mm)サイドキャビネット設置の場合

【左勝手の場合】



※はサイドキャビネット380サイズの場合

【右勝手の場合】



※はサイドキャビネット380サイズの場合

5 電気配線について

警告



器具取付用のねじ固定部の壁裏には配線を通さない
火災や感電の原因となります。

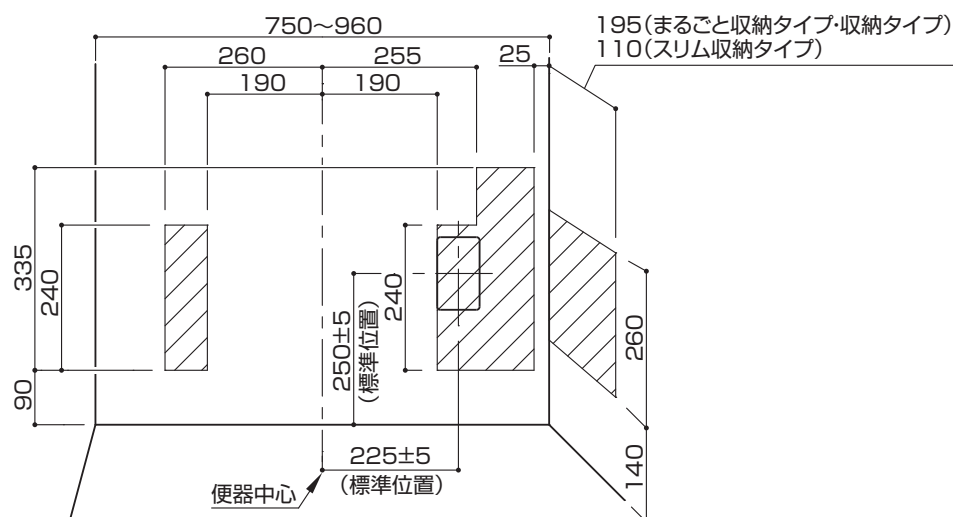
定格消費電力は下表を参照してください。
(AC100V 50/60Hz共通です。)

定格消費電力	ウォシュレット		ヒーター付便器	ヒーター付タンク
	1280W (F1A,F2A,F3A)	1282W (F3AW)	35W	2W

大便器

- ・既存のコンセントを使用する場合は、下記の斜線範囲内に接地用端子の付いた接地極付きの壁埋込式コンセント（水抜方式の場合は、接地用端子の付いた接地極付きの壁埋込式2口コンセント）の外形が納まることを確認してください。
- ・新規に設置する場合は、下図の「標準位置」に設置してください。
- ・コンセントは付属品として同梱されておりませんので、現場にて手配してください。
- ・横壁にコンセントがある場合は、コンセントプレートのサイズに側板を開口してください。

間口750～960mm

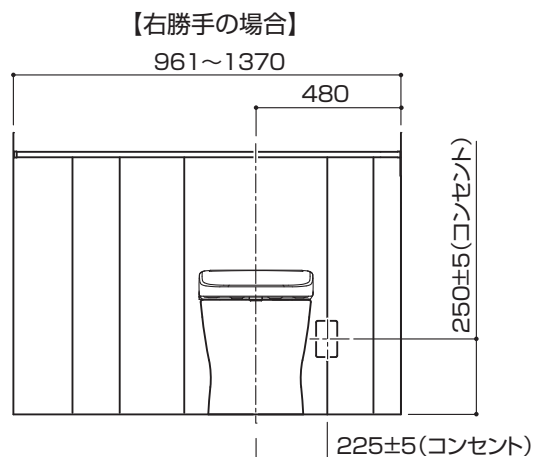
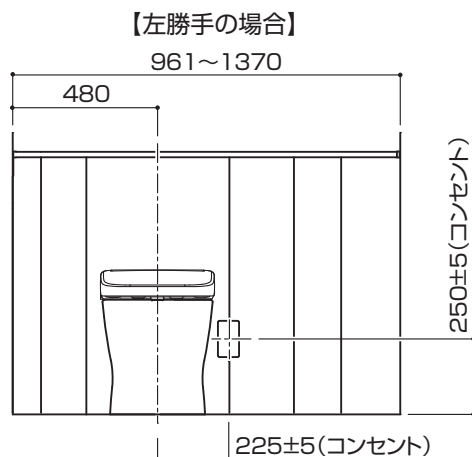


警告



コンセントが給水位置の下に設置されている場合は、「標準位置」に移設する
結露水などにより、電源コンセントに水がかかり、火災や感電の原因となります。

ひろびろ間口タイプ(間口961～1370mm)



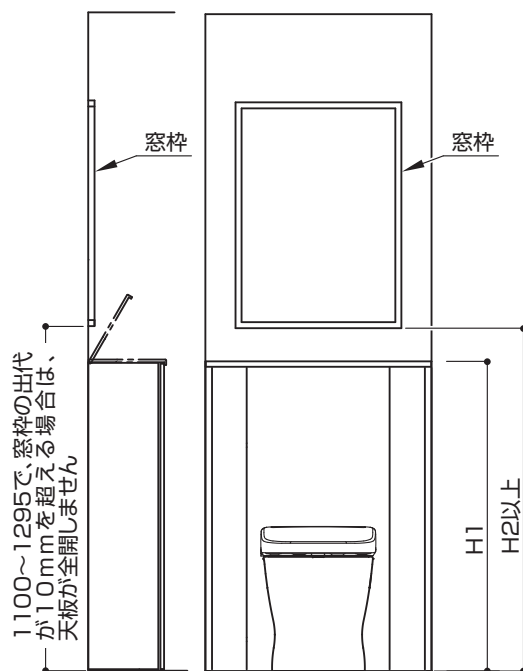
6 幅木について

- ・幅木の大きさは高さ100mm以下、厚さ10mm以下としてください。
- ・本商品は、幅木カット不要で設置できます。

7 窓枠などについて

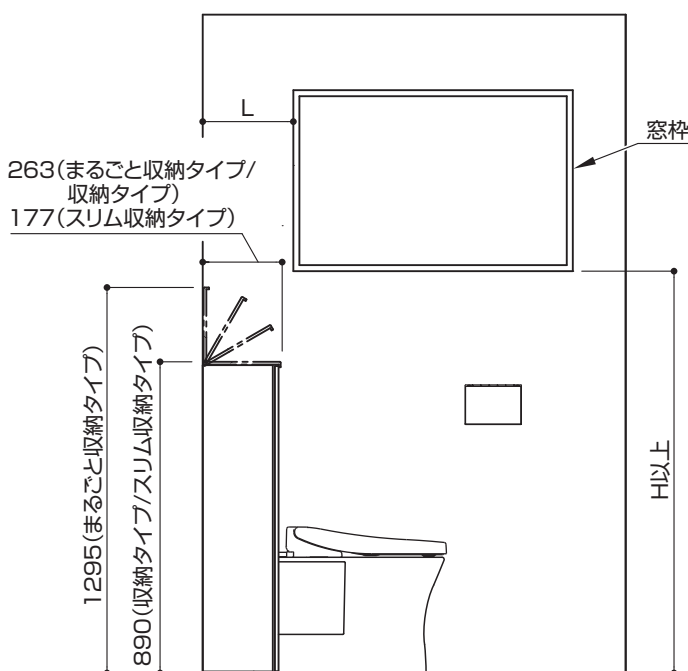
- ・周辺部材(鏡・手すりなど)を取り付ける場合は、周辺部材の説明書を参照してください。
- ・壁に窓枠や腰壁の笠木などの突起物などがある場合、下図のような制約が付きます。事前に製品と干渉しないよう窓枠の位置を設定してください。

大便器後ろ壁に窓がある場合



タイプ	まるごと収納タイプ/収納タイプ		スリム収納タイプ	
	H1	H2	H1	H2
手洗器あり	890	1020	890	1020
手洗器なし	1050	1100	890	910

大便器横壁に窓がある場合

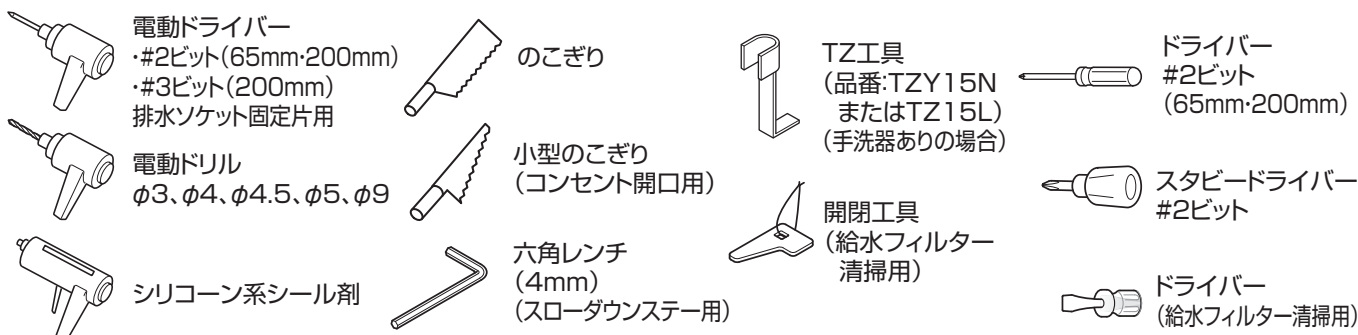


タイプ	まるごと収納タイプ/収納タイプ		スリム収納タイプ	
	L=300以上	L=300未満	L=210以上	L=210未満
H				
手洗器あり	—	1020	—	1020
手洗器なし	—	1330	—	910

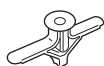
図はまるごと収納タイプ/収納タイプの天板の開き方を示しています。

8 必要工具

※一般水道工事に使う工具以外に、下記の工具を用意してください。



9 壁裏補強材なしの場合のオプション品



ボードアンカー
(品番:UGA490B 50個入)

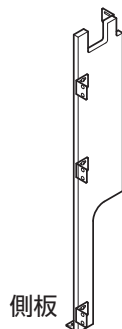
2 部品の確認

- ・専用の施工説明書が同梱されている商品は、外装箱のみ表記しています。
- ・包装箱の内容はスリム収納タイプ(左勝手)を基本として記載しています。

側板・後横部

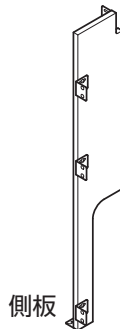
コアキャビネット側板セット(左)

【手洗器ありで左勝手の場合】



側板

【手洗器ありで右勝手/手洗器なしの場合】

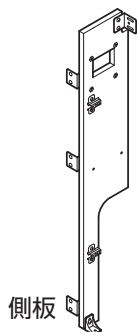


側板

※流動方式の場合は側板に穴があいています

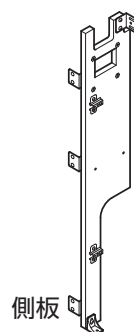
コアキャビネット側板セット(右)

【手洗器ありで左勝手/手洗器なしの場合】



側板

【手洗器ありで右勝手の場合】



側板

壁側板セット(左)



壁側板



トラスタッピンねじ
φ4×50(10本)

※まるごと収納タイプの場合
φ4×50(12本)

壁側板セット(右)



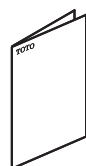
壁側板



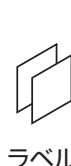
トラスタッピンねじ
φ4×50(10本)

※まるごと収納タイプの場合
φ4×50(12本)

施工説明書



本紙



ラベル
(2枚)



クッション
(1個)

取扱説明書

チラシ
アンケート(封筒入)



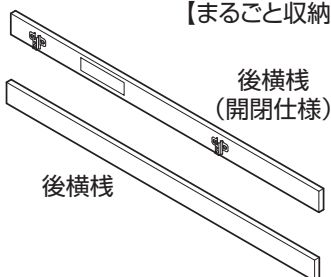
取扱説明書



開閉工具

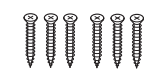
後横棧セット

【まるごと収納タイプの場合】



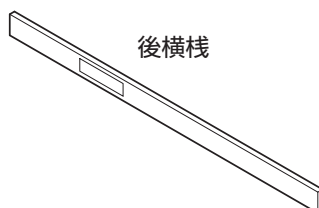
後横棧
(開閉仕様)

後横棧



皿タッピンねじ
φ4×50(6本)

【スリム収納タイプ/収納タイプの場合】



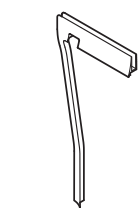
後横棧



皿タッピンねじ
φ4×50(3本)

大便器キャビネット部材

コアキャビネット施工部材セット



はかま目地材L



はかま目地材R



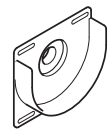
トラスタッピンねじ
φ4×10(14本)



トラスタッピンねじ
φ4×30(2本)



配管用化粧ペフ

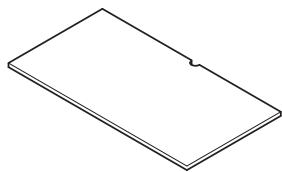


洗浄レバーカバー



トラス小ねじ
M4×10(4本)

タンク上収納底板セット(まるごと収納タイプの場合)



タンク上収納底板
※タンクが流動方式の場合
裏面に切り欠きがあります。



棚受ダボ
(2個)



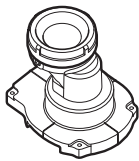
棚受ダボL



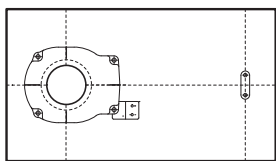
棚受ダボR

排水ソケットセット

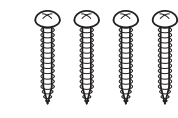
【まるごと収納タイプ/収納タイプ・排水心200の場合】



排水ソケット

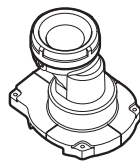


位置決めシート

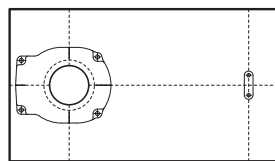


トラスタッピンねじ
φ6×60(4本)

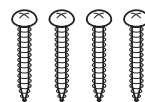
【スリム収納タイプ・排水心200の場合】



排水ソケット



位置決めシート



トラスタッピンねじ
φ6×60(4本)

【排水心可変の場合】



便器
接続部



床フランジ
接続部



横引管



Pシール
(金属フランジ用)



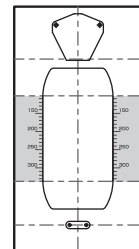
Pシール
(樹脂フランジ用)



Tボルト
(2本)



トラスタッピンねじ
φ6×60(2本)



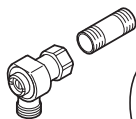
位置決めシート

止水栓セット

※同梱の止水栓を必ず使用してください。

【給水新設用】

壁給水



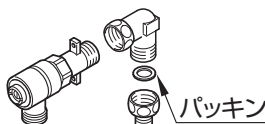
(フランジが入っ
ている場合は使
用しません)

床給水

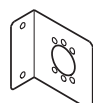


【既存給水流用】

※水抜方式の場合は、
【床給水】を使用します。



パッキン



L型金具



小ねじ
M4×8(2本)



座金付
タッピンねじ
φ4.5×38(2本)



パッキン

大便器キャビネット部材 (つづき)

ホースクランプセット

【水抜方式の場合】

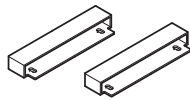


ホースクランプ(1個)

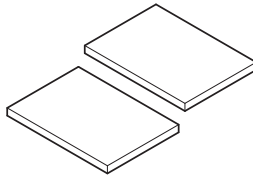


トラスタッピンねじ
φ4×40(1本)

棚板セット



棚板キャップ(2個)
※まるごと収納タイプの場合(4個)



棚板(2枚)
※まるごと収納タイプの場合(4枚)



トラスタッピンねじ
φ4×10(4本)
※まるごと収納タイプの場合(8本)

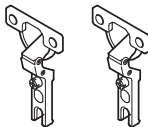


棚受ダボ(4個)
※まるごと収納タイプの場合(8個)

天板開閉部材セット(まるごと収納タイプの場合)



トラス小ねじ
M4×8(4本)



スライド丁番
(2個)



丁番用スペーサー
(2個)



皿タッピンねじ
φ3.5×14(4本)



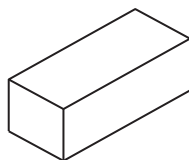
スローダウンステー

その他部材の詰め合せ

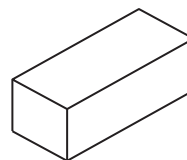
商品選択されている場合に入っているもの

紙巻器

【メタル製】

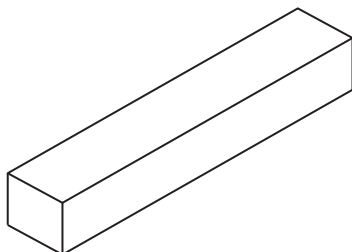


【樹脂製】

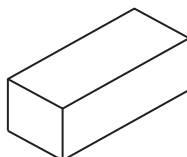


手すり

【天然木タイプ】

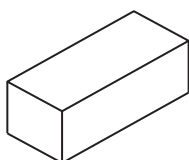


【ハンドグリップ】



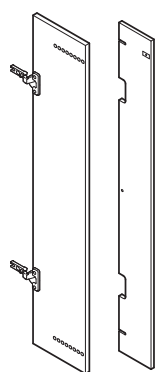
タオル掛け

【手洗器ありの場合】



その他包装

扉セット(左)



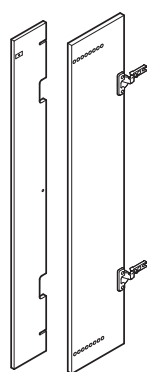
扉

トラスタッピンねじ
φ4×30(5本)
※まるごと収納タイプ
の場合(6本)

トラスタッピンねじ
φ4×18(3本)または
φ4×20(3本)
※1本は「5.部材の取り
付け②」で使います
※扉表面色により、
いずれかのねじが入って
います

側板目地材
(1本)

扉セット(右)



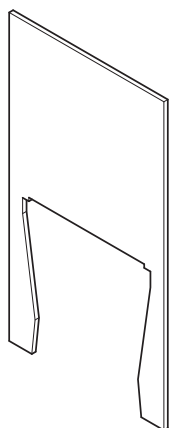
扉

トラスタッピンねじ
φ4×30(5本)
※まるごと収納タイプ
の場合(6本)

トラスタッピンねじ
φ4×18(3本)または
φ4×20(3本)
※1本は「5.部材の取り
付け②」で使います
※扉表面色により、
いずれかのねじが入って
います

側板目地材
(1本)

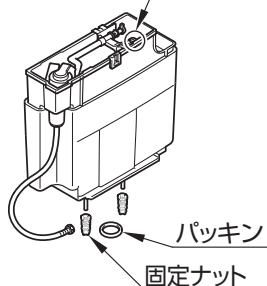
前板セット



前板

セットタンク

※ピンはジョイント端
ピンに付いています。



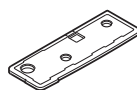
【流動方式の場合】



流動レバー



レバー止め

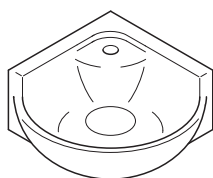


カバー(A)



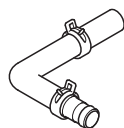
カバー(B)

手洗器セット(手洗器ありの場合)

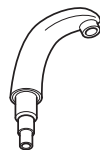


手洗器本体

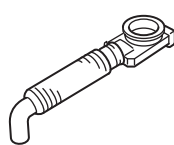
スパウト固定用ナット



給水ホース



スパウト



排水エルボ



ケーブルクリップ

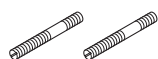


パッキン(吐水口用)



L型金具

手洗器固定金具



取付ボルト
M6×45(2本)



手洗器固定金具
(2個)



取付ナット
(2個)

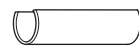


ワッシャー
(1個)

クイックファスナー
(1個)



トラスタッピンねじ
φ4×12(2本)

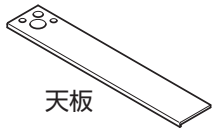


排水管カバー
セット(2個)

その他包装 (つづき)

天板セット

【手洗器ありの場合】



天板



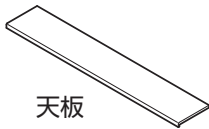
面ファスナー(5個)



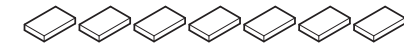
天板キャップ

トラスタッピンねじ
φ4×8(2本)

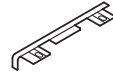
【手洗器なしの場合】



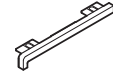
天板



面ファスナー
スリム収納タイプの場合(7個)
ひろびろ間口タイプの場合(9個)
※まるごと収納タイプには入っていません



天板キャップL

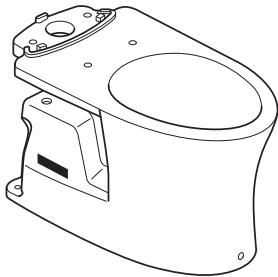


天板キャップR

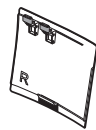


トラスタッピンねじ
φ4×8(4本)

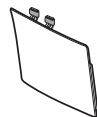
大便器



便器本体



サイドカバー(右)



サイドカバー(左)



固定片



ワッシャー(固定片用)
(2枚)



皿木ねじ
φ5.8×56



なべタッピンねじ(固定片用)
φ6×50(2本)



化粧キャップ(前)



化粧キャップ(後)
(2個)

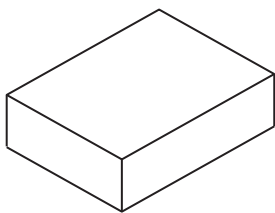


木ねじ
φ6.2×63(2本)



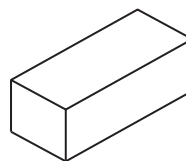
ワッシャー(後部固定用)
(2枚)

ウォシュレット



※分岐金具はウォシュレット
の箱の中に入っています

便器洗浄ユニット



<下記部品は使用しません>



ワッシャーA



ワッシャーB



コードフック
(7個)



サンドペーパー

その他包装 (つづき)

商品選択されている場合に入っているもの

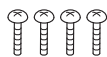
エンドパネル



エンドパネル本体

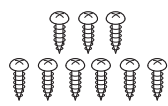


アングル材
(3個)



トラス小ねじ
M4×20(4本)

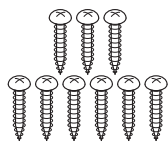
※まるごと収納タイプの場合(6本)



トラスタッピンねじ
φ4×12(9本)

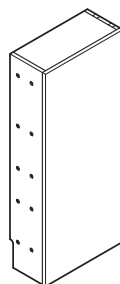


トラス小ねじ
M4×8(6本)

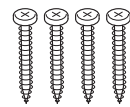


トラスタッピンねじ
φ4×30(9本)

サイドキャビネット



サイドキャビネット本体



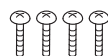
固定ねじ
φ4.5×50(4本)



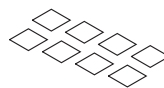
トラスタッピンねじ
φ4×12(3本)



トラス小ねじ
M4×8(6本)



トラス小ねじ
M4×20(4本)



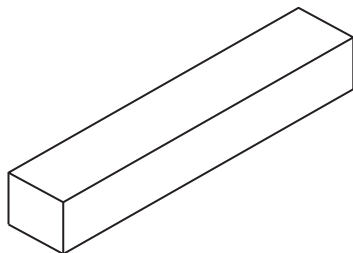
スペーサー
(8枚)



化粧キャップ(4個)

手すり

【コンテンポラリータイプ・メタルタイプ】



3 部材の取り付け①

※製品への部材の取り付けは手締めにて行ってください。

0 エンドパネル(オプション品)・サイドキャビネット

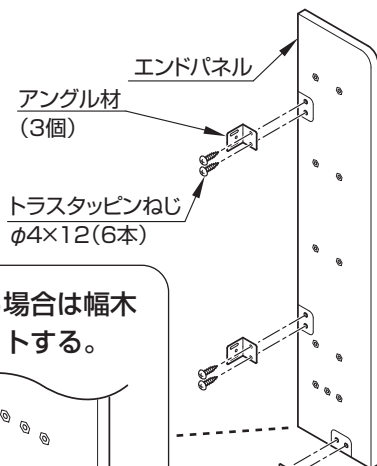
👉 「エンドパネル・サイドキャビネット」の部材を使用

※エンドパネル・サイドキャビネットを使用しない場合は、P.25 **1 後横桟・壁側板** から作業をはじめてください。

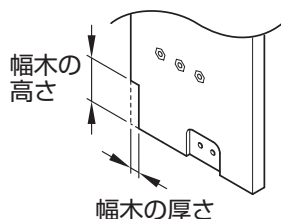
※まるごと収納タイプにはエンドパネル・サイドキャビネットは付きません。

■エンドパネルを使用する場合

① エンドパネルにアングル材を取り付ける。



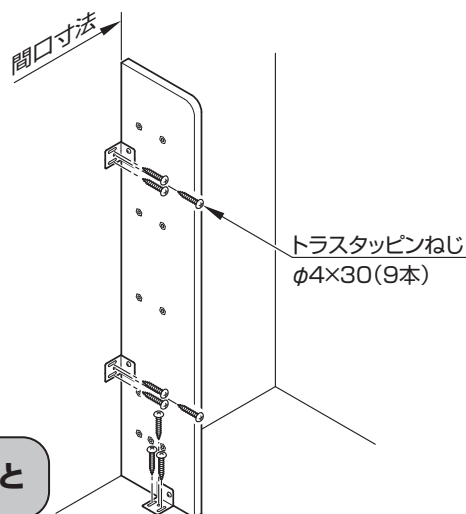
② 幅木がある場合は幅木分だけカットする。



ポイント

ねじは手締めで行うこと

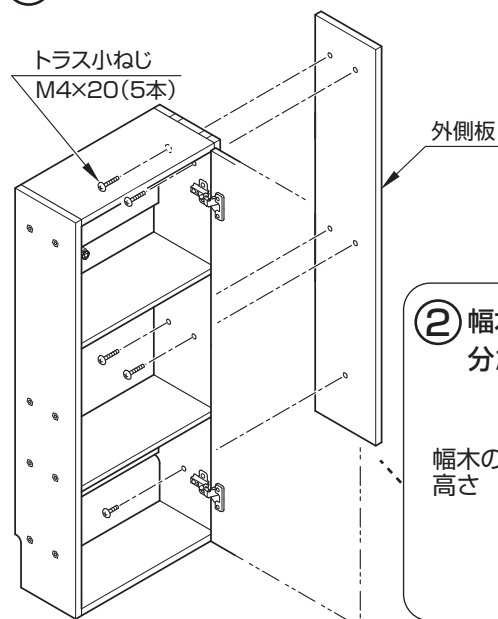
③ 取付位置を確認し、取付穴位置をけがき、下穴($\phi 3$)をあける。
エンドパネルを後壁と床に取り付ける。



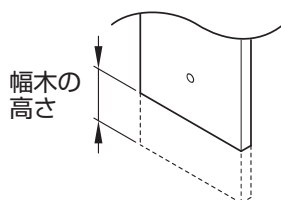
■サイドキャビネットを使用する場合

【幅木がある場合】

① サイドキャビネットから外側板を取り外す。

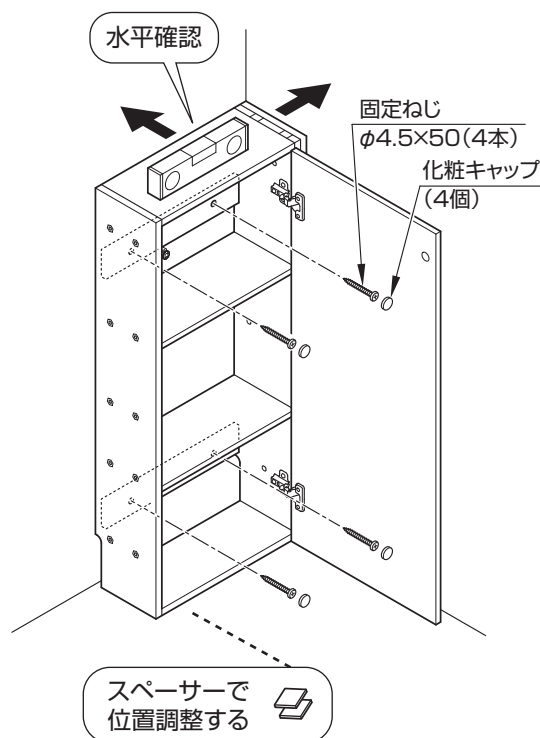


② 幅木がある場合は幅木分だけカットする。



③ サイドキャビネットに外側板を取り付ける。

サイドキャビネットを壁に押し当て、取付穴位置をけがき、下穴($\phi 4$)をあける。
サイドキャビネットを後壁に取り付ける。



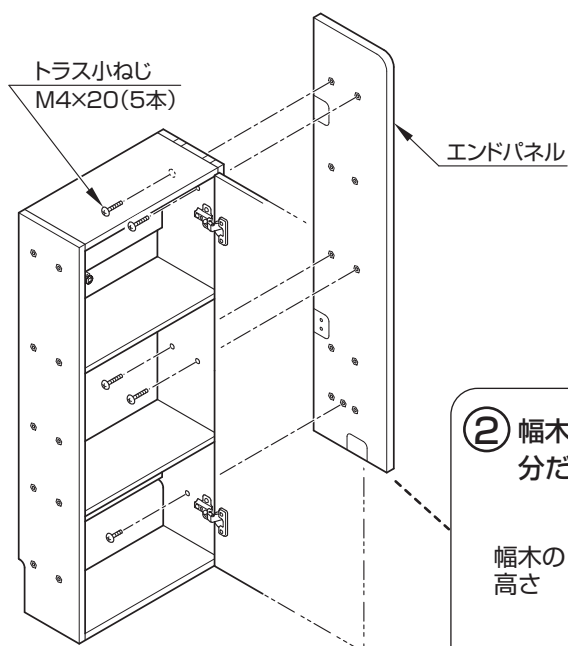
0 エンドパネル(オプション品)・サイドキャビネット (つづき)

■サイドキャビネットとエンドパネルを使用する場合

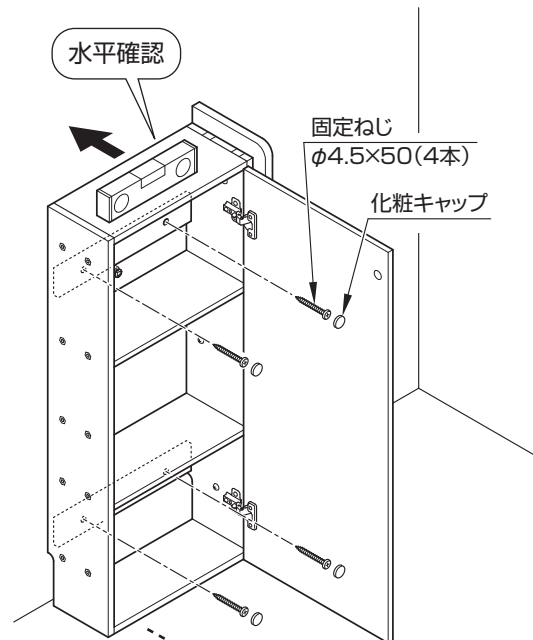
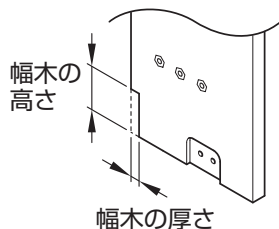
① サイドキャビネットから外側板を外す。

④ 取付位置を確認し、取付穴位置をけがき、
下穴(φ4)をあける。

サイドキャビネットを後壁に押し当て取り付ける。



② 幅木がある場合は幅木
分だけカットする。



③ サイドキャビネットにエンドパネルを取り付ける。

スペーサーで
位置調整する

間口寸法Wの測定範囲

	エンドパネル	サイドキャビネット	サイドキャビネット+エンドパネル
後横桟			
天板			

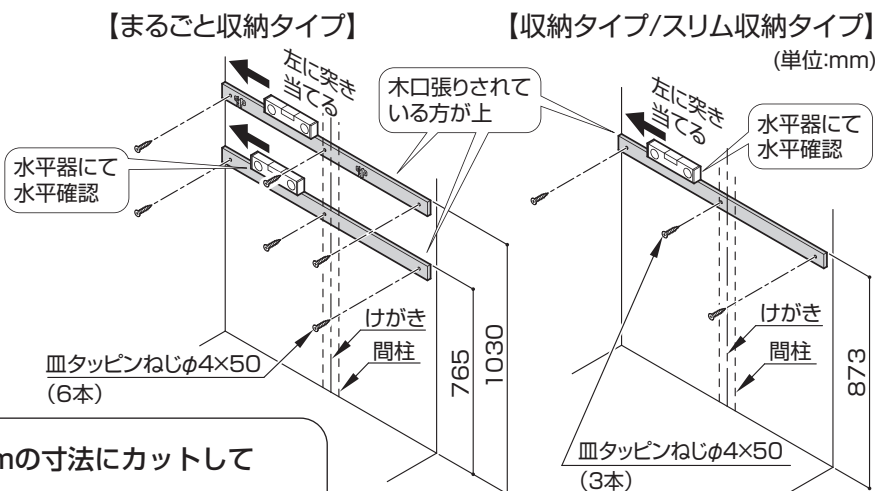
1 後横棧・壁側板

「側板・後横棧部、扉セット」の部材を使用

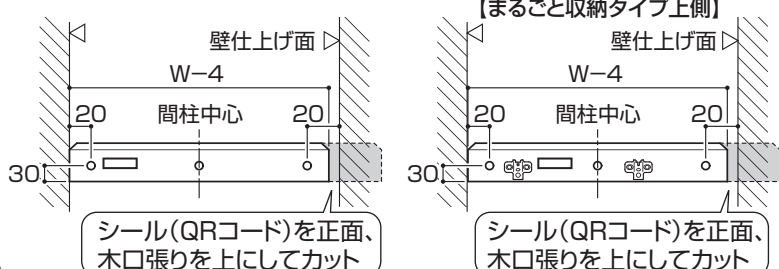
1 後横棧を取り付ける

① 後横棧上端の位置をけがく

床仕上面～後横棧上端	
まるごと収納タイプ (2本)	1030mm 765mm
収納タイプ/ スリム収納タイプ(1本)	873mm



② 後横棧に向かって右側をW-4mmの寸法にカットして 貫通穴(φ5)を3カ所あける 壁裏補強なしの場合は、間柱中心に下穴をあける (単位:mm)

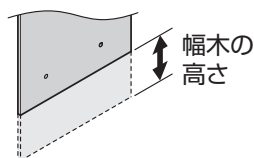


③ 壁に下穴(φ3)をあけ、シールを正面 にして同梱のねじで取り付ける 真ん中(間柱)を先に取り付けて、水 準器で水平を確認後、両端を取り付 ける

2 壁側板を取り付ける

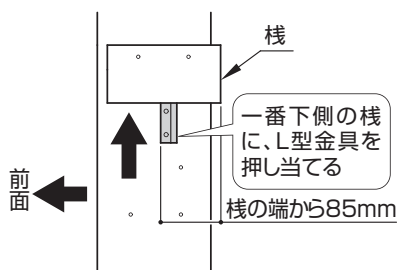
① 壁側板を加工する

【幅木がある場合】
幅木の高さ分をカットする



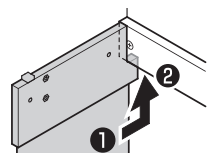
【横壁にコンセントがある場合】
コンセントプレートのサイズに 壁側板を開口する

【給水リモデルの場合】
左壁側板にL型金具(止水栓 に同梱)のねじ位置をけがき、 貫通穴(φ5)2カ所あける

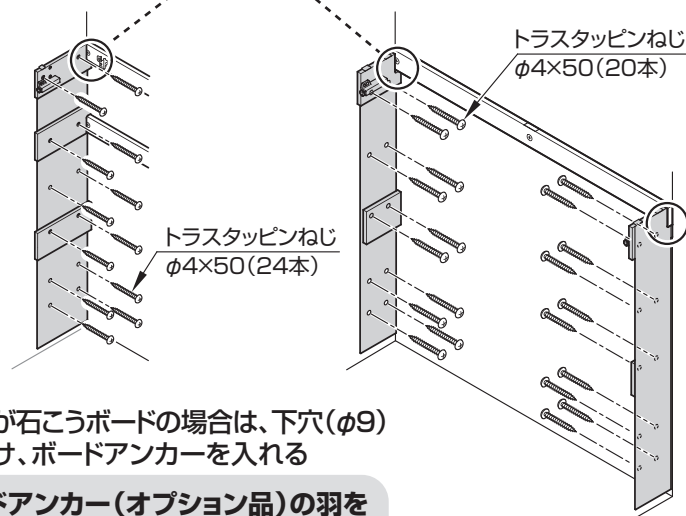


② 横壁に下穴(φ3)をあけ、ねじ固定する 給水リモデルの場合は、壁にL型金具用の下穴(φ3)をあける

- ① 壁側板を奥壁に押し当てる
- ② 後横棧下端に突き当てる

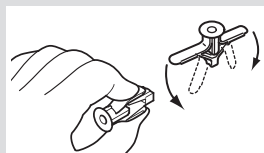


【まるごと収納タイプ】 【収納タイプ/スリム収納タイプ】



※下地が石膏ボードの場合は、下穴(φ9)をあけ、ボードアンカーを入れる

ボードアンカー(オプション品)の羽を 折りたたんで下穴(φ9)に差し込む



	ねじ数(本)
まるごと収納タイプ	24
収納タイプ/ スリム収納タイプ	20

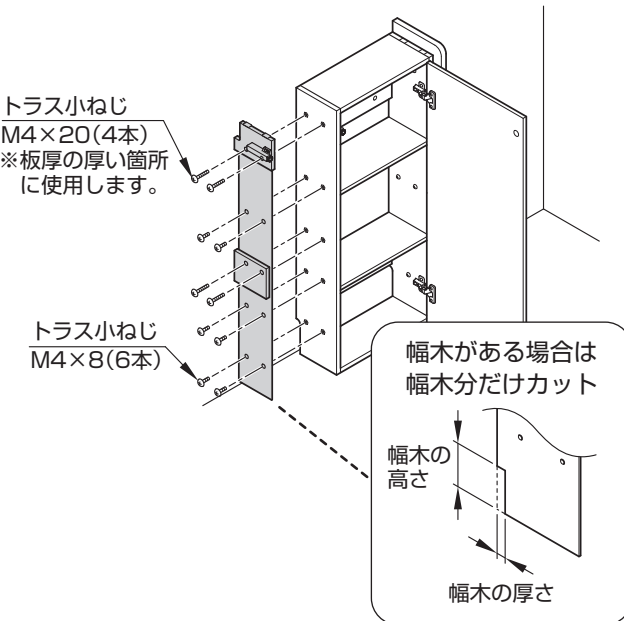
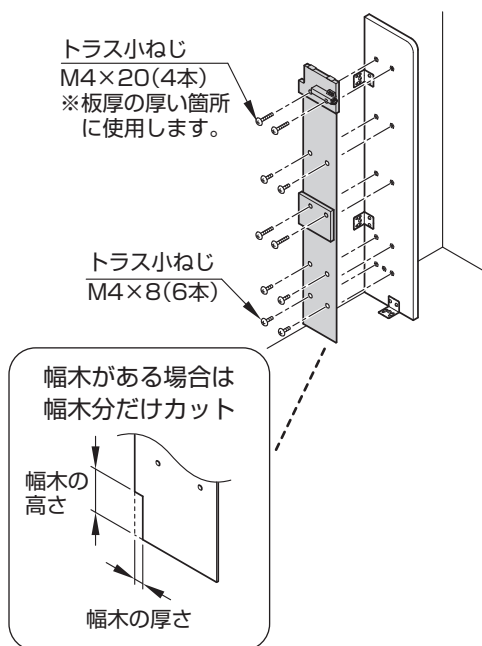
1 後横棧・壁側板 (つづき)

【エンドパネルの場合】

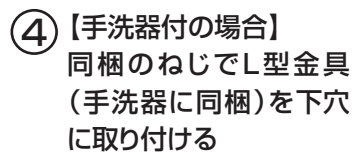
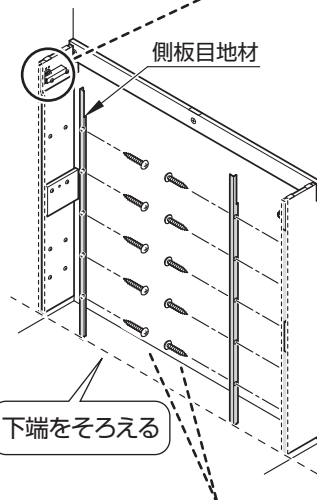
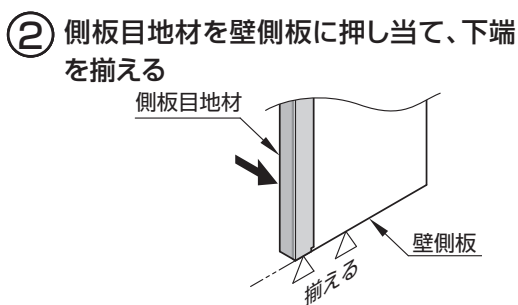
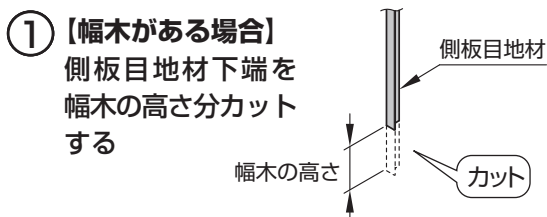
(「エンドパネル」に同梱のねじを必ず使用してください。)

【サイドキャビネットの場合】

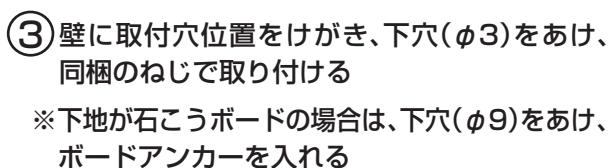
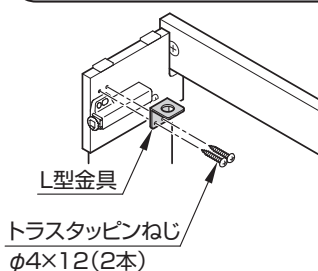
(「サイドキャビネット」に同梱のねじを必ず使用してください。)



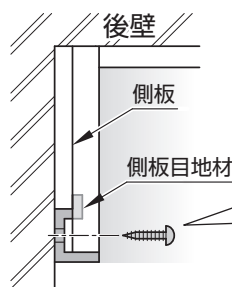
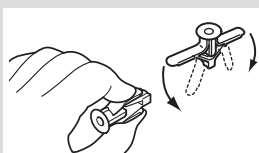
3 側板目地材 (「扉セット」に同梱) を取り付ける



ポイント
ねじは手締めで行うこと



ボードアンカー
(オプション品)の
羽を折りたたんで下
穴(φ9)に差し込む



【壁の場合】
トラスタッピンねじ φ4×30
【エンドパネル・サイドキャビネットの場合】
トラスタッピンねじ φ4×12
(エンドパネル・サイドキャビネットに同梱)

2 止水栓（給水新設の場合）

「大便器キャビネット部材」の部材を使用

1 止水栓、分岐金具（ウォシュレット用分岐金具は「ウォシュレット」に同梱）を取り付ける

※同梱の止水栓を必ず使用してください。

ポイント

取付位置は正面向かって左

左右勝手どちらも、正面向かって左側に取り付けます。

注意

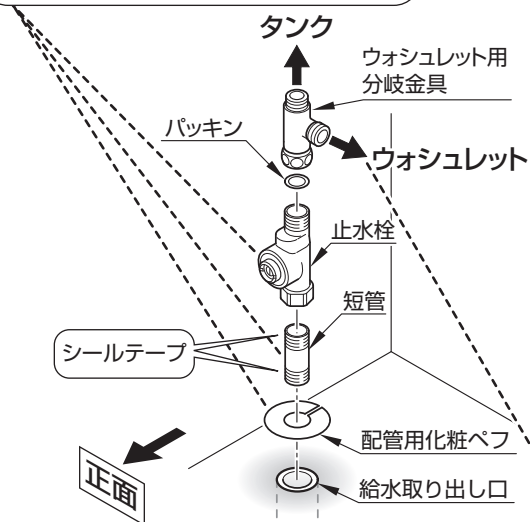


シールテープを必ず巻くこと

水漏れして家財などをぬらす財産損害発生
の原因となります。

【床給水の場合】

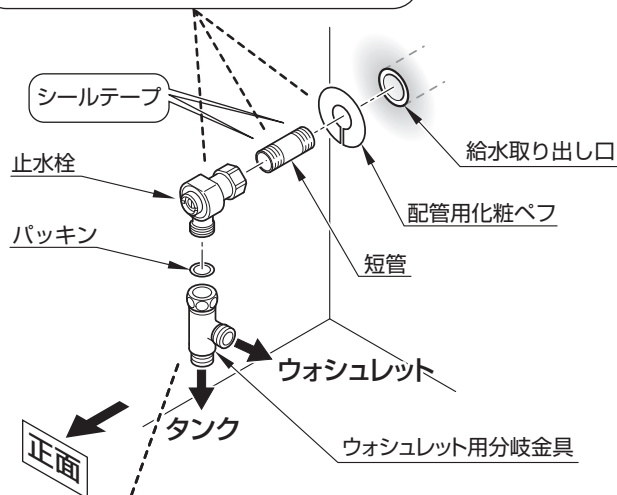
- ① 短管と止水栓を組み付け、
給水取り出し口に取り付ける



- ② ウォシュレット用分岐
金具を取り付ける

【壁給水の場合】

- ① 短管と止水栓を組み付け、
給水取り出し口に取り付ける



- ② ウォシュレット用分岐
金具を取り付ける

3 部材の取り付け①

2 止水栓（既存給水流用の場合）

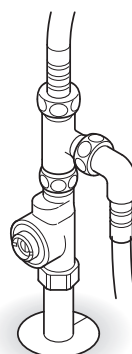
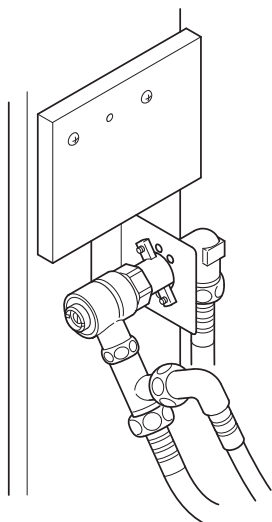
「大便器キャビネット部材」の部材を使用

一般地／流動方式

▶ P.28参照

水抜方式

▶ P.30参照



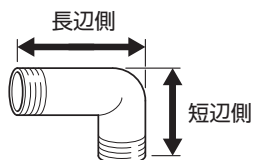
2 止水栓（既存給水流用の場合）（つづき）

一般地／流動方式 

1 給水エルボを取り付ける

給水エルボ（短辺側）にシールテープを巻き、
給水取出口に取り付ける

短辺側を給水取出口に接続

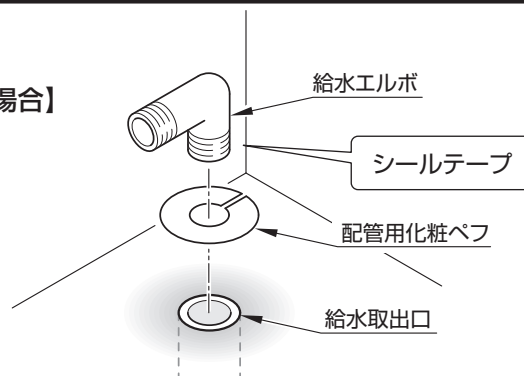


注意

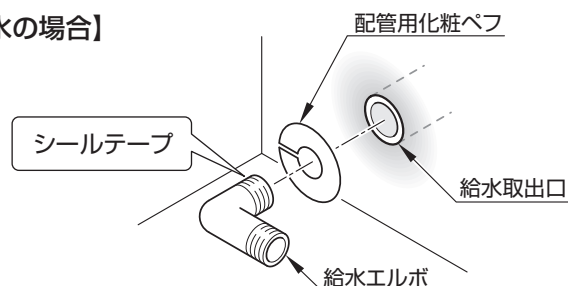


シールテープを必ず巻くこと
水漏れして家財などをぬらす財産損害発生
の原因となります。

【床給水の場合】

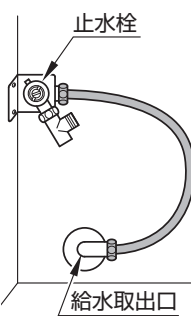
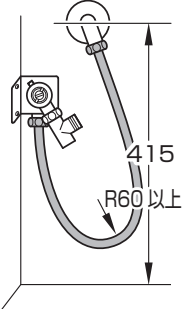
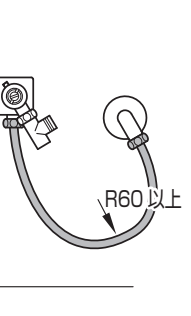
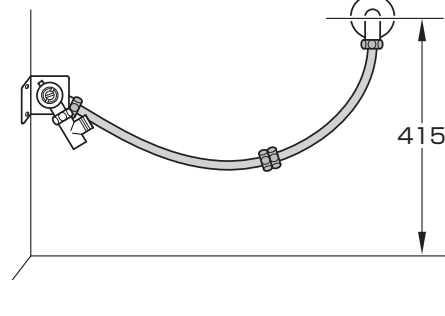
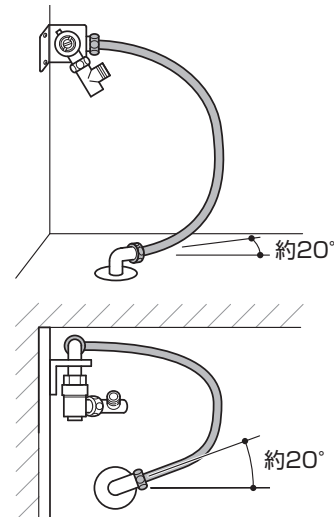
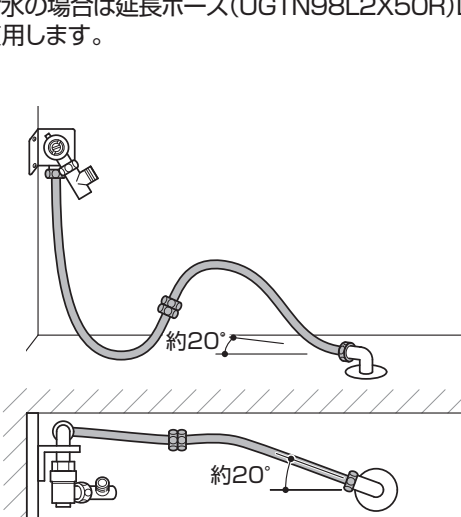


【壁給水の場合】



給水ホース（リモデル用）取り回し（参考）

（単位:mm）

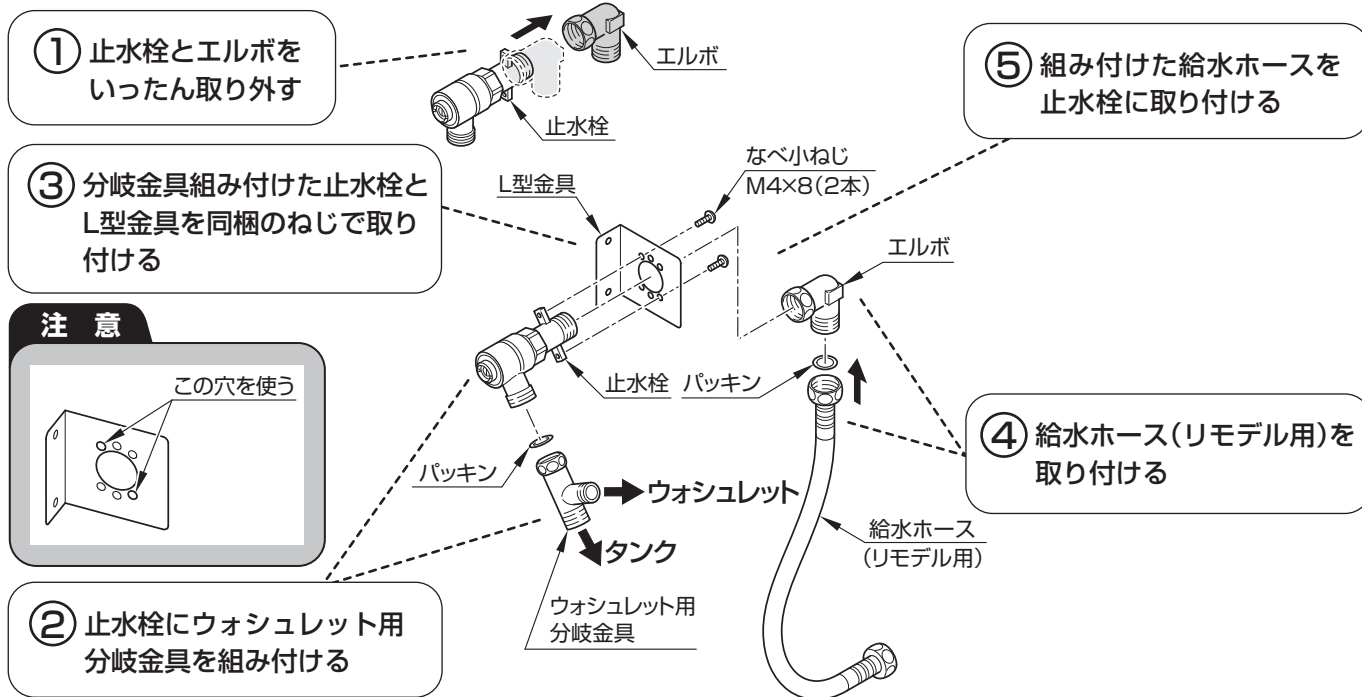
	左給水	右給水
壁給水	※給水位置が床仕上げ面から415mm以上の場合は、棚板を取り付けることができません。 【給水取出口が止水栓より下にある場合】  【給水取出口が止水栓より上にある場合】  【給水取出口が止水栓に近い場合】 	※右給水の場合は延長ホース（UGTN98L2X50R）L=522を使用します。 ※給水位置が床仕上げ面から415mm以上の場合は、棚板を取り付けることができません。 
床給水	※給水エルボは便器側に向ける 	※給水エルボは便器側に向ける ※右給水の場合は延長ホース（UGTN98L2X50R）L=522を使用します。 

2 止水栓（既存給水流用の場合）（つづき）

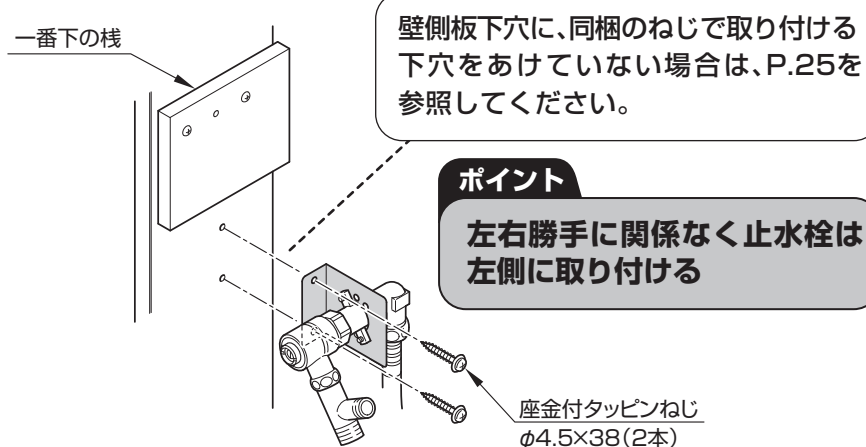
2 止水栓に分岐金具（ウォシュレット用分岐金具は「ウォシュレット」に同梱）を取り付ける

※同梱の止水栓を必ず使用してください。

※右給水の場合、オプション品の延長ホース（UGTN98L2X50R）を使用してください。

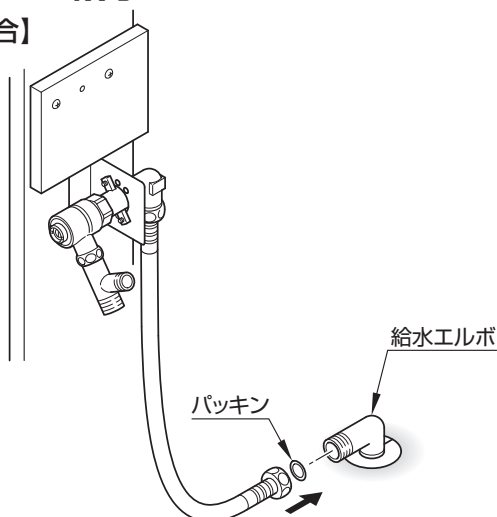


3 組み付けた止水栓を壁側板に取り付ける

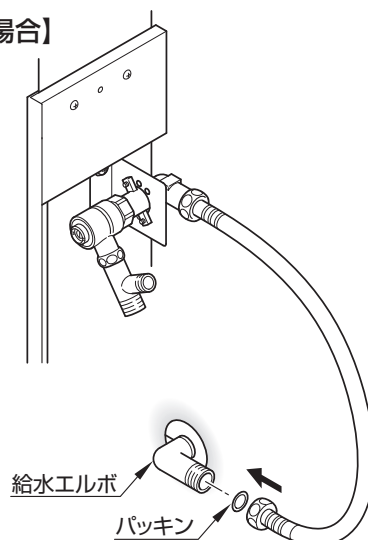


4 給水ホースを給水エルボに取り付ける

【床給水の場合】



【壁給水の場合】



2 止水栓（既存給水流用の場合）（つづき）

水抜方式

1 止水栓に分岐金具（ウォシュレット用分岐金具は「ウォシュレット」に同梱）を取り付ける

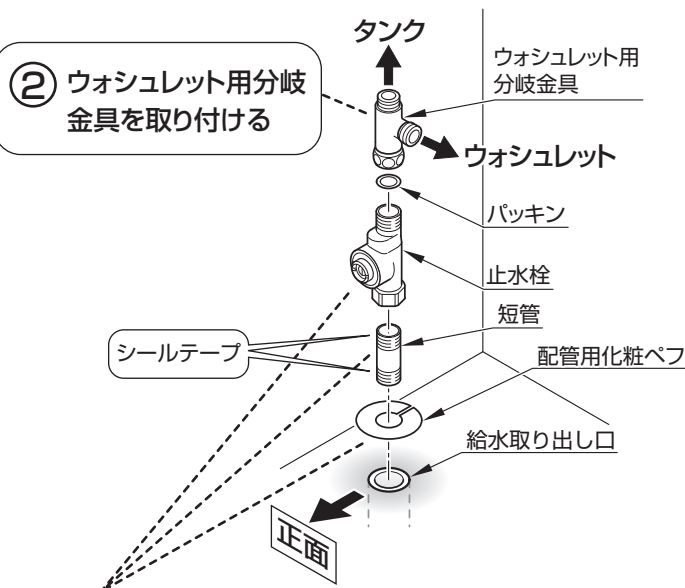
注意



シールテープを必ず巻くこと
水漏れして家財などをぬらす財産損害発生
の原因となります。

ポイント

ウォシュレット用分岐金具は
便器側に向ける



② ウォシュレット用分岐金具を取り付ける

① 短管と止水栓を組み付け、
給水取り出し口に取り付ける

※図は止水栓が左側にある場合
※同梱の止水栓を必ず使用してください

3 排水部材（排水心200mmの場合） 「大便器キャビネット部材」の部材を使用

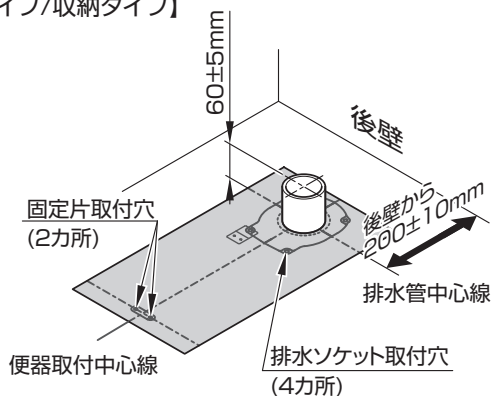
1 位置決めシートでけがく

① 位置決めシートを排水
管の中心線に合わ
せて床面に置く

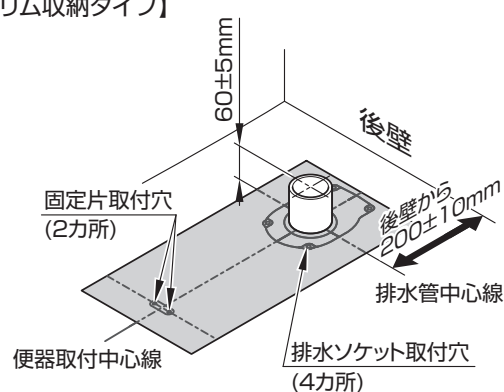
② 排水ソケット取付穴位置、便器取り
付け中心線をけがく
※鉛筆など、後で消せるものでけがく

③ 下穴(φ4.5)をあける

【まるごと収納タイプ/収納タイプ】



【スリム収納タイプ】



3 排水部材（排水心200mmの場合）（つづき）

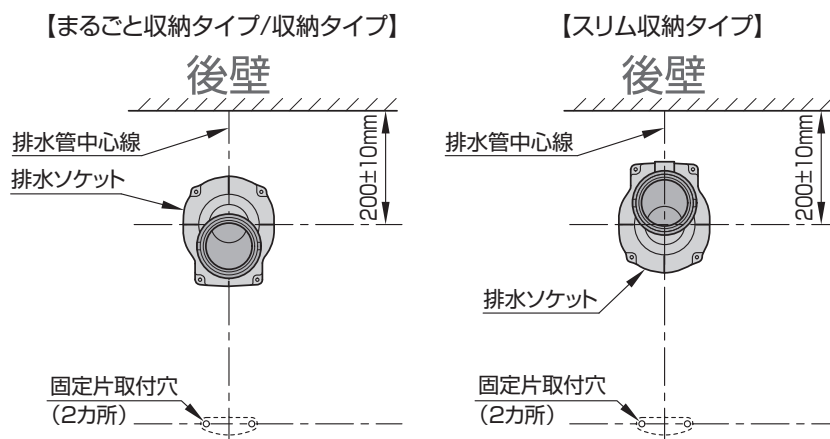
2 排水ソケットを取り付ける

① 排水ソケットの向きを確認する

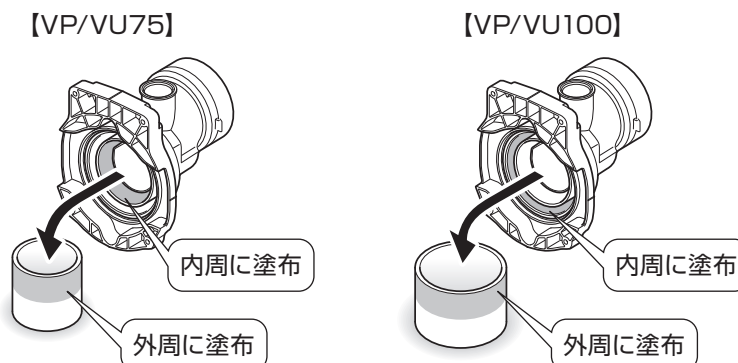
注意

排水ソケット向きに注意

排水ソケットを間違った方向に取り付けると便器の施工が出来なくなります。



② 排水ソケットと排水管に塩ビ用接着剤を塗布する



注意

接着剤塗布位置を確認する

排水管の種類によって異なりますのでご注意ください。接着剤塗布面は、排水ソケット内周、排水管外周となります。間違えますと水漏れして家財などをぬらす財産損害発生のおそれがあります。また、臭気漏れの原因となります。



必ず守る

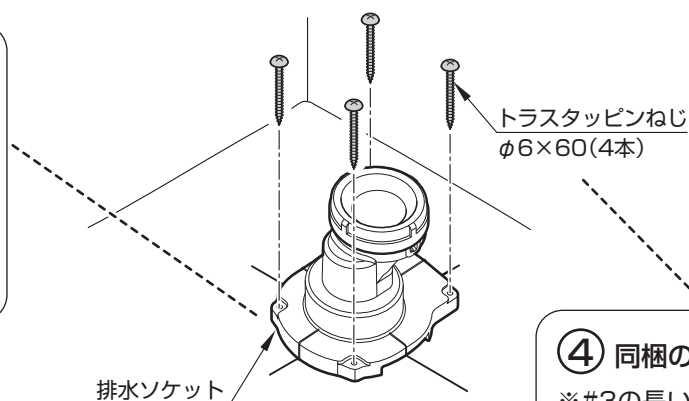
接着剤は必ず、排水ソケットと排水管の両方に塗布する

片側のみ塗布した場合、水漏れして家財などをぬらす財産損害発生のおそれがあります。また、臭気漏れの原因となります。

※図はスリム収納タイプの場合

③ 排水ソケットを床面に着くまで押し込む

- ・ 排水管の切断面のバリ、汚れは必ず除去すること
- ・ けがいた穴位置、中心線に合わせて置く



④ 同梱のねじで取り付ける

※#3の長いビットを使用

注意



必ず守る

排水ソケットは下面が床面にあたるまで押し込む

押し込まない場合、排水ソケットの固定時に破損するおそれがあります。

3 排水部材（排水心可変の場合）

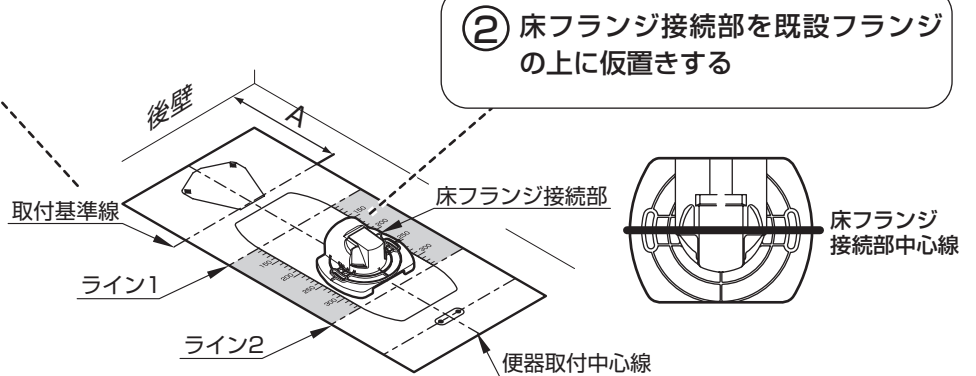
「大便器キャビネット部材」の部材を使用

1 既設の便器を取り外した後、Pシールをきれいに取り除く

2 床フランジ接続部を仮置きする

① 後壁からA寸法の位置に位置決めシートの取付基準線を合わせて置く
取付基準線の位置決めは、左右2カ所で行ってください。

	A寸法
まるごと収納タイプ 収納タイプ	246mm
スリム収納タイプ	160mm

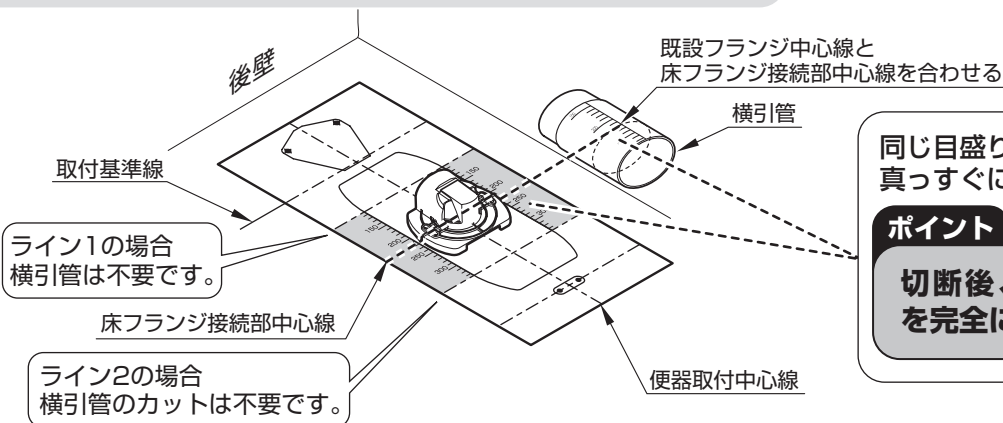
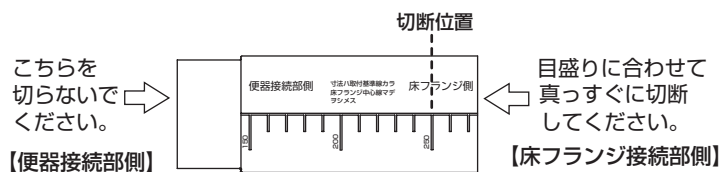


② 床フランジ接続部を既設フランジの上に仮置きする

3 横引管を切断する

排水心の長さに合わせて、横引管を切断する。

（例）測定寸法が250mmの場合



同じ目盛り位置で横引管を真すぐに切断する

ポイント

切断後、端部のバリを完全に除去する

4 排水ソケットを組み立てる

注意

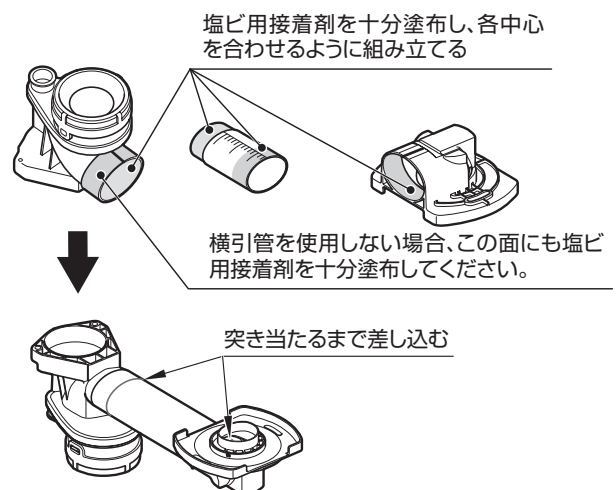


必ず守る

横引管は最後まで、きちんと押し込む
接着が不十分な場合、水漏れして家財などをぬらす財産損害発生の原因になります。

床面に対してガタツキがないように接着する

ガタツキが大きいと水漏れして家財などをぬらす財産損害発生の原因になります。



3 排水部材（排水心可変の場合）（つづき）

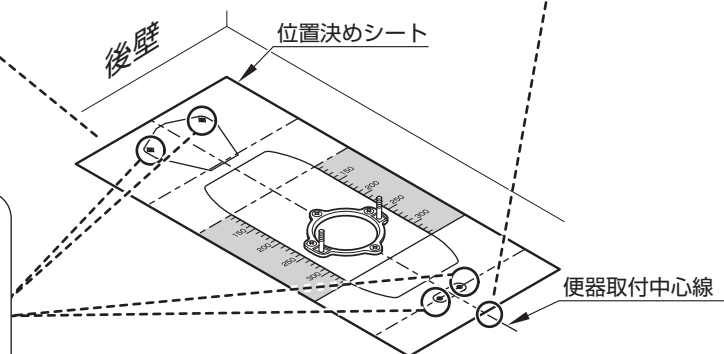
5 位置決めシートでけがく

① ②で合わせた位置に位置決めシートを置く

② 排水ソケット取付穴位置（2カ所）、固定片取付穴位置（2カ所）をけがく

④ 下穴（φ4.5）をあける

③ 便器取付中心線に印をつける
※鉛筆など、後で消せるものでけがく



6 排水ソケットを取り付ける

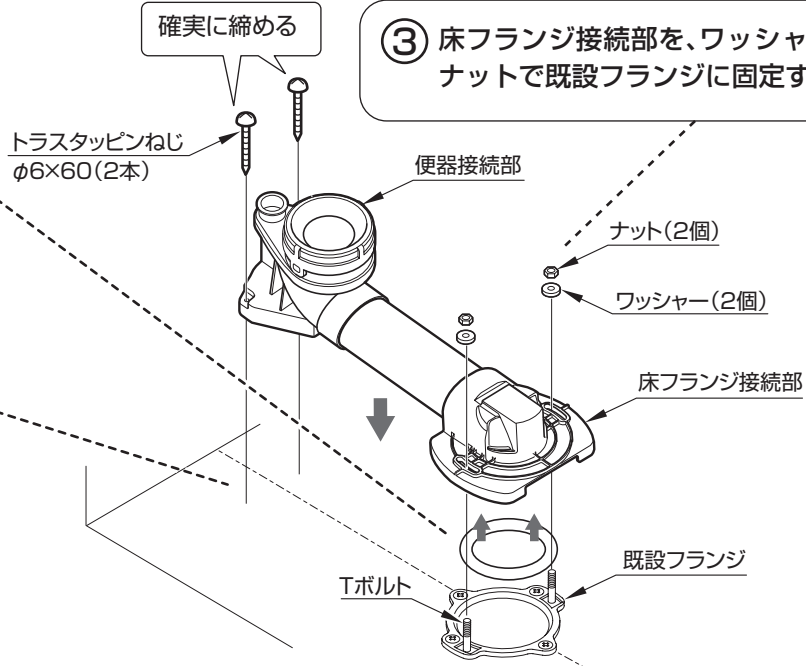
※図は金属フランジの場合

① 【樹脂フランジの場合】
Pシール（樹脂フランジ用）を
既設フランジにセットする

【金属フランジの場合】
Pシール（金属フランジ用）を床
フランジ接続部にセットする

② 床フランジ接続部を既設
フランジに押し付けてか
ら、便器接続部の取付穴に
同梱のねじで取り付ける

③ 床フランジ接続部を、ワッシャー、
ナットで既設フランジに固定する



注意

Pシール取り扱い上の注意

- ・ 既設の床フランジのタイプに合わせ、金属フランジ用Pシールまたは、樹脂フランジ用Pシールを使用する
- ・ 既設のフランジタイプによって、Pシールの取付方法が異なるので注意する

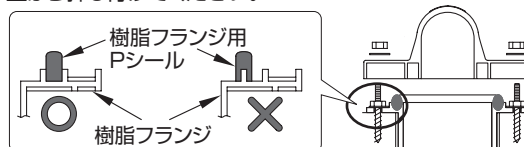
Pシールを間違えて取り付けると、洗浄不良などの不具合や便器が詰まり、汚水があふれたり、水漏れして家財などをぬらす財産損害発生のおそれがあります。



必ず守る

（樹脂フランジ用）

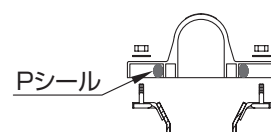
Pシールは必ずフランジ側にセットしてから、排水ソケットを上から押し付けてください。



Pシールは溝にきちんと取り付けてください。

（金属フランジ用）

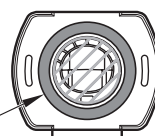
Pシールは必ず床フランジ接続部（排水アジャスター）にはめてから、フランジに押し付けてください。



Pシールが斜線内に入らない
ようにセットする

（床フランジ
接続部裏面）

Pシール



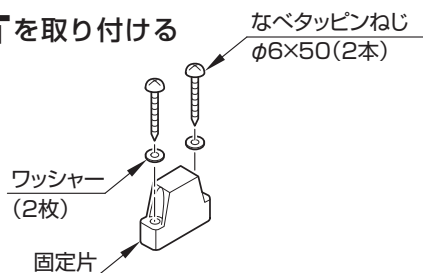
※図は金属フランジの場合

4 大便器

👉「大便器」の部材を使用

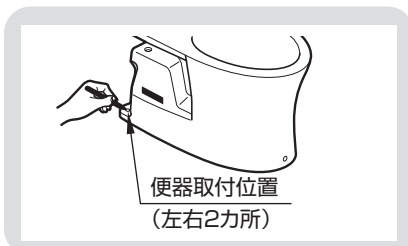
1 固定片取り付け穴に固定片を取り付ける

※#3ビットを使用

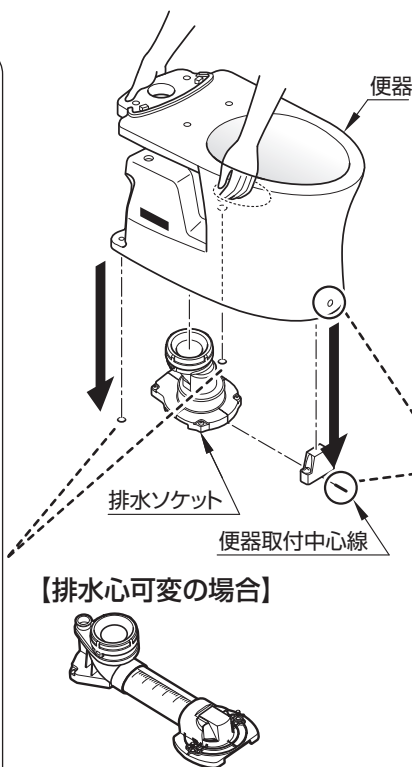
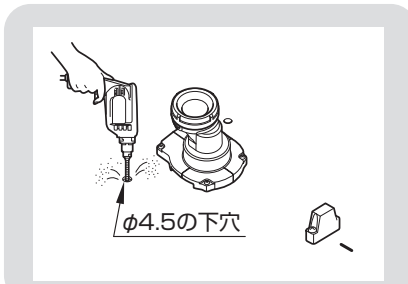


2 大便器を仮置きし、下穴をあける

- ② 大便器を仮置きし、便器取付位置(左右2カ所)をけがく



- ③ 大便器をいったん外して、下穴(φ4.5)をあける



便器の持ちかた



- ① 便器排水口を排水ソケットにはめ込む

ポイント

床にけがいた印(便器取付中心線)と便器前方の穴を合わせる

⚠ 注意



禁止

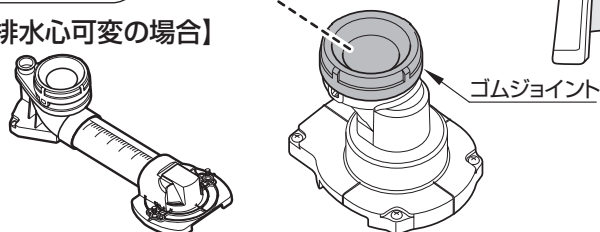
結露防止カバーは取り外さない
再度取り付けることができません。
取り外すと結露が床をぬらす
おそれがあります。



3 大便器を固定する

- ① 便器排水口および排水ソケットの接続部周辺のごみや汚れを取り除く

【排水心可変の場合】



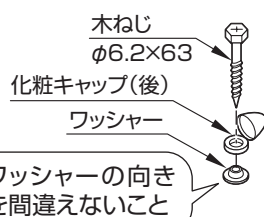
4 大便器 (つづき)

- ② 便器排水口を排水ソケットにはめ込む

- ③ 便器後側の取り付け穴(2カ所)を、木ねじ、化粧キャップ、ワッシャーで固定する。
※#3ビットを使用

注意

締め過ぎて便器を割らないこと



⚠ 注意



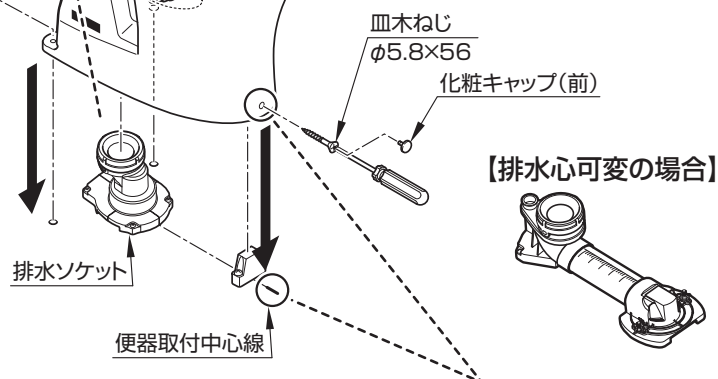
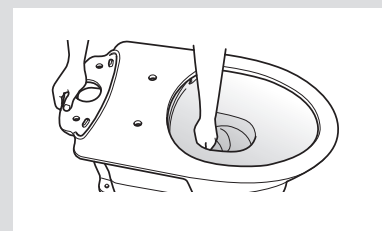
便器後部の固定を必ず先に行う

前側の固定を先に行うと便器が後方へスライドし、ゴムジョイント部から水漏れして家財などをめらす財産損害発生のおそれがあります。

注意

最後の締め増しは、手締めにより行い、便器を割らないように注意すること

便器の持ちかた



- ④ 便器前側の取り付け穴に同梱のねじを差し込み、固定片に大便器を固定し、ねじの頭に化粧キャップ(前)を差し込む

ポイント

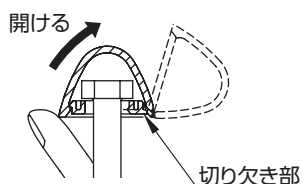
床にけがいた印(便器取付中心線)と便器前方の穴を合わせる
こと

3 部材の取り付け ①

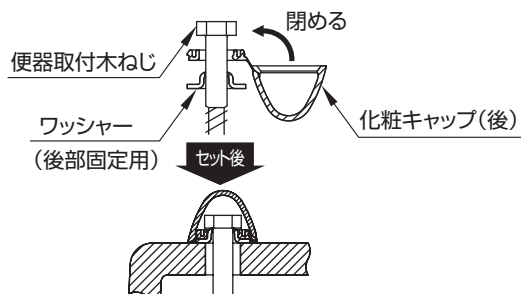
化粧キャップ付きねじの固定方法

【取り付けかた】

- ① 最初に化粧キャップを開ける。
木ねじを手で持ち、切り欠き部をよけて化粧キャップの下部を矢印の方向に指で押し上げてください。

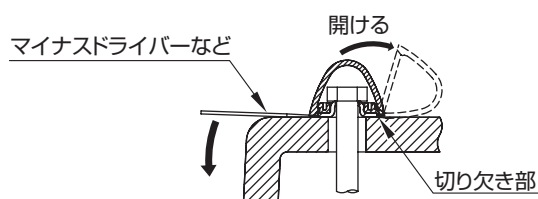


- ② 木ねじを取り付けたあとは、化粧キャップを矢印の方向に曲げて、「パチッ」と音がるまで押し込む。



【取り外しかた】

施工後にボルトを外すときは、マイナスドライバーなどを使用し、化粧キャップの切り欠き部をよけて下部に差し込み、矢印の方向に押さえて開いてください。



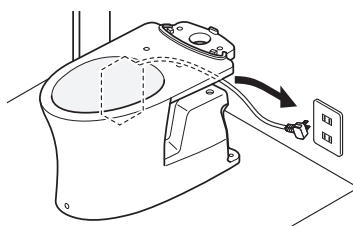
4 大便器

👉 「大便器」の部材を使用



ヒーター付便器の場合

電源コードをコンセント側に取り回しておく

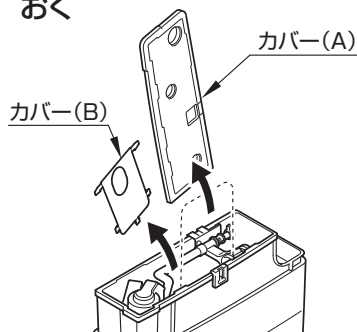


5 セットタンク

👉 「セットタンク」の部材を使用

1 セットタンクを取り付ける

- ① カバー(A) (B)を取り出しておく



- ② セットタンクを大便器にセットする

パッキン

⚠ 注意



必ず守る

セットタンクにパッキンがセットされていることを確認する

水漏れして家財などをぬらす
財産損害発生の原因となります。

パッキン
(セットタンクに付属)

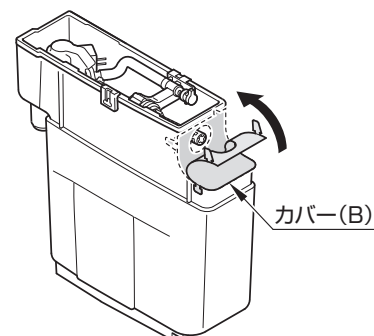
- ③ 固定ナットでセットタンクを固定する

📖 参照 取り付けかたは、P38を参照してください。

- ④ セットタンクの給水ホースを分岐金具に取り付ける

📖 参照 水抜方式🐼の取り付けかたは、P37を参照してください。

- ⑤ カバー(B)を取り付ける

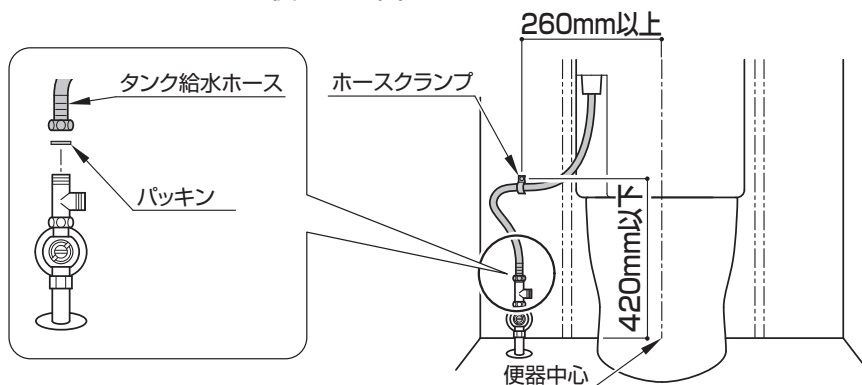


5 セットタンク (つづき)

水抜方式

止水栓が左側にある場合

- ① ホースクランプでホースを後ろ壁に固定する

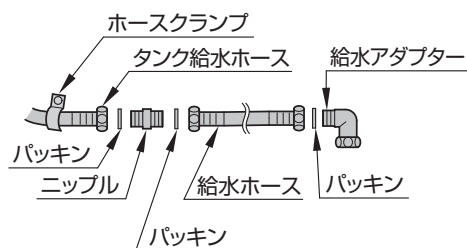


逆勾配注意

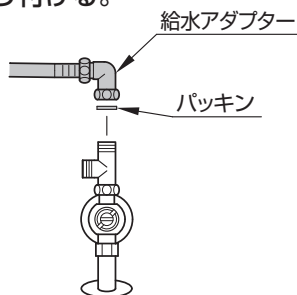
給水ホースがたるまないように固定する。

止水栓が右側にある場合

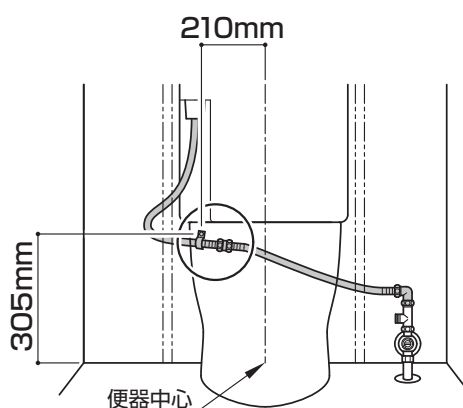
- ① タンク給水ホース、ニップル、給水ホース、給水アダプターを組み付ける。



- ② 給水アダプターを分岐金具に取り付ける。

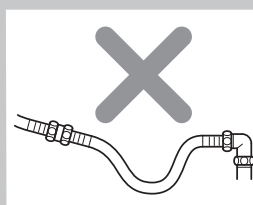


- ③ ホースクランプでホースを後ろ壁に固定する



逆勾配注意

給水ホース
(TN98L2X30)
がたるまないよう
に固定する。



5 セットタンク (つづき)

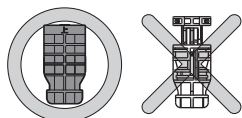
固定ナットの取り付けかた

⚠ 注意



セットタンクを固定ナット(黒)以外で固定しない

水漏れするおそれがあります。



左右の固定ナットを確実に締める

左右の固定ナットがしっかり締まっていないと、水漏れして家財などをぬらす財産損害発生のおそれがあります。

固定ナットを手締めで回らなくなるまでかたく締め付けます。

※再度、左右が確実に締まっていることを確認してください。



⚠ 注意



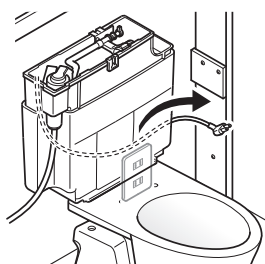
固定ナットを締め付けるときは必ず手で行う

工具を使用すると破損するおそれがあります。



タンク(水抜き仕様)の場合

タンク用ヒーターの電源コードをコンセント側に取り回しておく



6 コアキャビネット

「側板・後横桟部、便器洗浄ユニット」の部材を使用

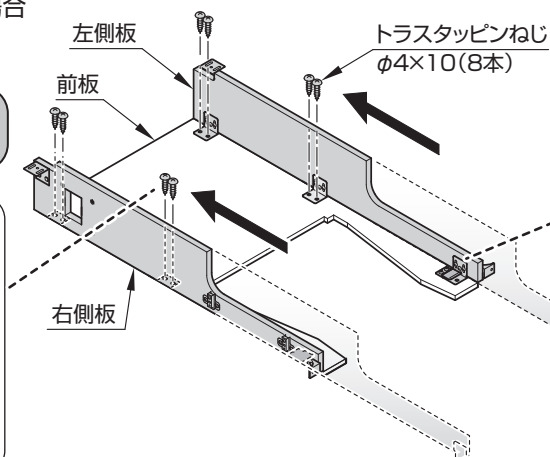
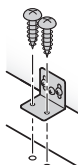
1 前板と側板 (コアキャビネット用) を組み立てる

※図はスリム収納タイプの場合

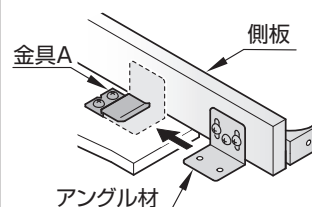
ポイント

ねじは手締めで行うこと

② 同梱のねじで下穴 (8カ所) に固定する



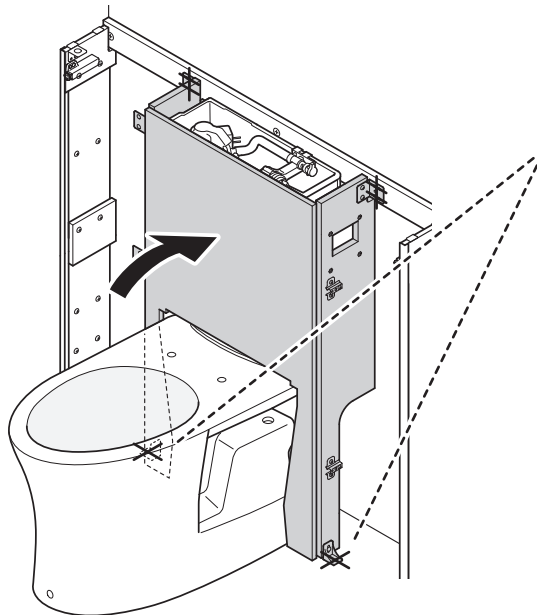
① 側板を下からスライドさせ、アングル材を金具Aに差し込む



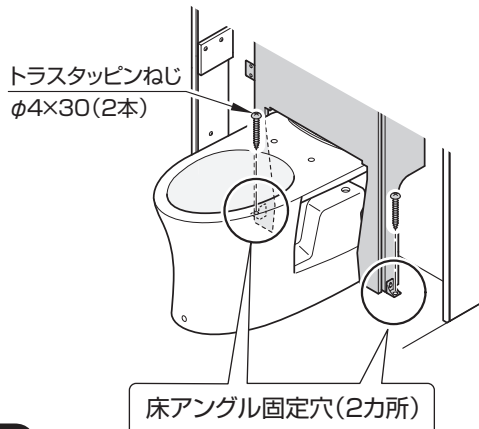
6 コアキャビネット(つづき)

2 コアキャビネットを設置する

- ① コアキャビネットを大便器手前から浮かせて差し込む

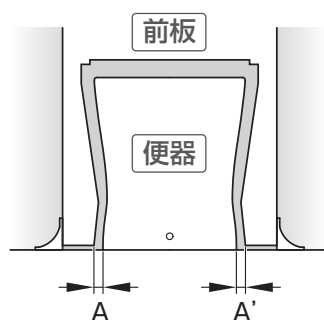


- ② 下図のようにA、A'が同じ寸法になるように調整し、床に下穴(φ3)をあけ、同梱のねじで床アングルを固定する



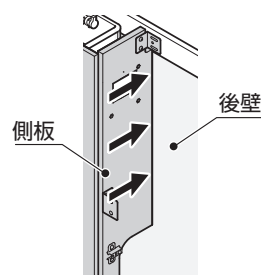
ポイント

A、A'寸法を均等にする

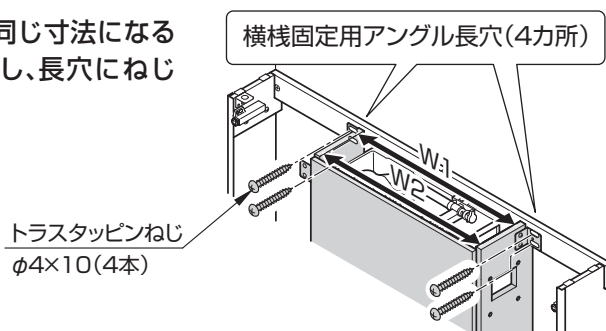


すき間がないように

後壁と側板(コアキャビネット用)のすき間がないように



- ③ W1、W2が同じ寸法になるように調整し、長穴にねじで固定する

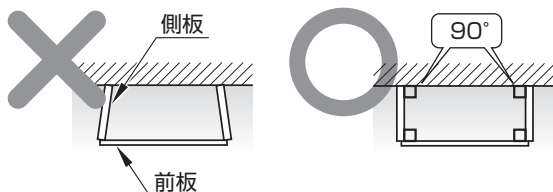


ポイント

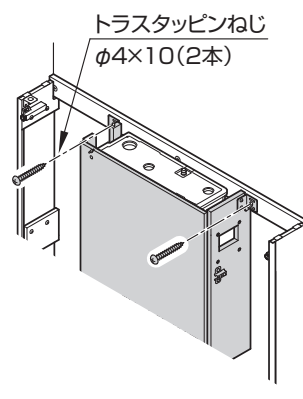
左右均等に

コアキャビネットの四隅が直角になっていること

W1、W2が同じ寸法でない場合は、長穴のねじをゆるめ、再度調整し直す



- ④ 再度、W1、W2の寸法を確認し、丸穴にねじで固定する



ポイント

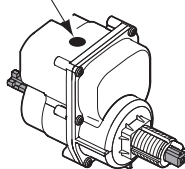
ねじは手締めで行うこと

6 コアキャビネット(つづき)

3 洗浄レバー

便器洗浄ユニットに同梱の説明書とは取り付け向きが異なります。
ワッシャーA、ワッシャーBは使用しません。

●印を横(奥側)に向ける



便器洗浄ユニット

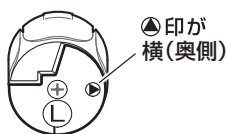
洗浄レバーカバー

ナット

① 便器洗浄ユニットに
洗浄レバーカバーを取り付
ける

② ナットをしっかりと締め付ける

③ ▲印を横(奥側)にしてストッパー L
(緑)をはめ込み、同梱のねじで固
定する



注意

ガタツキがないように
しっかりと締め付けること

ストッパー L (緑)

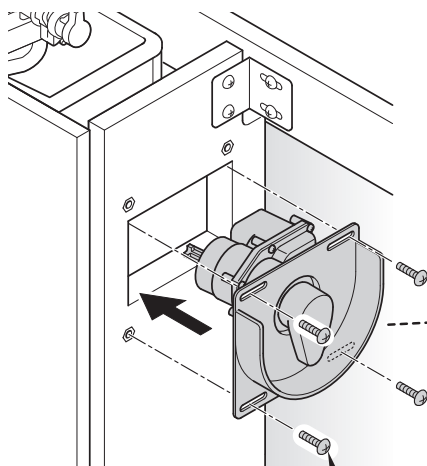
皿ねじ
φ3×10

洗浄レバー

④ 「カチッ」と音がするまで
洗浄レバーを差し込む

シールの貼り付け

シールを貼る

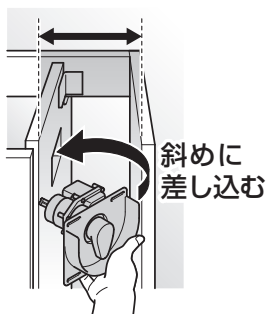


トラス小ねじ
M4×10(4本)

⑤ 便器洗浄ユニットをコアキャビネット側板の穴に差し込み、洗浄レバー
カバーを同梱のねじで固定する

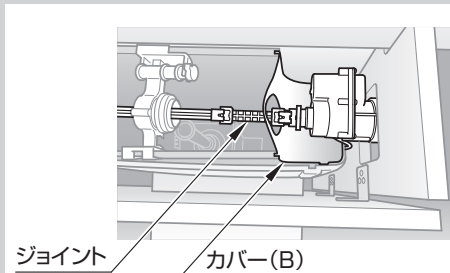
ポイント

間口が狭い場合



斜めに
差し込む

ジョイントがカバー (B) に干渉しないよう
に、洗浄レバーカバーの位置を調整する



ジョイント

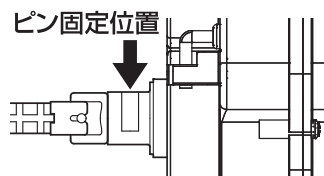
カバー (B)

⑥ ジョイントからピンを取り外す

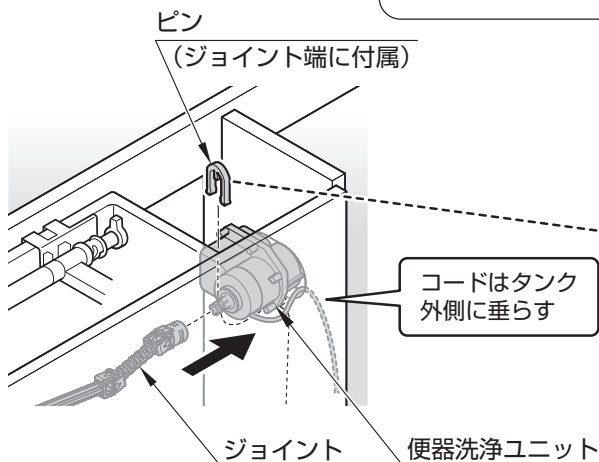
⑦ 便器洗浄ユニットのピン固定位置まで
ジョイントを差し込み、ピンで固定する

ポイント

ジョイントが抜けないことを確認する



ピン固定位置



便器洗浄ユニット

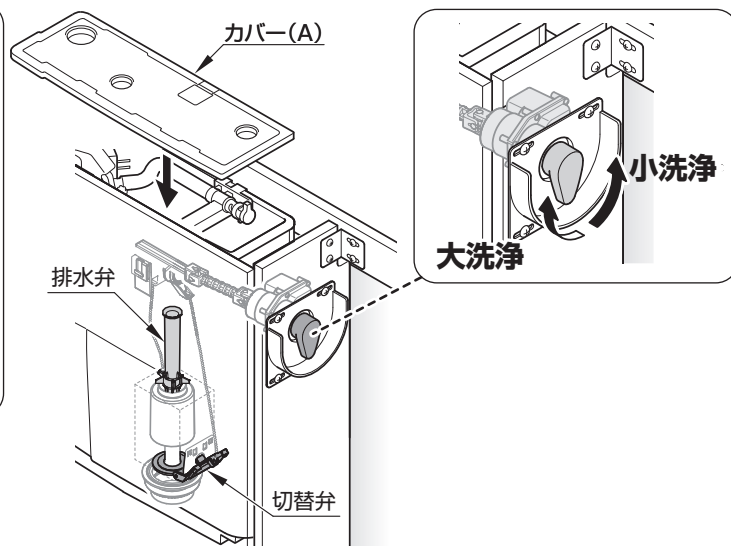
6 コアキャビネット(つづき)

⑧ レバーと排水弁の作動を確認する

作動確認

- ① レバーが「大」側、「小」側へ正常に作動すること
- ② レバーを「大」側に回したときは、排水弁のみが引き上がること
- ③ レバーを「小」側に回したときは、排水弁・切替弁が引き上がること

⑨ カバー(A)を取り付ける



7 ウォシュレット 「大便器キャビネット部材、ウォシュレット、便器洗浄ユニット、大便器」の部材を使用

1 ウォシュレットを設置する

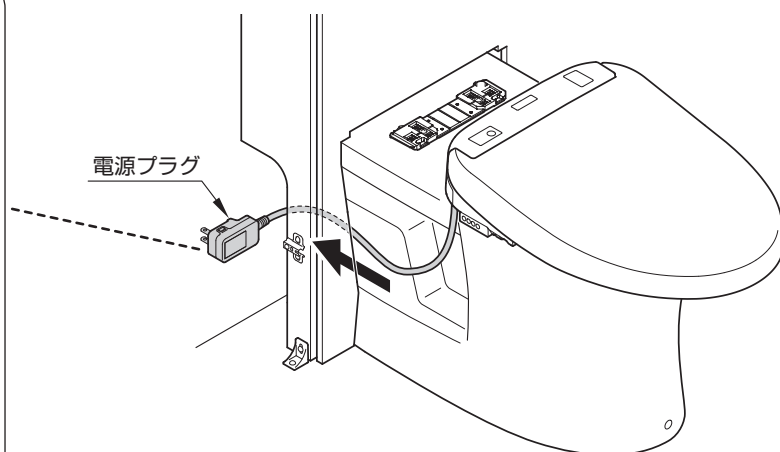
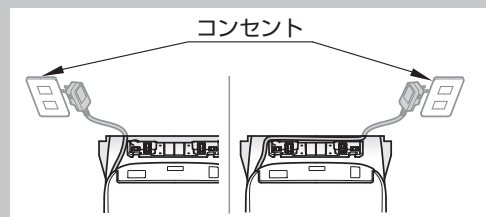
参照 詳しくは、ウォシュレット施工説明書を参照してください。
作業がしやすいように、ウォシュレットを手前に引き出しておく。

2 電源プラグ・給水ホース・便器洗浄ユニットプラグを前板切り欠きに通す

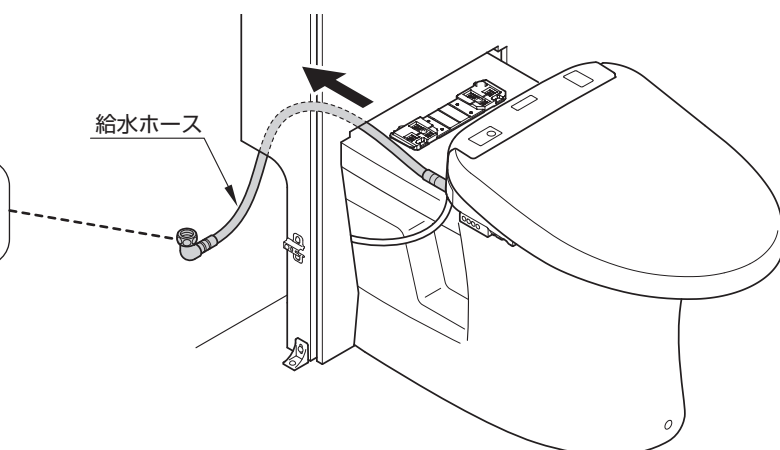
- ① 電源プラグをコンセント側の前板切り欠きに通す

ポイント

電源コードは必ずコンセント側の開口に通す



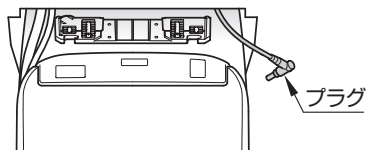
- ② 給水ホースを便器上端と前板のすき間から差し込む



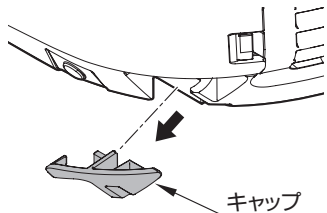
7 ウォシュレット(つづき)

③ プラグ(便器洗浄ユニット)を接続する

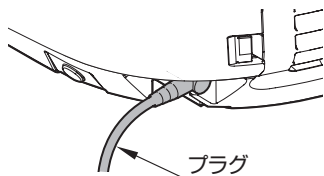
① プラグを右側から取り出す



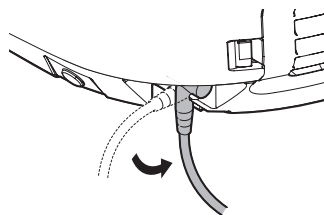
② キャップを外す



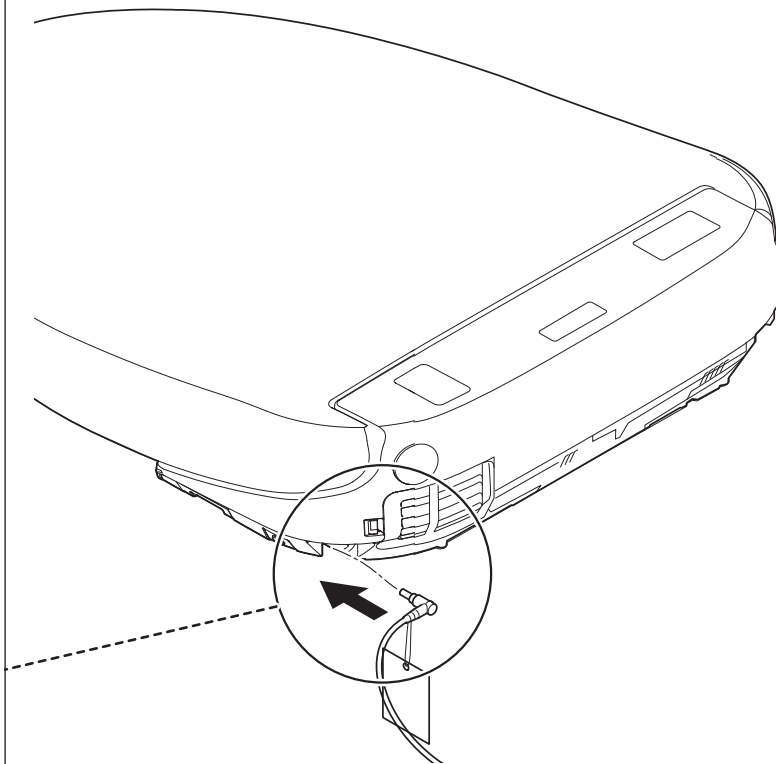
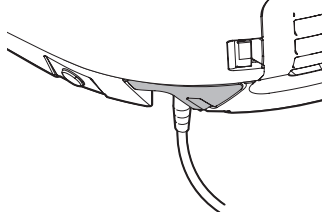
③ プラグを横向きに根元まで確実に差し込む



④ プラグを下向きに回す

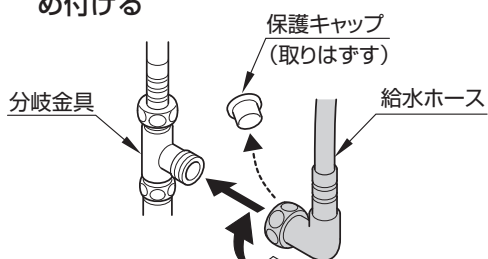


⑤ キャップを取り付ける

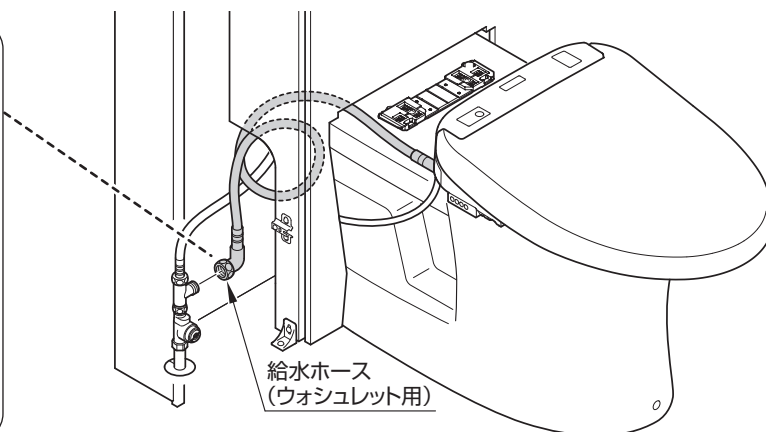


③ ウォシュレット給水ホースを接続する

① 分岐金具に給水ホースの袋ナットを締め付ける



※給水ホースを折り曲げたり、
つぶしたりしないでください。



7 ウォシュレット(つづき)

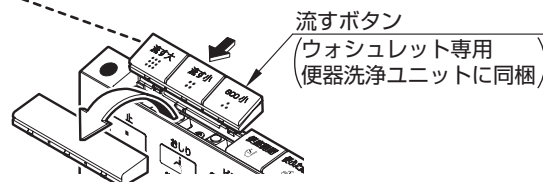
4 リモコンの設定と作動確認

- ① ウォシュレットの電源プラグをコンセントに差し込む
※ノズルがいったん出て戻る初期動作を行うか確認する

- ② 流すボタンを取り付ける
(流すボタン取付説明書参照)

ポイント

リモコンには流すボタンが取り付けられていません。
必ず取り付けてください。



- ③ 止 10秒以上押す
※リモコンの液晶が下図のようになります。

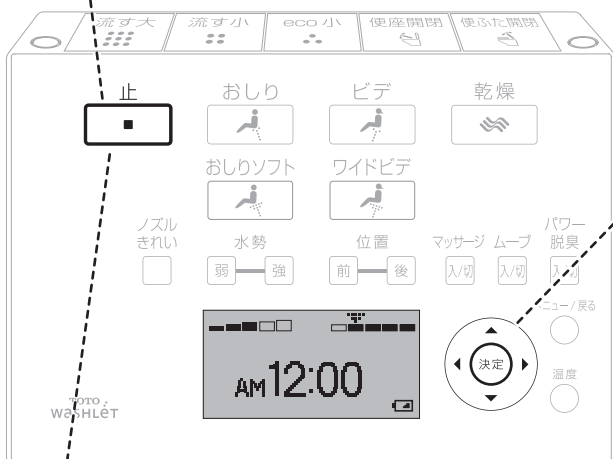
便器洗浄モード 1/10
1. 便器洗浄モード 1
2. 便器洗浄モード 2
◆で選ぶ⇒[決定] 押す

リモコンを
ウォシュレット本体
の受信部に向けて
設定してください。



注意

モード設定はウォシュレット本体を
取り付け、電源を入れた後に行っ
てください。
※取り付けずにモード設定をしても
設定はされておられません。



※機種によっては、ボタンのレイアウトやリモコンの
デザインなどが異なります。

- ④ ◆で「便器洗浄モード8」を選び [決定] を押す
ウォシュレット本体から電子音が1回鳴る

便器洗浄モード 8/10
7. 便器洗浄モード 7
8. 便器洗浄モード 8
◆で選ぶ⇒[決定] 押す

便器洗浄モード 8
に設定しました



確認

決定後、下記表示になっているか確認してください

8. 便器洗浄モード 8 ◀が表示されます

- ⑤ 止 押す → 設定完了

- ⑥ 作動を確認する
※連続して押すと作動しません。約10秒たってからもう一度ボタンを押してください。

流す大 → 洗浄レバーが大側に回転する
流す小 → 洗浄レバーが小側に回転する
eco小 → 洗浄レバーが小側に回転し約3秒間停止後戻る

■正しく作動しない場合は、再度手順③から設定してください

重要

3 部材の取り付け①

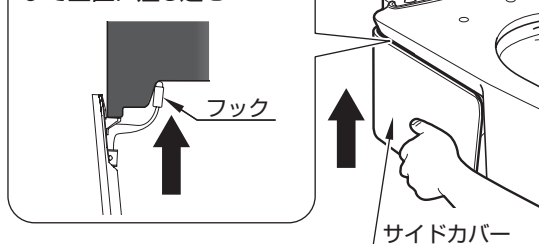
7 ウォシュレット(つづき)

5 サイドカバーを取り付ける

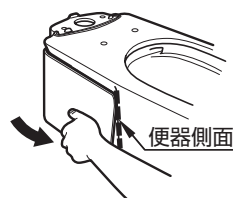
取り付けかた

① サイドカバーを差し込む

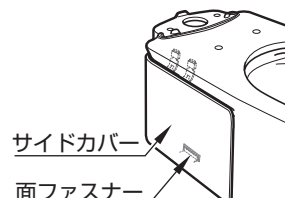
便器上面にフックが当たる
まで垂直に差し込む



② サイドカバーを便器
側面に合わせる



③ 面ファスナー部を
しっかり押さえる

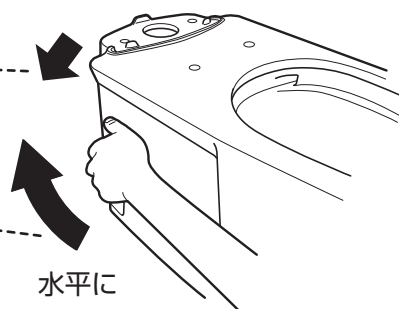


※面ファスナー部をしっかり押さえて、サイドカバーが外れないことを確認してください。

取り外しかた

② 面ファスナーを外したあと、サイド
カバーを下方向へ引っ張り外す。

① サイドカバー後方下側を持ち、水平
に引っ張り、面ファスナーを外す。



フックが外れたときの対処方法

フックを持ち上げ、上スナップを軽く押しながら「カチッ」と音がするまで差し込む。

※もう一度、フックの左右、上面がサイドカバーに確実に差し込まれていることを確認してください。

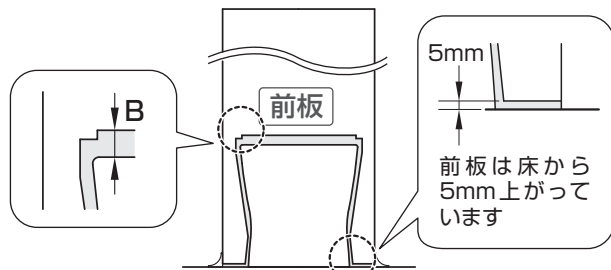


7 ウォシュレット(つづき)

6 はかま目地材を取り付ける

- ① はかま目地材を前板の下端に合わせてカットする【目安：B-10mm】

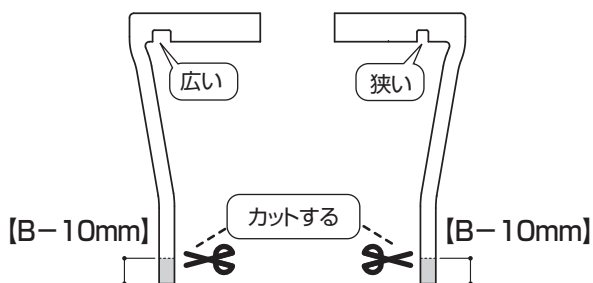
- ① 便器上端(リム面)と前板までの寸法 B を測る



- ② カットする

【はかま目地材 L(表面)】

【はかま目地材 R(表面)】



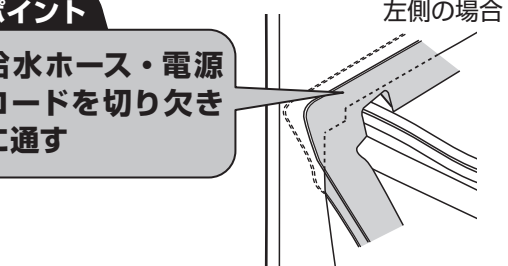
- ② 「はかま目地材 L」を前板に挟み込む

- ① 目地材をコーナー部に入れる

ポイント

給水ホース・電源コードを切り欠きに通す

※図はコンセントが左側の場合

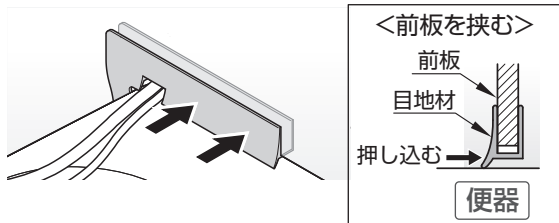


裏側にきちんと入れ込む

目地材が折れ曲がらないこと

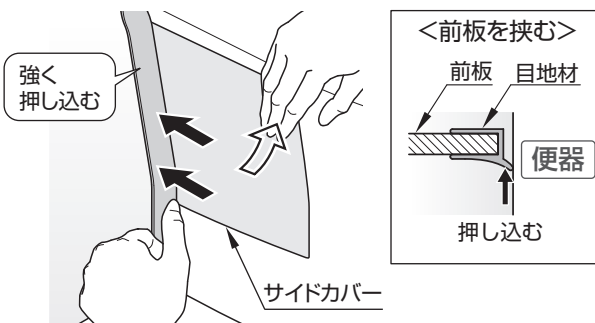


- ② コーナー部から順に押し込む



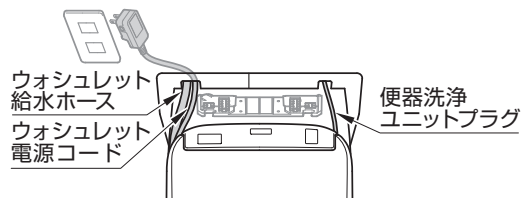
- ② 「はかま目地材 L」を前板に挟み込む(つづき)

- ③ サイドカバーを手前・上方に引き上げながら、上から順に押し込む

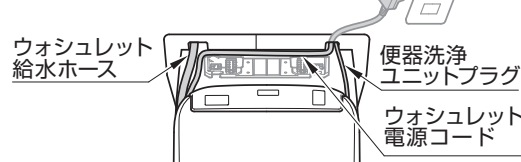


ホース・コードの取り回し

【コンセントが左側の場合】



【コンセントが右側の場合】



- ③ 同じ要領で「はかま目地材 R」を前板に挟み込む

ポイント

仕上がりは浮き・すき間がないこと

目地材が浮いている場合は、いったん外し、逆側に曲げて矯正する

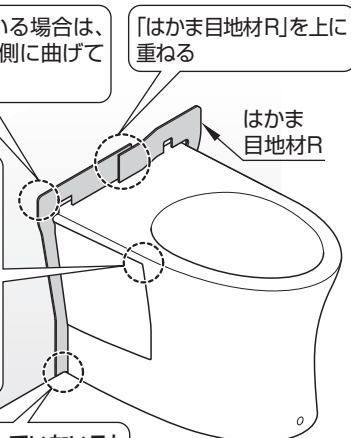
「はかま目地材 R」を上重ねる

サイドカバーと便器の間にすき間がないこと

ぐらつかないこと

サイドカバーが確実にハマっていないと目地材が外れることがあります

目地材が床に当たっていないこと
目地材が当たっていると浮き・すき間ができます



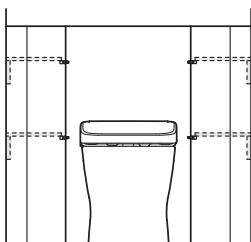
8 棚板・扉

「大便器キャビネット部材、扉セット」の部材を使用

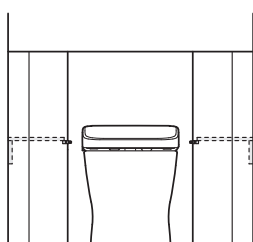
1 棚を取り付ける

棚板設置場所

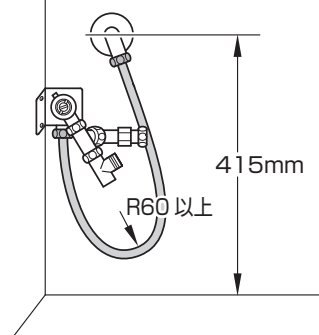
【まるごと収納タイプ】



【収納タイプ/スリム収納タイプ】



※給水位置が床仕上り面から415mm以上の場合は、棚板を取り付けることができません。



※図はスリム収納タイプの場合

- ① 棚をW-30mmの幅にカットする

カット

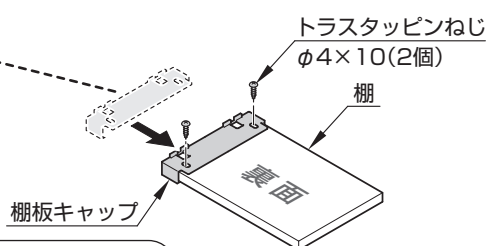
W-30mm

木口貼り

- ② 棚板キャップをかぶせ同梱のねじで取り付ける

ポイント

ねじは手締めで行うこと

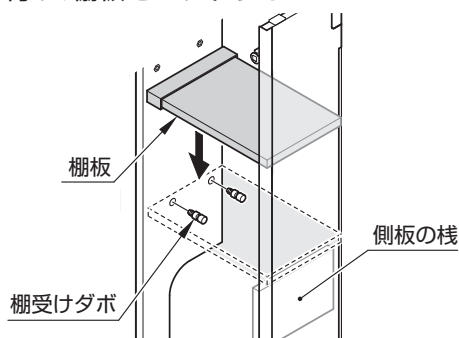


棚板キャップ

棚

裏面

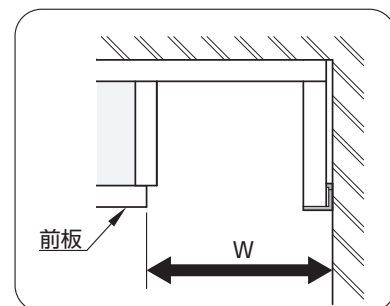
- ③ コアキャビネットの側板に棚受ダボを取り付け、棚板をセットする



棚板

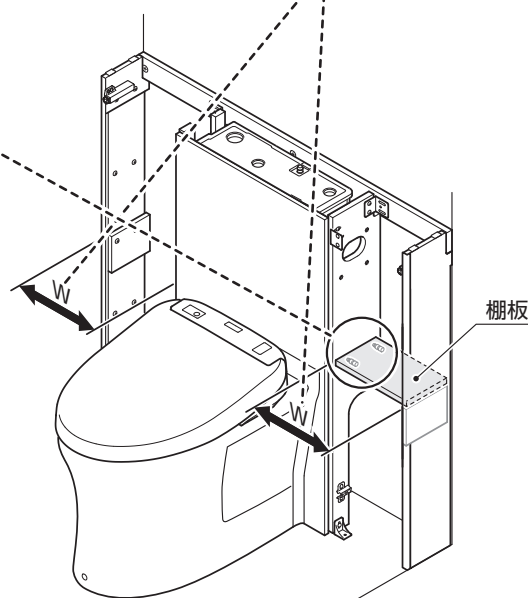
棚受けダボ

側板の棧



前板

W

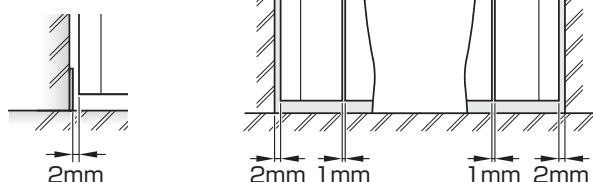


棚板

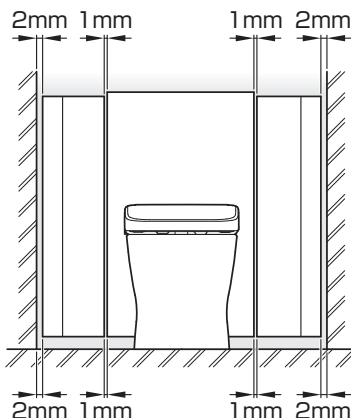
2 扉を組み立てる

仕上がり状態 (目安)

【幅木がある場合】



2mm



2mm

1mm

1mm

2mm

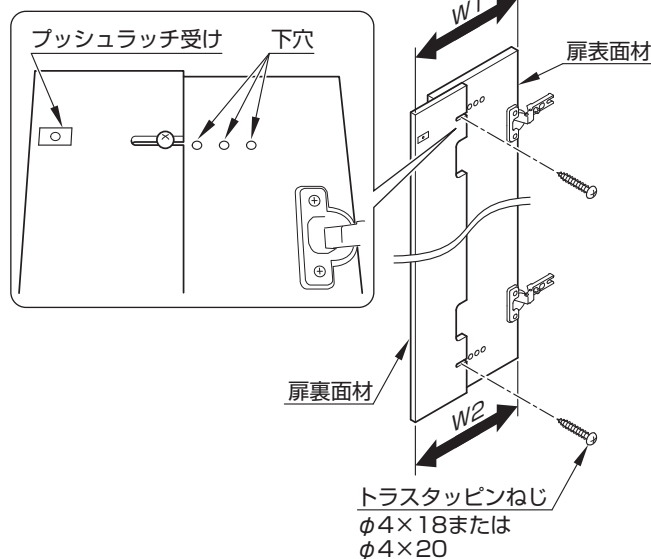
8 棚板・扉 (つづき)

- ① 扉表面材と扉裏面材を重ね合わせ、W1・W2・W3・W4が【W-3mm】になるように調整する。
下穴にねじで固定する
※養生シートがある場合は、取り付け前にシートをはがしてください。

ポイント

- ・幅木がある場合は、幅木の厚さを引いてください。W-(3mm+幅木の厚さ)
- ・ねじは手締めで行うこと
ねじを回しすぎると、ねじがきかなくなります。

※図は右扉セットの場合



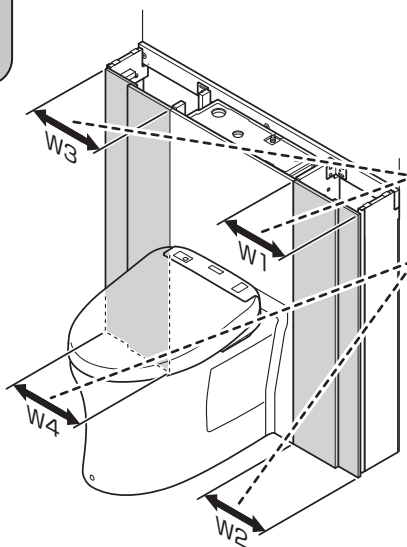
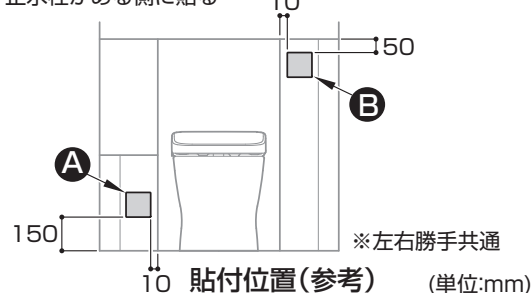
ポイント

真ん中のねじは「5 部材の取り付け②」で固定する

トラスタッピンねじφ4×18またはφ4×20(1本)は「5 部材の取り付け②」で使用します。
紛失しないようにしてください。

- ② 貼付面は水拭きし、乾燥後にラベルを貼り付ける

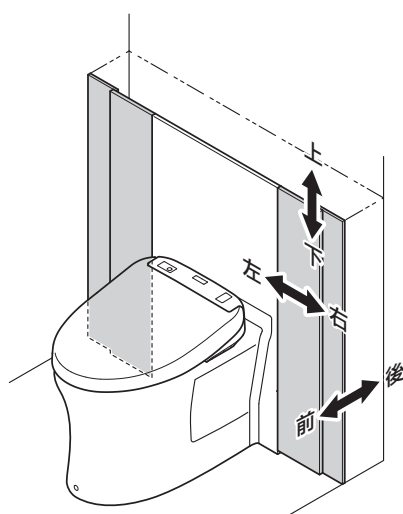
- A** 止水栓ラベル (GH04207V) **B** 便器洗浄ラベル (GH04208V)
止水栓がある側に貼る



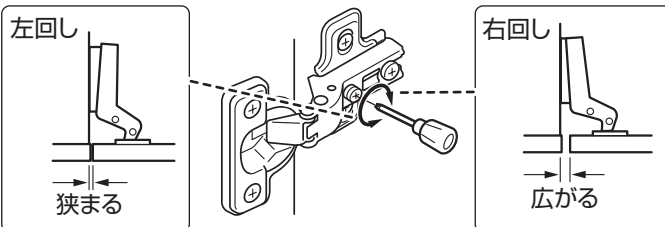
- ③ 扉を側板の丁番に組み付けて、左右のすき間を確認する

3 部材の取り付け①

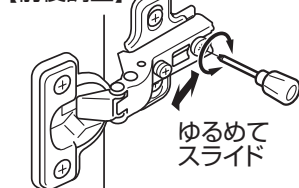
扉の調整方法



【左右調整】



【前後調整】



【上下調整】



※プッシュラッチ部も前後調整することができます。

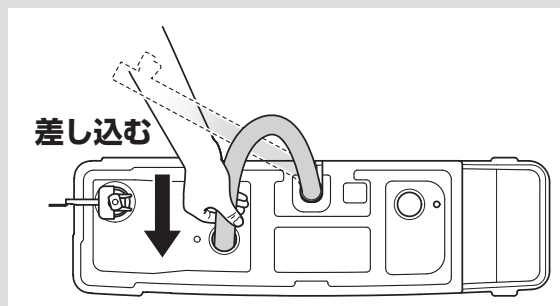


9 大便器の作動確認

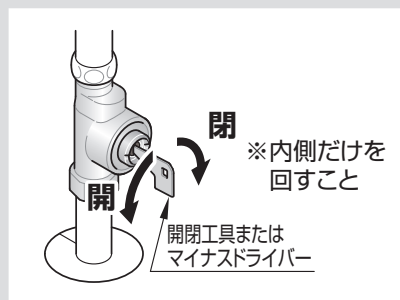
● 試運転をする前に

①【手洗器ありの場合】

手洗器給水ホースをタンクに差し込む。



② 試運転をする前に、止水栓を開けてください。



● 確認後は、止水栓を閉めてください。

1 ウォシュレット

ウォシュレットに同梱されている施工説明書の手順に従って、吐水確認をする。

2 大便器

2～3度洗浄させて、便器・タンク内外への水漏れなどの異常がないことを確認する。

3 洗浄レバー

① 手動で確認する

洗浄レバーを手で操作して、便器洗浄が大・小洗浄とも正常に行われることを確認する。
洗浄レバーが、スムーズに回転することを確認する。
(キャビネットとの干渉がないこと)

② リモコンに流すボタンが取り付けられているか確認する

流すボタンの取付方法は流すボタン取付説明書を参照してください。

③ リモコンで便器洗浄を確認する

「大」・「小」・「eco小」のボタンを押して、それぞれ「大」・「小」・「eco小」の洗浄を行うことを確認する。

※連続して押すと作動しません

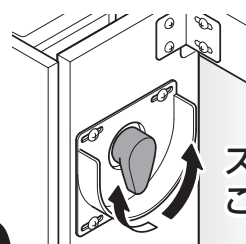
約10秒たってからもう一度ボタンを押してください

流す大 → 洗浄レバーが大側に回転する

流す小 → 洗浄レバーが小側に回転する

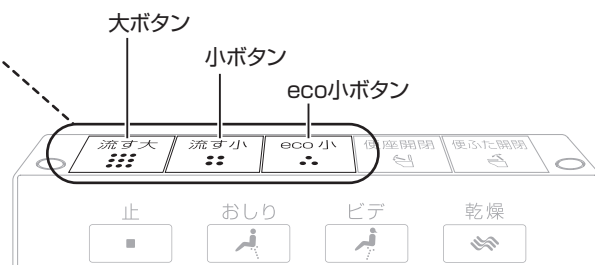
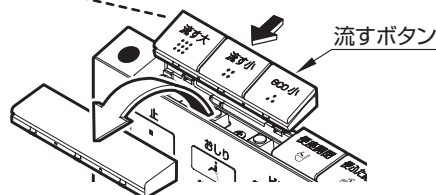
eco小 → 洗浄レバーが小側に回転し
約3秒間停止後戻る

重要



注意

正常に作動しない場合、洗浄レバーカバーの
取り付け位置を確認してください。



※機種によっては、ボタンのレイアウトやリモコンの
デザインなどが異なります。

試運転が完了したら「運転入/切」が、「入」になっていることを確認してください。(「入」のときは、「運転ランプ」が点灯します)
「運転入/切」が「切」のときは、電源プラグをコンセントに差し込んでもウォシュレットは作動しません。

※お客様に引き渡すまでに時間があっても「運転入/切」を切らないでください。

4 給・排水の水漏れ確認

2～3度洗浄させて、給水管や排水管の接合部から水漏れなどの異常がないことを確認する。

9 大便器の作動確認 (つづき)

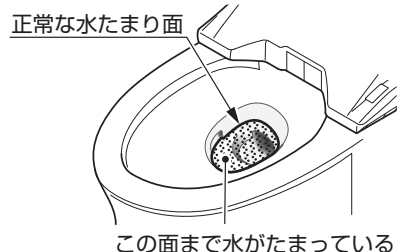
試運転で必ず実施してください

大洗浄をしたあと、水たまり面の状態を確認してください。

正常な状態

設定変更は不要です。

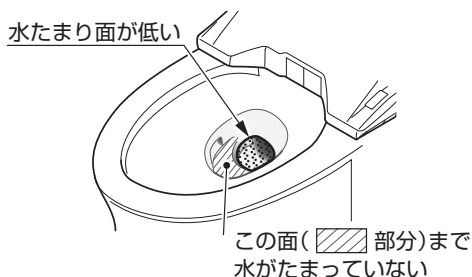
(設定を行うと、洗浄不良になる場合があります。)



水たまり面が低い状態

設定変更を行ってください。

(洗浄水量を変えずに水たまり面を正常な状態にすることができます。)



〈水たまり面の判断に迷ったときは…〉

ペットボトルやバケツなどで徐々に水をたし、水たまり面が上昇しない場合は正常です。

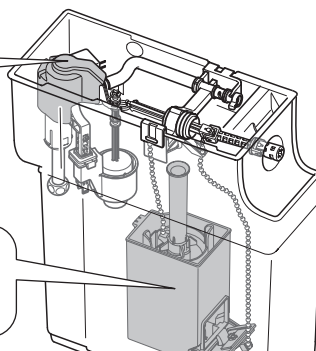
※ 水たまり面が低いと汚物付着の原因になります。

排水管に曲がりが多かったり、通気が不十分だったりすると、水たまり面が低下する場合があります。

タンク内を調整する際のご注意

漏水防止カバーを外さない

制御筒に力を加えない
排水弁が浮いて、水が流れっぱなしになるおそれがあります。

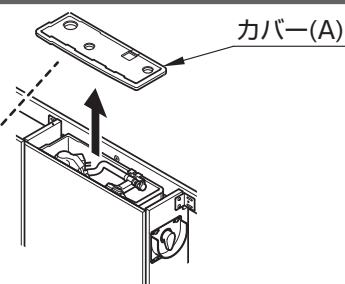


水たまり面が低い場合の対応方法

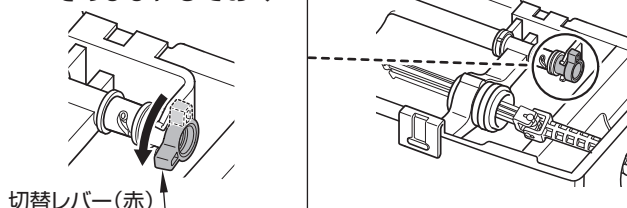
① 止水栓を閉めて
給水を止める



② カバー(A)を外す

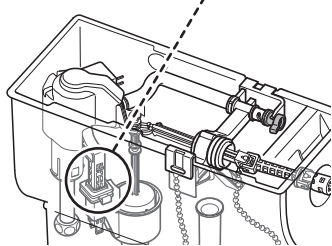


③ 切替レバー(赤)を手前に90°回転させ、そのまましておく

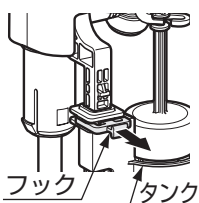


9 大便器の作動確認 (つづき)

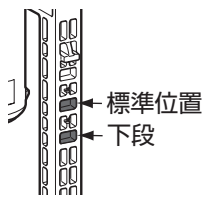
- ④ フックを解除し、ボールタップのタンク取付位置を下段に変更する



- ① フックを解除する



- ②

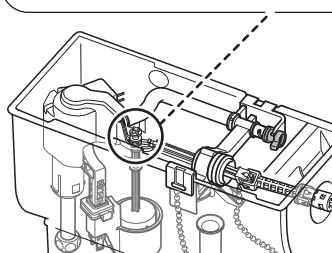


- ③ 下段に下げ、フックを差し込む

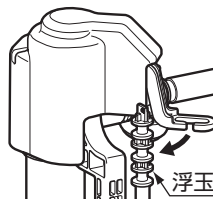


位置を間違えると給水しない、もしくは給水が止まらないことがあります。

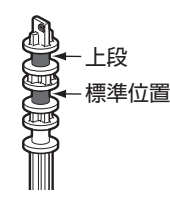
- ⑤ ボールタップの浮玉取付位置を上段の凹部に変更する



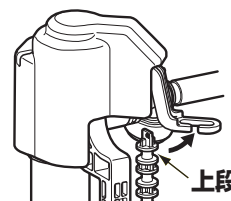
- ① 浮玉を外す



- ②

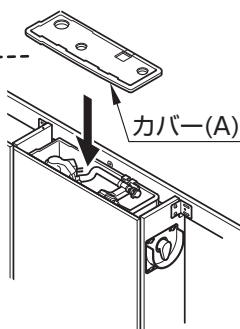


- ③ 上段の凹部を取り付ける



位置を間違えると給水しない、もしくは給水が止まらないことがあります。

- ⑥ カバー(A)を元に戻す



- ⑦ 取り付け完了後の確認

- ・ 止水栓を開け、2～3度洗浄させて、便器・タンク内外への水漏れなどの異常がないことを確認する
- ・ 正常に洗浄するか確認する
- ・ 洗浄終了時、水たまり面が低下していないことを確認する

自治体によって洗浄水量の規制がある場合

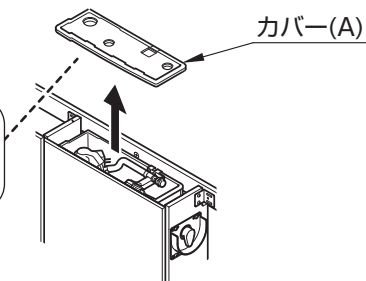
大洗浄4.8L、小洗浄3.6L、eco小洗浄3.4L仕様を「大洗浄6L、小洗浄4.8L、eco小洗浄4.6L」または「大洗浄8L、小洗浄6L、eco小洗浄5.5L」に変更することができます。

大洗浄6L、小洗浄4.8L、eco小洗浄4.6L

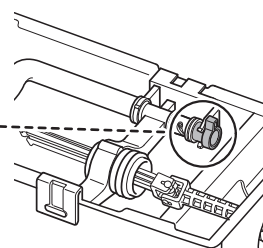
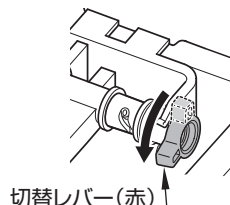
- ① 止水栓を閉めて給水を止める



- ② カバー(A)を外す

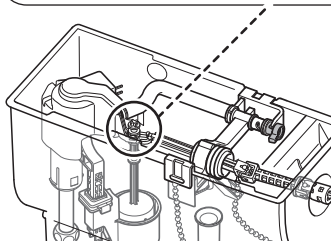


- ③ 切替レバー(赤)を手前に90°回転させ、そのままにしておく

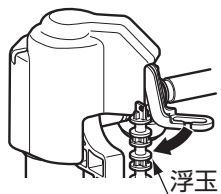


9 大便器の作動確認 (つづき)

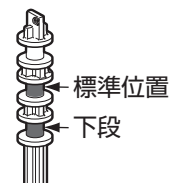
- ④ ボールタップの浮玉取付位置を、下段の凹部に変更する



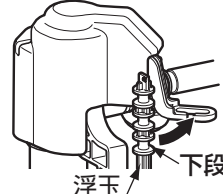
- ① 浮玉を外す



- ②

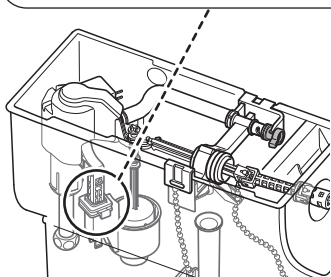


- ③ 下段の凹部を取り付ける

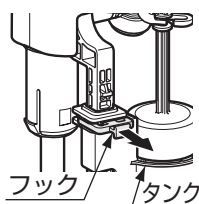


位置を間違えると給水しない、もしくは給水が止まらないことがあります。

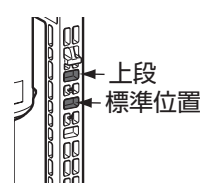
- ⑤ フックを解除し、ボールタップのタンク取付位置を上段に変更する



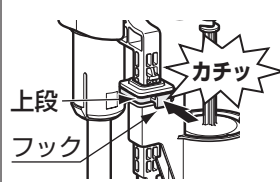
- ① フックを解除する



- ②

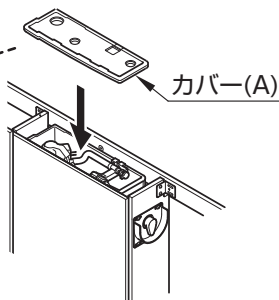


- ③ 上段に上げ、フックを差し込む



位置を間違えると給水しない、もしくは給水が止まらないことがあります。

- ⑥ カバー(A)を元に戻す



- ⑦ 取り付け完了後の確認

- ・ 止水栓を開け、2～3度洗浄させて、便器・タンク内外への水漏れなどの異常がないことを確認する
- ・ 正常に洗浄するか確認する
- ・ 洗浄終了時、水たまり面が低下していないことを確認する

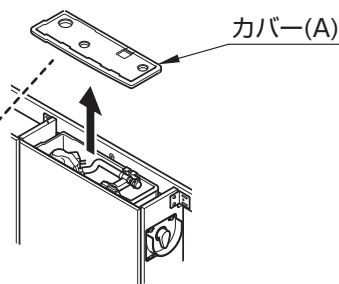
3 部材の取り付け ①

大洗浄8L、小洗浄6L、eco小洗浄5.5L仕様への切替方法

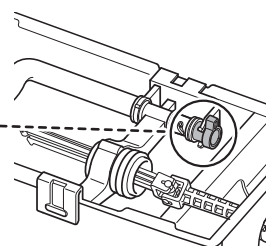
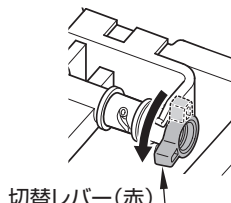
- ① 止水栓を閉めて給水を止める



- ② カバー(A)を外す

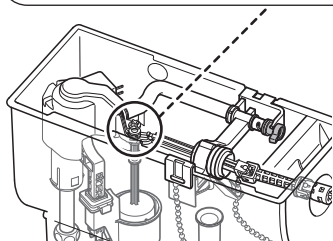


- ③ 切替レバー(赤)を手前に90°回転させ、そのまましておく

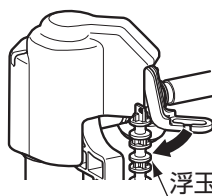


9 大便器の作動確認 (つづき)

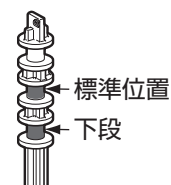
- ④ ボールタップの浮玉取付位置を、下段の凹部に変更する



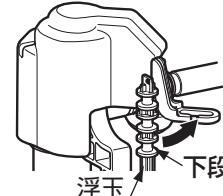
- ① 浮玉を外す



- ②

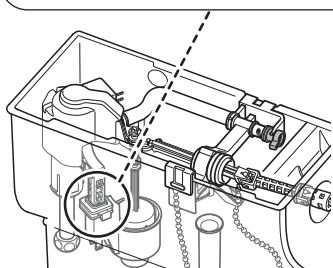


- ③ 下段の凹部を取り付ける

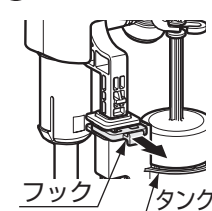


位置を間違えると給水しない、もしくは給水が止まらないことがあります。

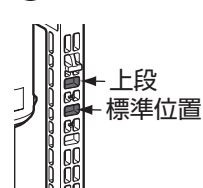
- ⑤ フックを解除し、ボールタップのタンク取付位置を上段に変更する



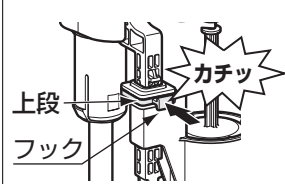
- ① フックを解除する



- ②



- ③ 上段に上げ、フックを差し込む



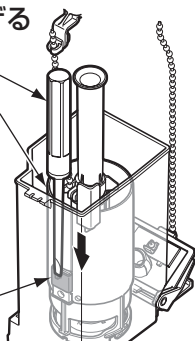
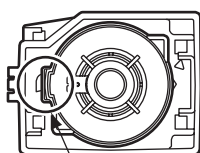
位置を間違えると給水しない、もしくは給水が止まらないことがあります。

- ⑥ 先の長いマイナスドライバーを排水弁の上方から差し込み、制御筒横の切替弁を下げる

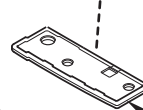
マイナスドライバーなど

制御筒

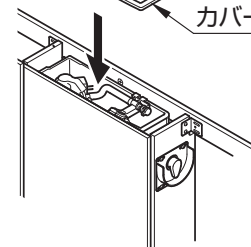
切替弁



- ⑦ カバー(A)を元に戻す



カバー(A)

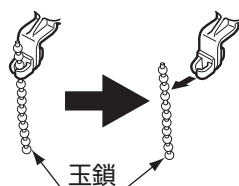


- ⑧ 取り付け完了後の確認

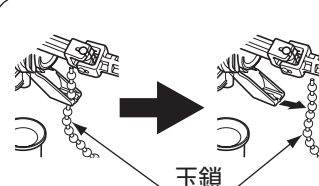
- ・ 止水栓を開け、2～3度洗浄させて、便器・タンク内外への水漏れなどの異常がないことを確認する
- ・ 正常に洗浄するか確認する
- ・ 洗浄終了時、水たまり面が低下していないことを確認する

● 制御筒横の切替弁を下げるができなかった場合

- ① カバー(B)を外す

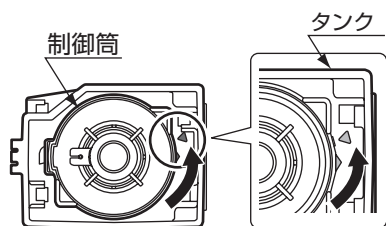


- ② 玉鎖を外す



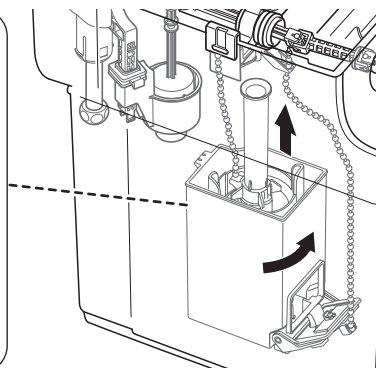
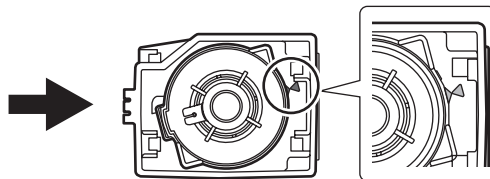
9 大便器の作動確認 (つづき)

- ③ 制御筒を反時計回りに回し外す
制御筒の矢印とタンクの矢印を合わせる

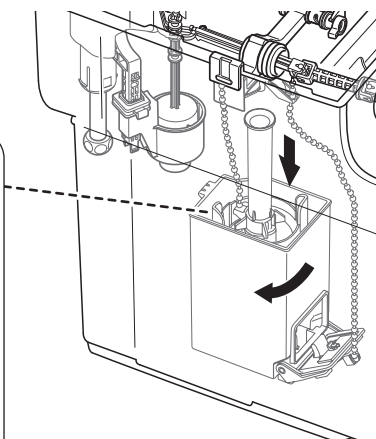
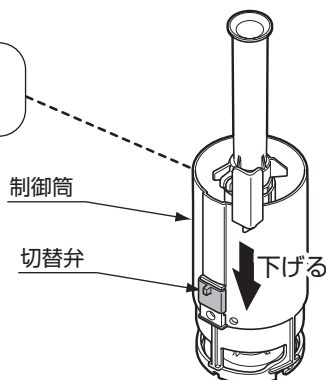


注意

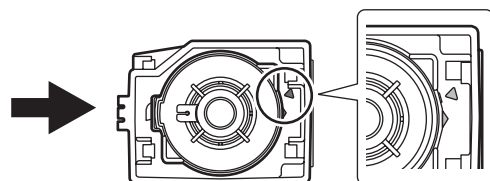
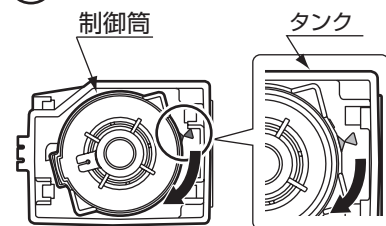
制御筒の取り外し時に樹脂
タンクに傷を付けないこと



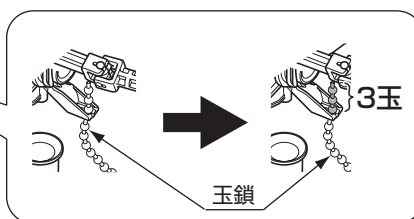
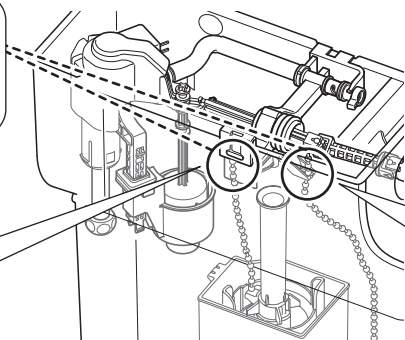
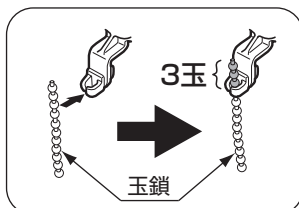
- ④ 制御筒横の切替弁を下げる



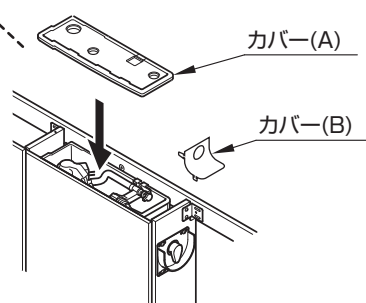
- ⑤ 制御筒を時計回りに回し取り付ける



- ⑥ 玉鎖を3玉余し取り付ける
正しく取り付けないと止水不良
になります



- ⑦ カバー(A)、(B)を元に戻す



- ⑧ 取り付け完了後の確認

- ・ 止水栓を開け、2～3度洗浄させて、便器・タンク内外への水漏れなどの異常がないことを確認する
- ・ 正常に洗浄するか確認する
- ・ 洗浄終了時、水たまり面が低下していないことを確認する

10 流動レバー

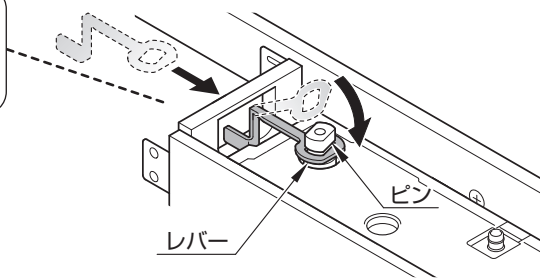


「セットタンク」の部材を使用

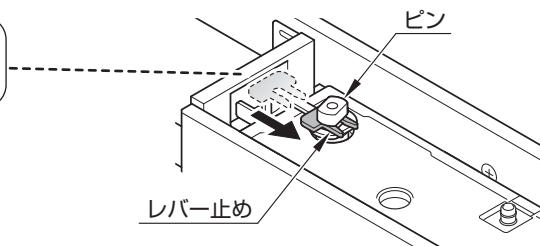


寒冷地の場合

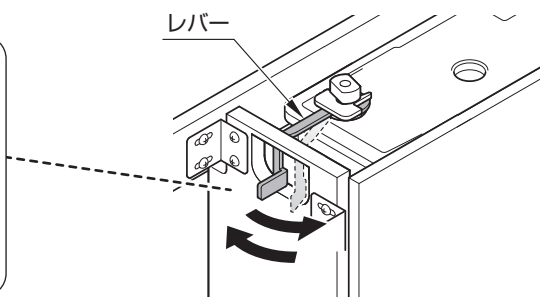
- ① レバーを側板の切欠きから通し、
上からピンに差し込む



- ② レバー止めでピンを挟み込む



- ③ 流動レバーの作動確認
流動レバーを手前に回し、水を流す。
作動確認後は流動レバーを奥壁側に
回し、「閉」の状態になっていることを
確認する。
確認後、止水栓を閉める。



手洗器ありの場合

参照 「手洗器なし」の場合は、P.60を参照してください。

11- 手洗器あり 天板

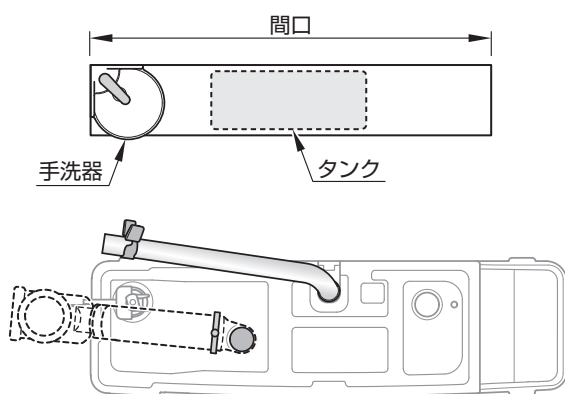
「天板セット」の部材を使用

1 排水セットをセットタンクに取り付ける

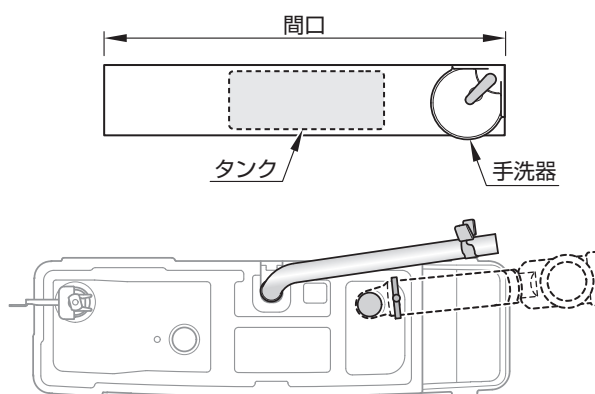
手洗排水セットの接続

間口、左右勝手違いによって、タンクふたの排水穴と、クリップ差込穴に挿入する箇所が異なります。

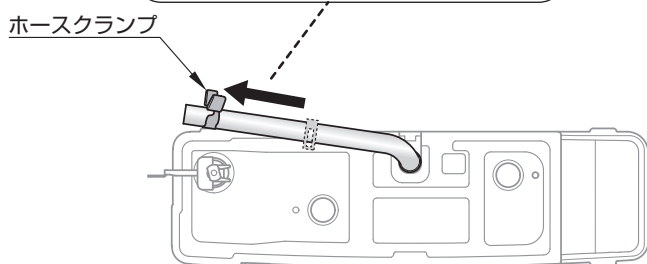
【左勝手】



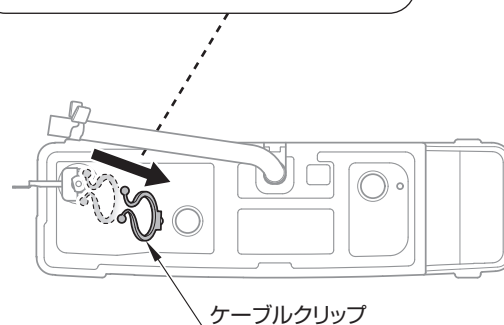
【右勝手】



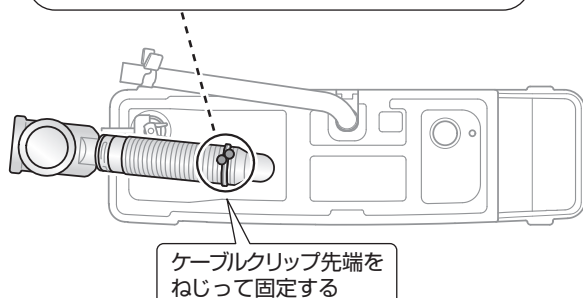
- ① テープ止めされたホースクランプを端によせておく



- ② ケーブルクリップを、クリップ差込穴に差し込む



- ③ ジャバラホースを排水穴に挿入し、ケーブルクリップで固定する



注意



ケーブルクリップを必ず付ける

ジャバラホースがはずれ、水漏れして家財などをぬらす財産損害発生の原因となります。

11- 手洗器あり 天板 (つづき)

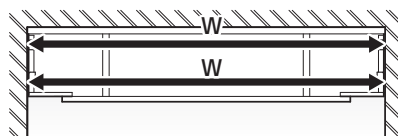
2 天板を加工する

ポイント

チッピングを起こさないようにする
のこぎり：表面を上にしてカット
電動丸のこぎり：裏面を上にしてカット

- ① 奥側と手前の寸法Wを測り、狭い方を基準にして、天板をW-4mmの寸法にカットする

※「間口寸法Wの測定範囲」
(P24)参照



- ② 天板キャップをはめる

天板キャップ

トラスタッピンねじ
φ4×8(2本)

ポイント

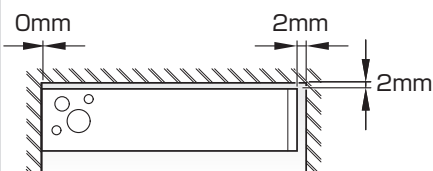
必ず手洗用の開口とは
逆側をカットする

- ③ 天板を仮置きし、左右を調整する
天板キャップを固定する

ポイント

ねじは手締めで行うこと

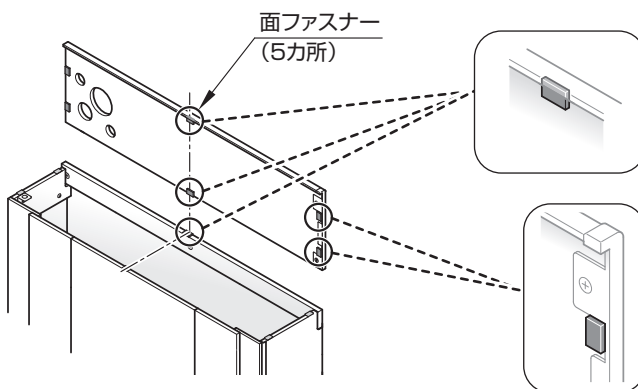
仕上げ状態 (目安)



- ④ 天板裏と横棧に付属の面ファスナーを貼る(5カ所)
※ひろびろ間口タイプの場合:7カ所

注意

- ・面ファスナーの向き(縦横)に注意する
- ・面ファスナーが天板キャップにかからないこと



11- 手洗器あり 天板 (つづき)

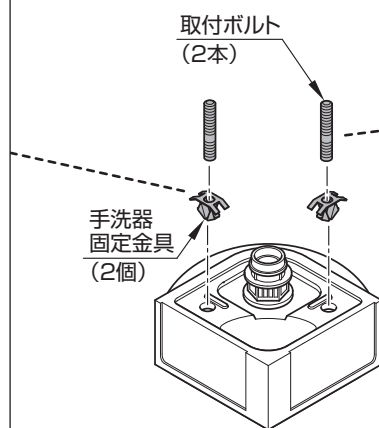
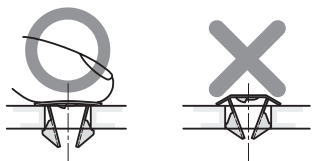
3 手洗器を天板に取り付ける

- ① 手洗器裏面の穴に手洗器固定金具を2個取り付ける

ポイント

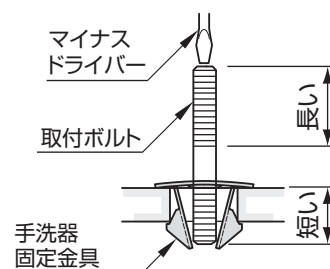
手洗器固定金具は手洗器を平らなところに置き、陶器とのすき間がなくなるまで、しっかり押し込む

押し込みが足りないと、取付ボルトが途中までしか入らず、手洗器が固定できません。

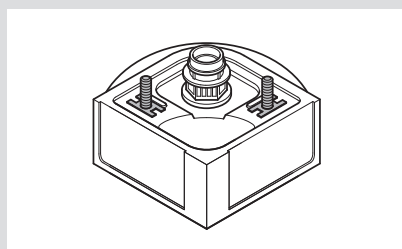


- ② マイナスドライバーで取付ボルトを2本取り付ける

取付ボルトが回らなくなるまで締め付けてください。



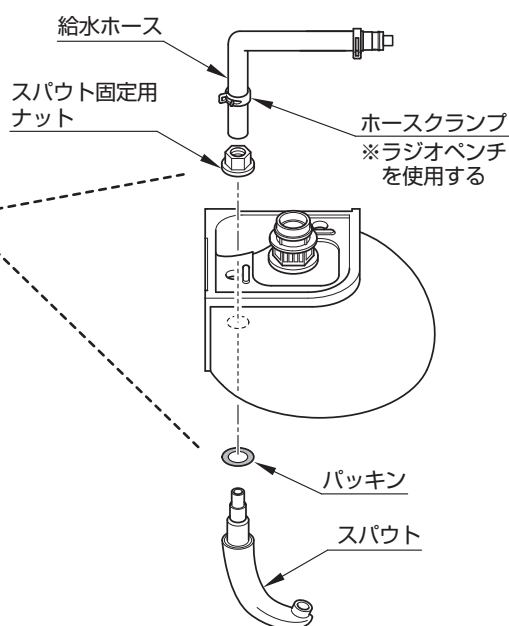
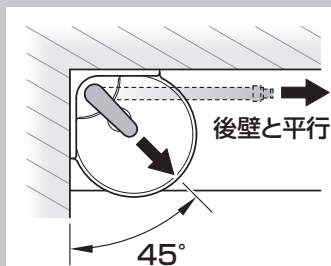
取り付け状態



- ③ 手洗器にスパウト、給水ホースを取り付ける

ポイント

スパウト、給水ホースの取り付け向きに注意

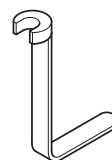


ポイント

手洗器を持つときに、排水金具を持たない

ポイント

TZ工具を使用する



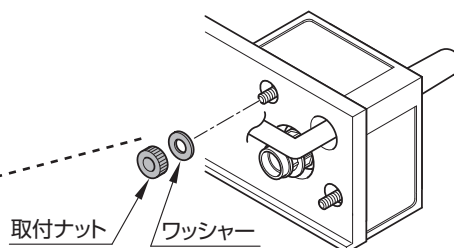
別売品
品番: TZY15N または
TZ15L

注意



給水ホースはスパウトの根元までしっかり差し込む
水漏れして家財などをぬらす
財産損害発生の原因となります。

- ④ 手洗器を天板に仮固定する (1カ所)



ポイント

手締めすること

11- 手洗器あり 天板 (つづき)

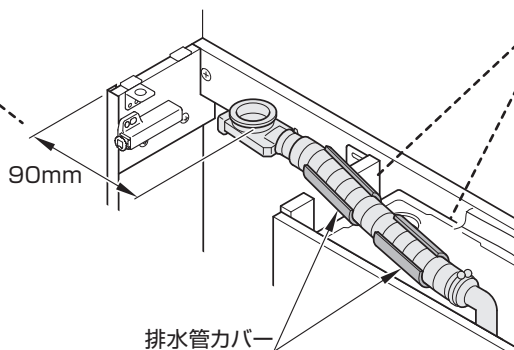
4 天板を大便器キャビネットに取り付ける

- ① ジャバラホースの長さを調整する

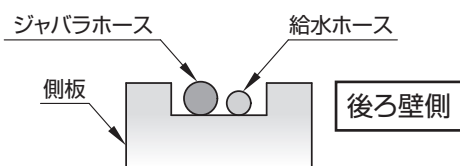
- ② 逆勾配にならないよう、排水管カバーをはめる

ポイント

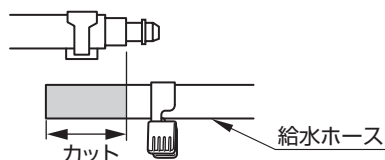
排水管カバーは間口に合わせて1~2個使用してください



- ③ タンクからの給水ホースをコアキャビネットの外へ出しておく
側板の切り欠きにジャバラホース・給水ホースが入るようにする



- ④ 給水ホースを適切な長さに切断する

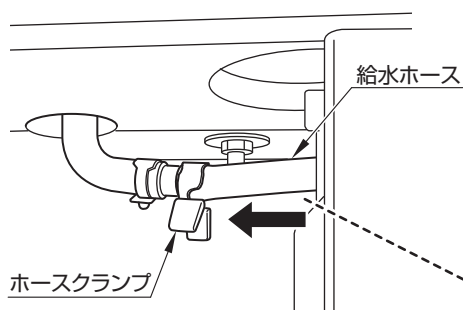
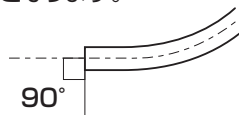


注意

- 給水ホースは、切断面が垂直になるように切断する
 - 給水ホース接続後、軽く引っ張り抜けないことを確認する
- 水漏れして家財などをぬらす財産損害発生の原因となります。



必ず守る



ポイント

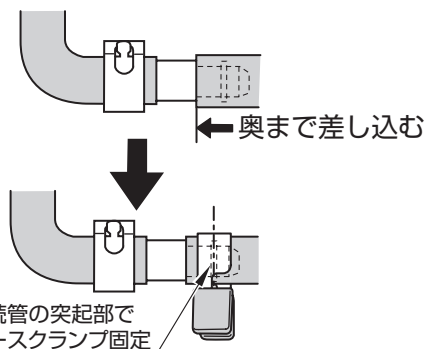
給水ホースがたるまないようにする



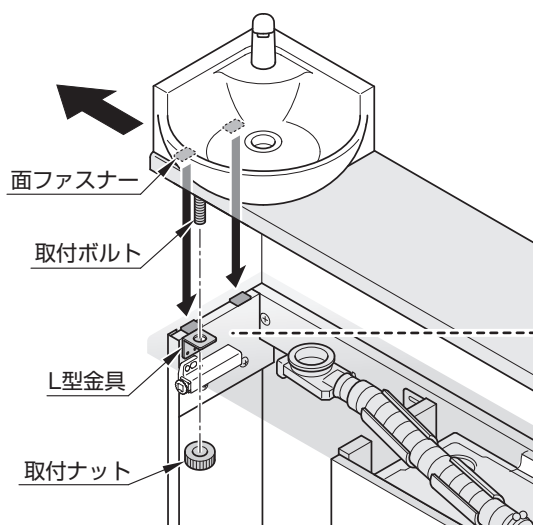
水抜きの場合は必ず実施する

タンクからの給水ホースが長い場合、手洗器給水ホース接続部の接続代を確保してカットし、給水ホースがたるまないようにする

- ⑤ 給水ホースを接続する



11- 手洗器あり 天板 (つづき)



- ⑥ 天板をキャビネットに固定する
※取付ボルトをL型金具の穴に通し、
取付ナットで締め付ける

ポイント

面ファスナーとしっかりかみ合うように押し込む

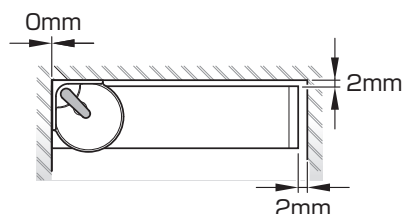
上から強く押さえ側板、前板、コアキャビネットについている面ファスナーとしっかりかみ合うように押し込む。

- ⑦ 手洗器を後壁・横壁に押し当て、
本固定する

注意

手洗器周りにはシール剤を塗布しない

仕上げ状態 (目安)



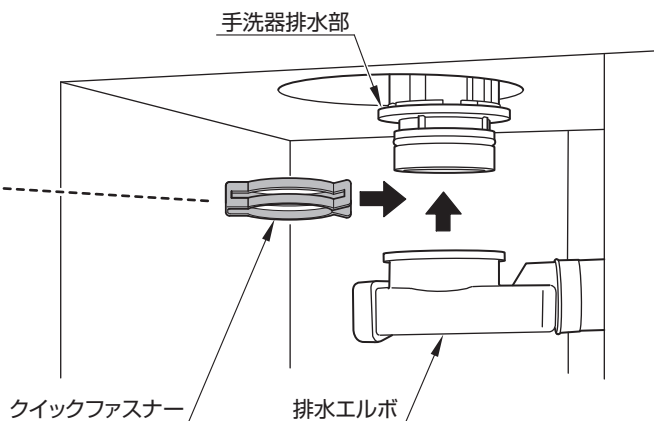
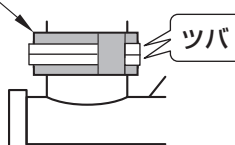
- ⑧ 手洗排水部に排水エルボを取り付け、
クイックファスナーにて固定する

注意

クイックファスナーの全周にツバが掛かっていることを確認する
クイックファスナーがスムーズに1回転することを確認する
水漏れして家財などをぬらす財産損害発生の原因となります。

必ず守る

クイック
ファスナー



手洗器なしの場合

参照 「手洗器あり」の場合は、P.55を参照してください。

11- 手洗器なし 天板

☞ 「天板セット、大便器キャビネット部材」の部材を使用

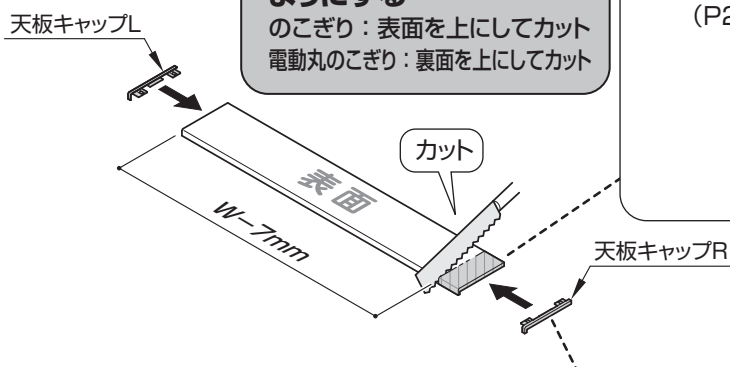
まるごと収納タイプの場合

1 天板を加工する

ポイント

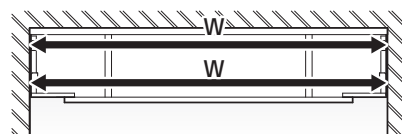
チッピングを起こさないようにする

のこぎり：表面を上にしてカット
電動丸のこぎり：裏面を上にしてカット



① 奥側と手前の寸法Wを測り、狭い方を基準にして、天板をW-7mmの寸法にカットする

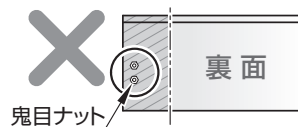
※「間口寸法Wの測定範囲」(P24)参照



② 天板キャップをはめる
(ここではねじ固定しない)

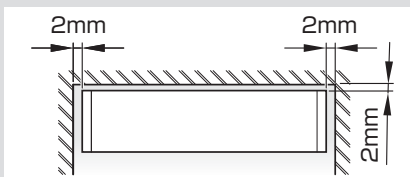
ポイント

まるごと収納タイプの場合、カットする位置に注意する

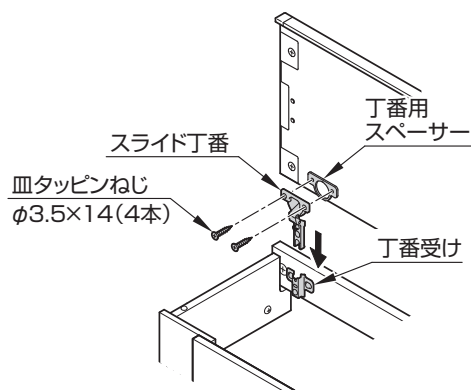


2 天板を取り付ける

仕上げ状態 (目安)



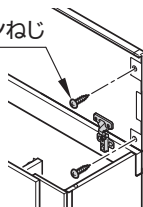
① 丁番用スペーサー・スライド丁番を同梱のねじで天板に取り付ける



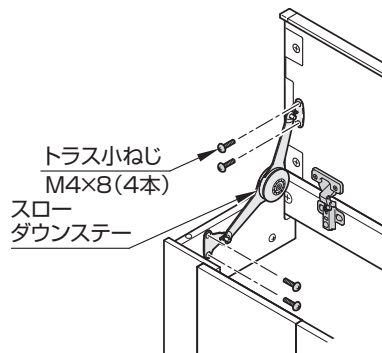
② 天板を横横に取り付ける

③ 天板キャップを左右調整し、ねじで固定する

トラスタッピンねじ
φ4×8(4本)



④ スローダウンステーを同梱のねじで取り付ける



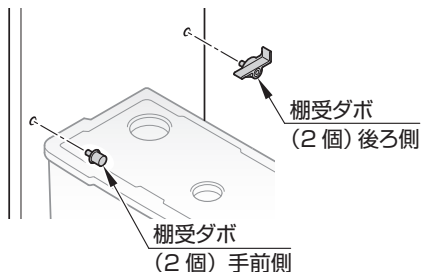
ポイント

- ・ねじは手締めで行うこと
- ・天板の両端が壁をこすらないこと
- ・スローダウンステーが側板と干渉しないこと

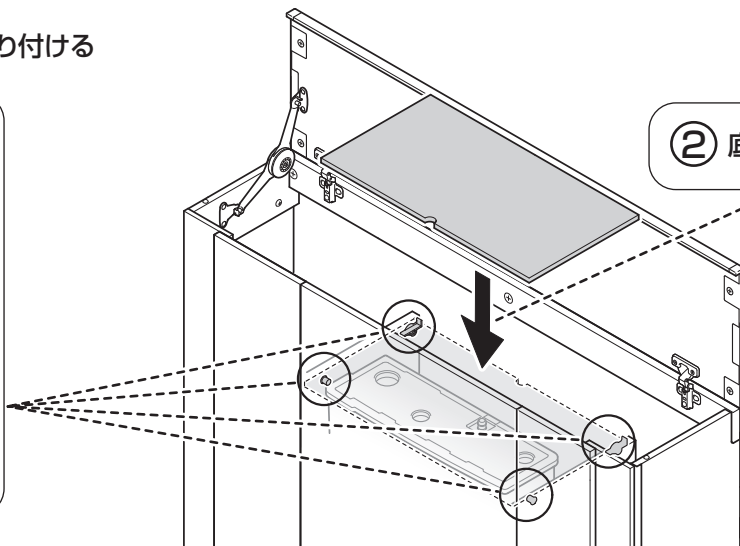
11- 手洗器なし 天板 (つづき)

3 タンク上収納底板を取り付ける

- ① コアキャビネットの側板に棚受ダボを取り付ける

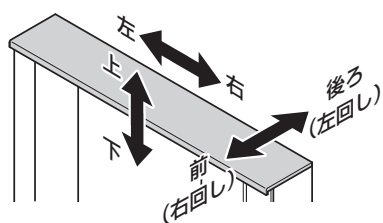


- ② 底板をのせる

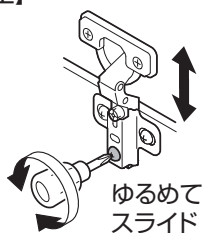


3 天板の調整

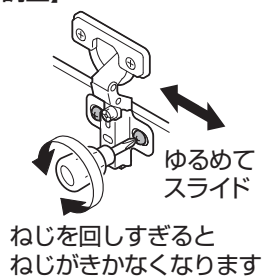
スライド丁番



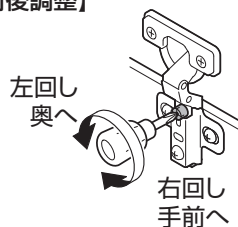
【上下調整】



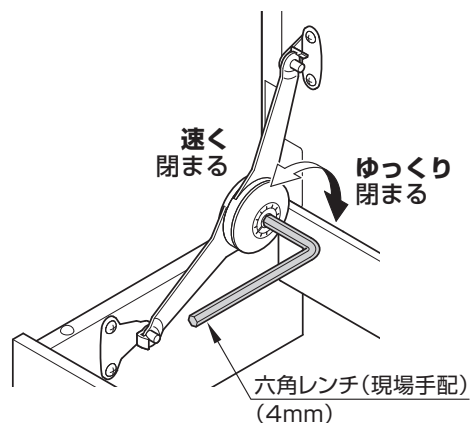
【左右調整】



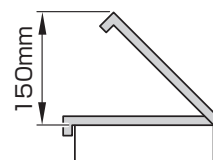
【前後調整】



スローダウンスター



スローダウンスターを調整する
前板上端150mmの高さから自然
に閉じ始める固さに調整する



3 部材の取り付け①

手洗なし

11- 手洗器なし 天板 (つづき)

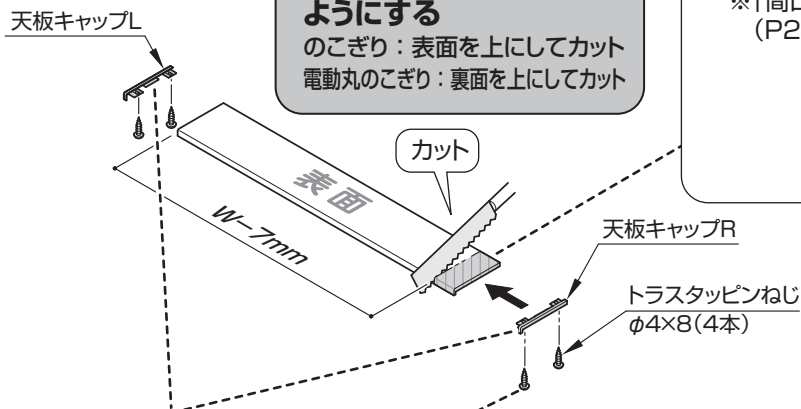
スリム収納タイプの場合

1 天板を加工する

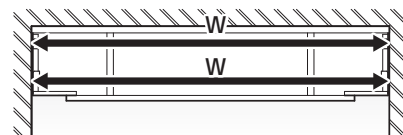
ポイント

チッピングを起こさないようにする

のこぎり：表面を上にしてカット
電動丸のこぎり：裏面を上にしてカット



- ① 奥側と手前の寸法Wを測り、狭い方を基準にして、天板をW-7mmの寸法にカットする
※「間口寸法Wの測定範囲」(P24)参照



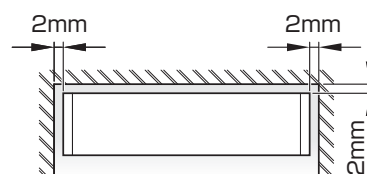
- ② 天板キャップをはめる

- ③ 天板を仮置きし、左右を調整し、天板キャップをねじで固定する

ポイント

ねじは手締めで行うこと

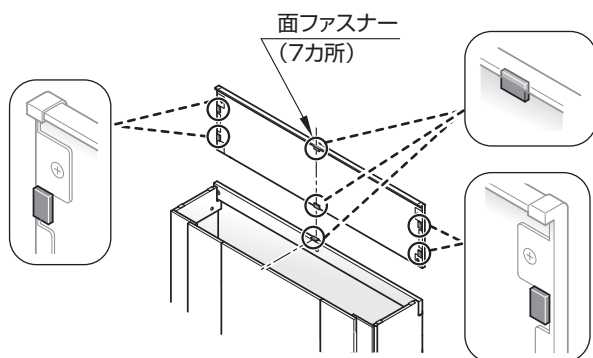
仕上げ状態 (目安)



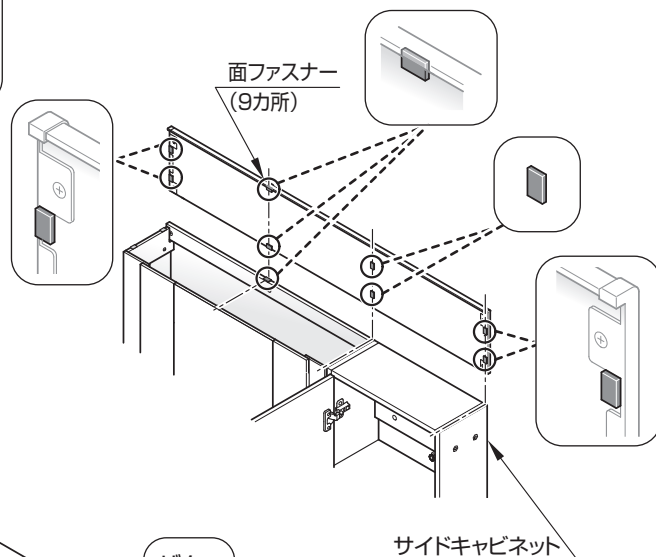
- ④ 天板裏と横棧に付属の面ファスナーを貼る(7カ所)
※ひろびろ間口タイプの場合:9カ所

注意

- ・面ファスナーの向き(縦横)に注意する
- ・面ファスナーが天板キャップにかからないこと



【ひろびろ間口タイプの場合】



2 天板を取り付ける

天板をキャビネットに固定する

ポイント

面ファスナーとしっかりかみ合うように押し込む

上から強く押さえ側板、前板、コアキャビネットについている面ファスナーとしっかりかみ合うように押し込む。



注意

シール剤は打たない

点検・洗浄レバーの操作などで開けることがあります。

4 器具類の取り付け

1 リモコン

👉「ウォシュレット」の部材を使用

参照 詳しくは、ウォシュレットの施工説明書を参照してください。

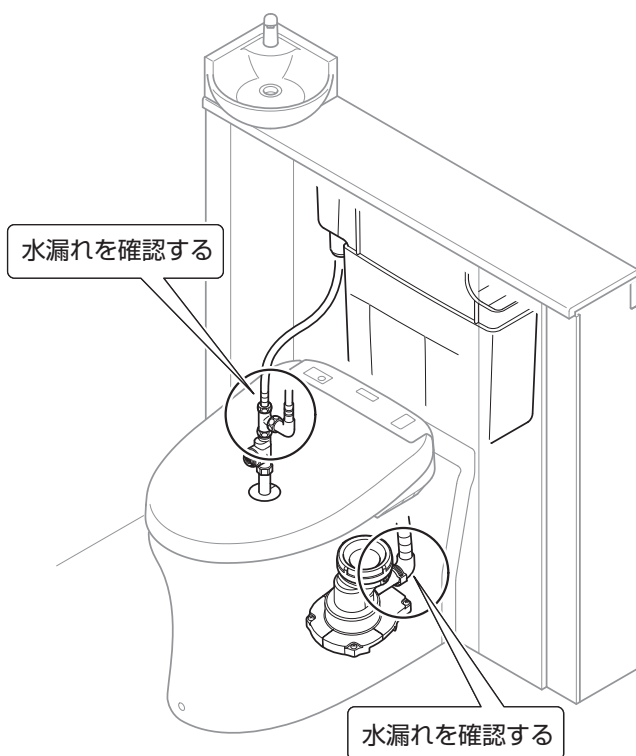
5 部材の取り付け②

1 リモコンの作動確認

正常に便器洗浄するか確認する。詳しくは本書48ページを参照してください。

2 給・排水の水漏れ確認

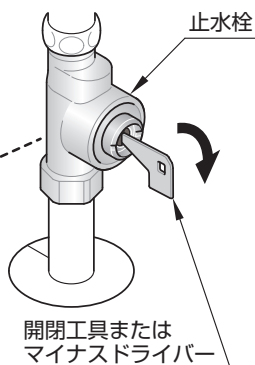
2～3度洗浄させて、給水管や排水管の接合部から水漏れなどの異常がないことを確認する。



3 給水フィルターの清掃

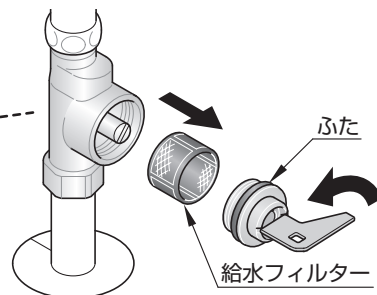
① 止水栓を閉める

※内側だけを回すこと



② ふたを開け、給水フィルターを取り外す

※外側だけを回すこと



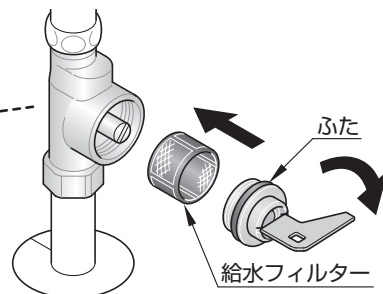
③ 給水フィルターの清掃を行う

ポイント

給水フィルターの
清掃は必ず実施する



④ 給水フィルターを元の位置に取り付け、ふたを開閉工具で締め付ける



4 シリコン系シール剤の塗布

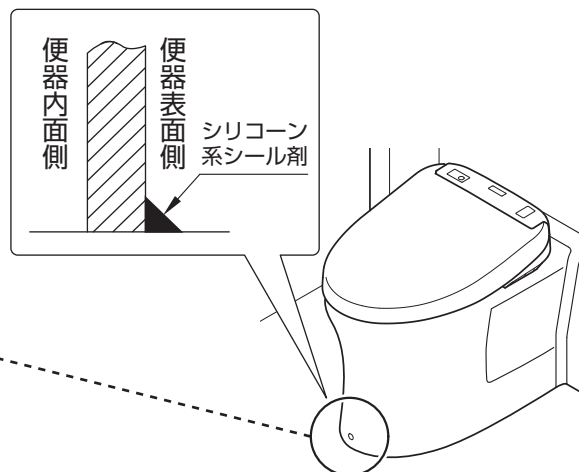
【大便器】

便器床接地部周囲に防カビ性の透明シリコン系シール剤を塗布する

水や小水の浸入を防止することをおすすめします。

トイレ床材に防水加工がされていないフローリング(木質系)を使用すると、こぼれた小水や結露水等が便器と床材のすき間に入り込み、床シミが発生することがありますので、おすすめできません。

フローリング(木質系)を使用される場合は、便器袴下部周囲に防カビ性の透明シリコン系シール剤を塗布することをおすすめします。



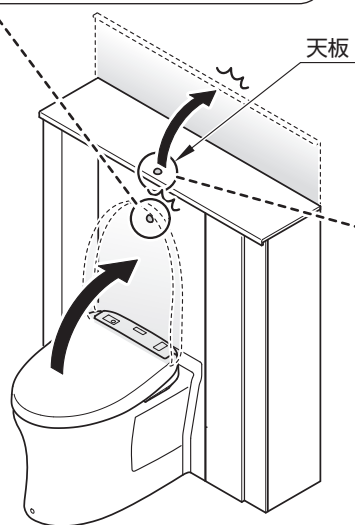
※手洗器と壁の間は、シリコン系シール剤を塗布しないでください。

※TOTOおすすめシリコン系シール剤(別途手配) メジシール(クリア) : YG903S

5 クッションの貼り付け

ウォシュレットに同梱されています。

- ・まるごと収納タイプ：前板
- ・収納タイプ/スリム収納タイプ：天板前面



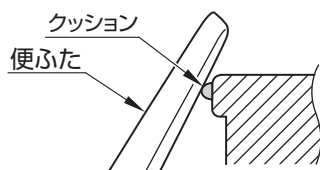
施工説明書に同梱されています。

天板を開けた時、壁と当たる場合は、付属のクッションを貼り付けてください。

※お使いにならない場合は、取扱説明書と一緒にお客様に渡してください。

ポイント

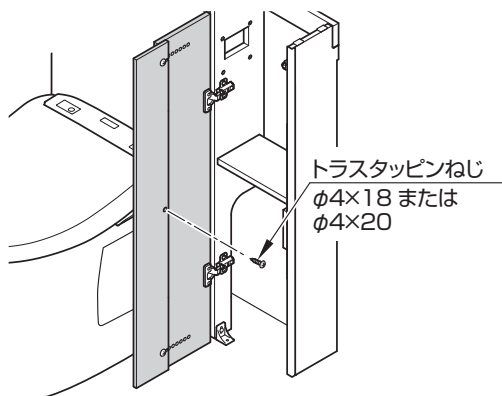
クッションに便ふたが当たることを確認する



貼付面は水拭きし、乾燥後貼り付ける

6 扉の本固定と調整

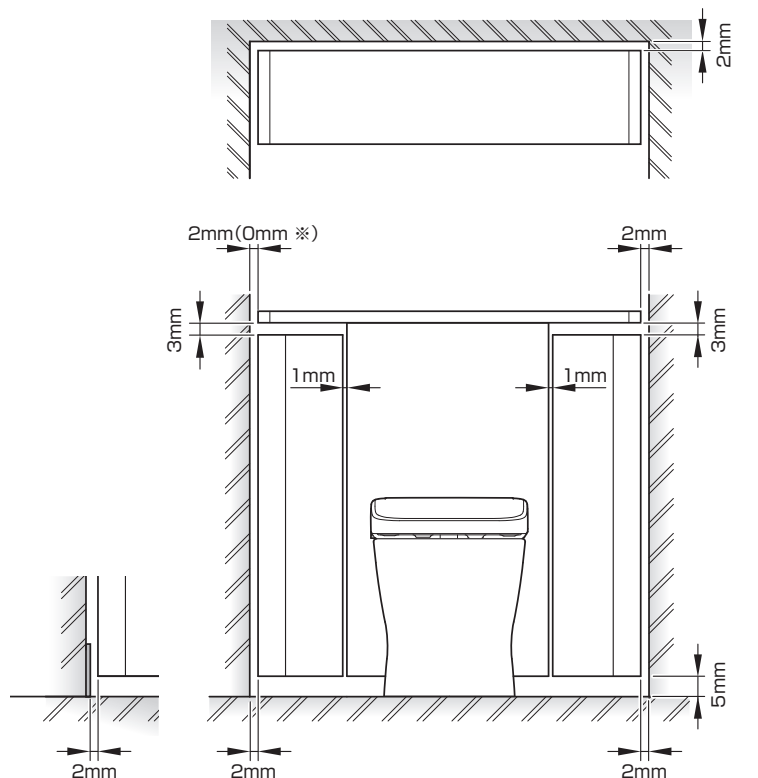
1 扉を本固定する



ポイント

ねじは手締めで行うこと

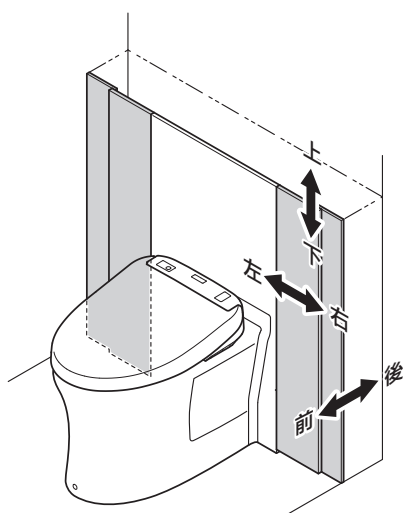
仕上げ状態 (目安)



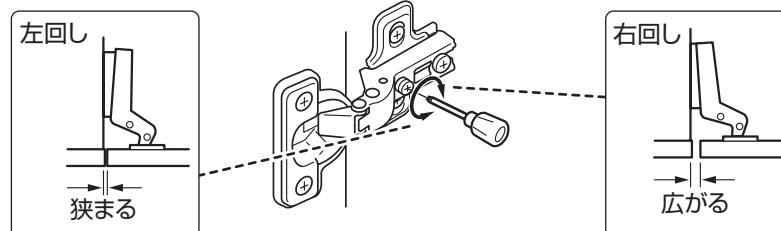
【幅木がある場合】

※手洗器ありの場合

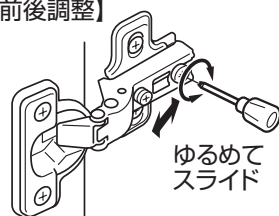
扉の調整方法



【左右調整】



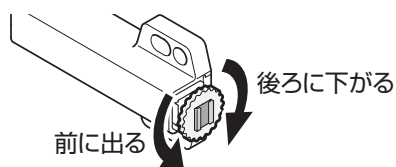
【前後調整】



【上下調整】



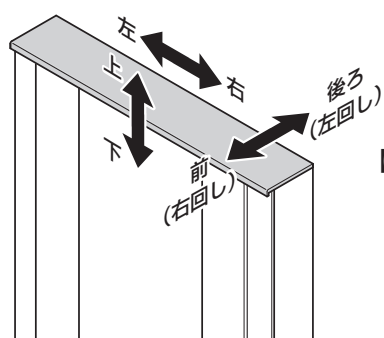
※プッシュラッチ部も前後調整することができます。



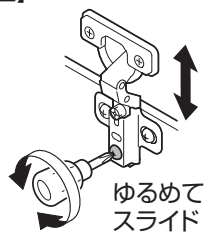
6 扉の本固定と調整 (つづき)

天板の調整方法

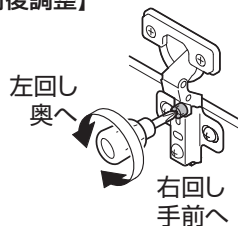
スライド丁番



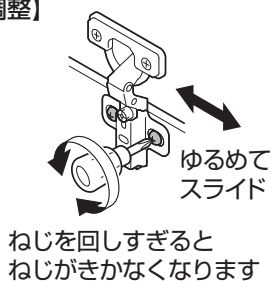
【上下調整】



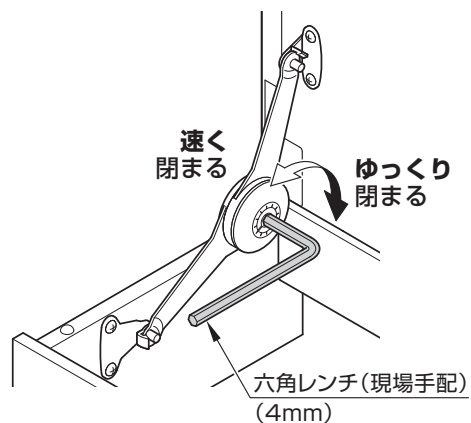
【前後調整】



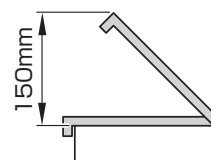
【左右調整】



スローダウンステー



スローダウンステーを調整する
前板上端150mmの高さから自然
に閉じ始める固さに調整する



工事店様へ

このたびはレストパルを施工いただき、ありがとうございました。

UGX1062Z2

